

教 育 要 項

—— 履修の手引き ——

2010 年 4 月～2011 年 3 月

第 1 学年～第 6 学年

東京医科歯科大学医学部医学科

目 次

医学部医学科カリキュラム構成図	1
授 業 計 画 表	2
授 業 時 間 割	3

〔授業概要〕

第1～2学年

MIC (Medical Introductory Course) とは	13
医学の展望・多様な医師像 (P/D Course part1)	14
医の原則 (P/D Course part2A 社会が医師に求めているもの)	17
医の原則 (P/D Course part2B コミュニケーションⅠ)	19
医の原則 (P/D Course part2B コミュニケーションⅠ)	20
医 の 倫 理	23
国 際 社 会 と 医 療	26
遺 伝 子 と 生 命	28
医 療 統 計 Ⅰ ・ Ⅱ	30
医 療 倫 理 観 実 践 論	32
人 体 構 造 総 論 Ⅰ ・ Ⅲ	35
人 体 発 生 学 (人 体 構 造 総 論 Ⅱ)	39
細胞生物学Ⅰ (細胞の構造Ⅰ)	42
細胞生物学Ⅱ (細胞の機能)	45
組織・細胞の構造 (細胞の構造Ⅱ)	47
医 学 英 語 Ⅰ	49
免 疫 Ⅰ ・ Ⅱ	53
神 經 科 学	57
生 理 学 導 入	60

第3学年

腫 瘍 学	61
神 經 科 学	63
感 染	68
循 環 器 学	72
呼 吸 器	75
腎 ・ 体 液 制 御	76
生殖・発達・加齢	78

内 分 泌 代 謝	81
社 会 医 学	84
人 体 解 剖 学	88
組 織 学	96
生 理 学	99
生 化 学	103
薬 理 学	105
病 理 学 総 論	108
衛 生 学	110
医 動 物 学	113
法 医 学	116
医 事 法 学	119
膠原病・リウマチ学	122
医 学 英 語 II	125
東 洋 医 学 (基礎)	128

第4学年

医 学 英 語 II	131
病 理 学 実 習	134
神 經 科 学 (臨床)	136
消 化 器	139
血 液	141
公 衆 衛 生 学	144
老 年 病 学	148
神 經 精 神 医 学	150
外 科 学	153
整 形 外 科 学	156
皮 膚 科 学	159
泌 尿 器 科 学	162
眼 科 学	166
耳 鼻 咽 喉 科 学	168
放 射 線 医 学	171
産 科 婦 人 科 学	174
麻 醉 ・ 蘇 生 学	177
口 腔 外 科 学	179
救 急 医 学	181
形 成 外 科 学	184

頭 頸 部 外 科 学	187
心療・ターミナル医学.....	189
臨 床 検 査 医 学	192

第5学年

東 洋 医 学	195
先 端 医 学	195
基礎臨床総合講義	195

学 生 周 知 事 項	197
東京医科歯科大学医学部試験規程.....	200
カ レ ン ダ ー	204
湯島キャンパス案内	205

平成22年度医学部医学科授業計画

第3学年			第4学年			第5学年			第6学年		
区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間
前期授業	平成22年 16W	4. 5(月) ～ 7. 23(金)	前期授業	平成22年 17W	4. 5(月) ～ 7. 30(金)	臨床実習 I	12W	平成22年 4. 5(月) ～ 6. 25(金)			
夏季休業		7. 26(月) ～ 8. 27(金)	夏季休業		8. 2(月) ～ 8. 27(金)	CBT 試験		6. 28(月)	臨床実習Ⅲ		平成22年 4. 5(月) ～ 7. 30(金)
前期授業	5W	8. 30(月) ～ 9. 30(木)	前期授業	5W	8. 30(月) ～ 9. 30(木)	試験 準備期間	1W	6. 29(火) ～ 7. 2(金)			
後期授業	2W	10. 1(金) ～ 10. 15(金)	後期授業	2W	10. 1(金) ～ 10. 13(水)	OSCE 試験		7. 3(土)	夏季休業		8. 2(月) ～ 8. 27(金)
臨時休業		10. 18(月) ～ 10. 19(火)	臨時休業		10. 14(木) ～ 10. 19(火)	臨床実習 Ⅱ/Ⅲ	16W	8. 30(月) ～ 12. 17(金)	臨床実習Ⅲ	4W	8. 30(月) ～ 9. 24(金)
後期授業	9W	10. 20(木) ～ 12. 22(水)	後期授業	9W	10. 20(木) ～ 12. 22(水)						
冬季休業		12. 24(金) ～ 23. 1. 4(火)	冬季休業		12. 24(金) ～ 23. 1. 4(火)	冬季休業		12. 20(月) ～ 23. 1. 3(月)	卒業再試験	4W	11. 22(月) ～ 12. 17(金)
後期授業	平成23年 9W	1. 5(水) ～ 3. 11(金)	後期授業	平成23年 9W	1. 5(水) ～ 3. 11(金)	臨床実習 Ⅱ/Ⅲ	12W	平成23年 1. 4(火) ～ 3. 25(金)	冬季休業		12. 20(月) ～ 23. 1. 3(月)
臨時休業		3. 22(月) ～	臨時休業		3. 22(月) ～			3. 28(月) ～	臨時休業		平成23年 1. 4(火) ～ 3. 24(木)
						臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの日程は変更する可能性あり					

主な
行事予定

入学式	22. 4. 5(月)	文化祭	22. 10. 16(土) ～ 17(日)
体育祭	22. 5. 8(土)	解剖体験靈式	22. 10. 21(木) (予定)
健康診断	22. 5月中～下旬 (予定)	ご遺骨返還式	23. 1. 18(火) (予定)
実験動物慰霊祭	22. 9. 30(木) (予定)	プロジェクトセミナー発表会	23. 3. 4(金)
プロジェクトセミナー開始	22. 10. 1(金)	医学科第4学年合宿研修	23. 3. 5(土) ～ 3. 6(日)
創立記念日	22. 10. 12(火)	卒業式	23. 3. 25(金)

平成22年度 第1学年授業時間割 (M I C)

前期

日 付	8 : 50～10 : 10	10 : 20～11 : 40	12 : 40～14 : 00	14 : 10～15 : 30	15 : 40～17 : 00
4/13 火	医学科カリキュラム説明	医学の展望-1	病院見学/LS		
4/20 火	医の倫理-1 患者の権利	国際医療-1	病院見学/LS		
4/27 火	Communication 導入	国際医療-2	多様な医師像-1	医の倫理-2	
5/11 火		国際医療-3	shadowing導入	医の倫理-3	
5/18 火		国際医療-4	コミュニケーション-1	医の倫理-4	
5/25 火		国際医療-5	コミュニケーション-2	医の倫理-5	医学史-1
6/ 1 火		shadowing-1		医の倫理-6	医学史-2
6/ 8 火		shadowing-2		医の倫理-7	医学史-3
6/15 火	国際医療-6	国際医療-7	医学の展望-2	多様な医師像-2	
6/22 火		shadowing-3		人体構造総論I-1 (秋田)	
6/29 火	国際医療-8	国際医療-9	人体構造総論I-2	コミュニケーション-3	
7/ 6 火		shadowing-4		人体構造総論I-3	
7/13 火		shadowing-5		人体構造総論I-4	
7/20 火			自 習 ・ 補 講		

7/26～ 7/30 前期試験 (教養部)
8/ 2～ 9/10 夏季休業 (教養部)
9/13～ 9/17 補講 (教養部)

9/ 7 火	遺伝子と生命-1 (畑)	国際医療-10	細胞生物学 I -1 (水島)	医の倫理-8	
9/14 火	遺伝子と生命-2	国際医療-11	細胞生物学 I -2	医の倫理-9	

9/21～ 9/22 合同セミナー (教養部) (予定)

9/28 火	遺伝子と生命-3	国際医療-12	細胞生物学 I -3	医の倫理-10	
--------	----------	---------	------------	---------	--

後期

日 付	8 : 50～10 : 10	10 : 20～11 : 40	12 : 40～14 : 00	14 : 10～15 : 30	15 : 40～17 : 00
10/ 5 火	遺伝子と生命-4	遺伝子と生命-5	細胞生物学 I -4	医の倫理-11	

10/12 創立記念日

10/19 火	遺伝子と生命-6	医療統計 I -1	細胞生物学 I -5	細胞生物学 I -6	
10/26 火	遺伝子と生命-7	医療統計 I -2	細胞生物学 I -7	医学英語	
11/ 2 火	遺伝子と生命-8	医療統計 I -3	細胞生物学 I -8	細胞生物学 I -9	
11/ 9 火	遺伝子と生命-9	医療統計 I -4	細胞生物学 I -10	医学英語	
11/16 火	遺伝子と生命-10	医療統計 I -5	細胞生物学 I -11	細胞生物学 I -12	
11/30 火	遺伝子と生命-11	医療統計 I -6 (中田)	細胞生物学 II -1	医学英語	
12/ 7 火	遺伝子と生命-12	遺伝子と生命-13	細胞生物学 II -2	細胞生物学 II -3	
12/14 火	遺伝子と生命-14	遺伝子と生命-15	医療統計 II -1	細胞生物学 II -4	
12/21 火	人体発生学1 (秋田)	細胞生物学 II -5	医療統計 II -2	医学英語	

12/27～ 1/ 7 冬期休業 (教養部)

1/ 4 火	人体発生学 2	細胞生物学 II -6	細胞生物学 II -7	医学英語	
1/11 火	人体発生学3	細胞生物学 II -8	医療統計 II -3	コミュニケーション-SGD導入	
1/18 火	人体発生学4	細胞生物学 II -9	医療統計 II -4	SGD-1	
1/25 火	人体発生学5	SGD-2	医療統計 II -5	医学英語	
2/ 1 火	人体発生学6	細胞生物学 II -10	医療統計 II -6	SGD-3	
2/ 8 火	人体発生学7	細胞生物学 II -11	細胞生物学 II -12	医学英語	

2/ 2～ 2/ 4 補講 (教養部)
2/ 9～ 2/18 後期試験 (教養部)
2/21～ 3/31 春季休業 (教養部)

※ 人体発生学＝人体構造総論 II

平成22年度 第2学年授業時間割 (M I C)

前期

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
4/15 木	医学科カリキュラム説明-2	神経科学 1	免疫 I -1	免疫 I -2	
4/22 木	神経科学 2	医学英語	免疫 I -3	免疫 I -4	
5/ 6 木	神経科学 3	医学英語	免疫 I -5	免疫 I -6	
5/13 木	神経科学 4	医学の展望-3	免疫 I -7	免疫 I -8	
5/20 木	神経科学 5	多様な医師像-3	免疫 I -9	医学英語	
5/27 木	神経科学 6	多様な医師像-4	免疫 I -10	免疫 I -11	
6/ 3 木	神経科学 7	医学英語	免疫 I -12	医療倫理観実践論-1	
6/10 木	神経科学 8	多様な医師像-5	免疫 I -13	医療倫理観実践論-2	
6/17 木	神経科学 9	医学英語	免疫 II -1	医療倫理観実践論-3	
6/24 木	神経科学 10	医学の展望-4	免疫 II -2	医療倫理観実践論-4	
7/ 1 木	神経科学 11	医学英語	免疫 II -3	医療倫理観実践論-5	
7/ 8 木	人体構造総論 III-1	医学の展望-5	免疫 II -4	医療倫理観実践論-6	
7/15 木	人体構造総論 III-2	医学英語	免疫 II -5	医療倫理観実践論-7	
7/22 木	人体構造総論 III-3	多様な医師像-6	免疫 II -6	医療倫理観実践論-8	

7/26～7/30 前期試験 (教養部)
8/ 2～9/10 夏季休業 (教養部)
9/13～9/15 補講 (教養部)
9/16～9/17 学力認定試験 (教養部)

(予定)

9/30 木	人体構造総論 III-4	医学英語	免疫 II -7	医療倫理観実践論-9	
--------	--------------	------	----------	------------	--

後期

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
10/ 7 木	人体構造総論 III-5	細胞・組織の構造-1	免疫 II -8	コミュニケーション	コミュニケーション
10/14 木	介護実習導入	細胞・組織の構造-2	医学英語	免疫 II -9	
10/21 木			介護実習		
10/28 木			介護実習		
11/ 4 木	人体構造総論 III-6	細胞・組織の構造-3	医学英語	免疫 II -10	
11/11 木	細胞・組織の構造-4	細胞・組織の構造-5	生理学導入1	免疫 II -11	
11/18 木	人体構造総論 III-7	細胞・組織の構造-6	医学英語	免疫 II -12	
11/25 木	細胞・組織の構造-7	細胞・組織の構造-8	医学英語	免疫 II -13	
12/ 2 木	人体構造総論 III-8	細胞・組織の構造-9	生理学導入2	Pt interview-1 入	
12/ 9 木	細胞・組織の構造-10	細胞・組織の構造-11	医学英語	コミュニケーション	
12/16 木	人体構造総論 III-9	Pt interview-1	医学英語	自習・補講	

12/27～1/ 7 冬期休業 (教養部)

1/ 6 木	人体構造総論 III-10	人体構造総論 III-11	神経科学 12	presentation-2	
1/13 木	細胞・組織の構造-12	神経科学 13	医学英語	自習・補講	
1/20 木	細胞・組織の構造-13	細胞・組織の構造-14	神経科学 14	コミュニケーション-SGD 1	
1/27 木	細胞・組織の構造-15	コミュニケーション-SGD 2	医学英語 (口頭試験)		
2/ 3 木	細胞・組織の構造-16	細胞・組織の構造-17	神経科学 15	コミュニケーション-SGD 3	

2/ 2～2/ 4 補講 (教養部)
2/ 9～2/18 後期試験 (教養部)
2/21～3/31 春季休業 (教養部)

※ 細胞・組織の構造＝細胞の構造II

平成22年度授業時間割 第3学年前期

前期(21週) 22.4.5(月)～22.9.30(木)

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
4/5月			カリキュラム説明, 解剖実習説明		
4/6火	感染1	医学英語Ⅱ1	社会医学1	人体解剖学1	人体解剖学2
4/7水	生理学1	組織学1	人体解剖学3	人体解剖学実習1	人体解剖学実習2
4/8木	組織学実習1	組織学実習2	自習・補講		
4/9金	薬理学1	感染2	人体解剖学4	人体解剖学実習3	人体解剖学実習4

4/12月	社会医学2	感染3	人体解剖学5	人体解剖学実習5	人体解剖学実習6
4/13火	感染4	生理学2	人体解剖学6	人体解剖学実習7	人体解剖学実習8
4/14水	社会医学3	組織学2	人体解剖学7	人体解剖学実習9	人体解剖学実習10
4/15木	組織学実習3	組織学実習4	自習・補講		
4/16金	薬理学2	感染5	人体解剖学8	人体解剖学実習11	人体解剖学実習12

4/19月	生理学3	感染6	人体解剖学9	人体解剖学実習13	人体解剖学実習14
4/20火	感染7	医学英語Ⅱ2	人体解剖学10	人体解剖学実習15	人体解剖学実習16
4/21水	東洋医学(基礎)1	組織学3	人体解剖学11	人体解剖学実習17	人体解剖学実習18
4/22木	組織学実習5	組織学実習6	自習・補講		
4/23金	薬理学3	感染8	人体解剖学12	人体解剖学実習19	人体解剖学実習20

4/26月	生理学4	感染9	人体解剖学13	人体解剖学実習21	人体解剖学実習22
4/27火	社会医学4	組織学4	人体解剖学14	人体解剖学実習23	人体解剖学実習24
4/28水	組織学実習7	組織学実習8	人体解剖学15	人体解剖学実習25	人体解剖学実習26
4/29木	(祝) 昭和の日				
4/30金	薬理学4	組織学5	人体解剖学16	人体解剖学実習27	人体解剖学実習28

5/3月	(祝) 憲法記念日				
5/4火	(祝) みどりの日				
5/5水	(祝) こどもの日				
5/6木	組織学実習9	組織学実習10	自習・補講		
5/7金	薬理学5	感染10	人体解剖学17	人体解剖学実習29	人体解剖学実習30

5/10月	生理学5	感染11	神・神経構造1	神・神経構造2	神経科学実習1
5/11火	感染12	生理学6	人体解剖学18	人体解剖学実習31	人体解剖学実習32
5/12水	社会医学5	組織学6	人体解剖学19	人体解剖学実習33	人体解剖学実習34
5/13木	組織学実習11	組織学実習12	自習・補講		
5/14金	薬理学6	感染13	人体解剖学20	人体解剖学実習35	人体解剖学実習36

5/17月	生理学7	感染14	神・神経構造3	神・神経構造4	神経科学実習2
5/18火	感染15	医学英語Ⅱ3	人体解剖学21	人体解剖学実習37	人体解剖学実習38
5/19水	東洋医学(基礎)2	組織学7	人体解剖学22	人体解剖学実習39	人体解剖学実習40
5/20木	組織学実習13	組織学実習14	自習・補講		
5/21金	薬理学7	感染16	人体解剖学23	人体解剖学実習41	人体解剖学実習42

5/24月	生理学8	感染17	神・神経構造5	神経科学実習3	神経科学実習4
5/25火	感染18	生理学9	人体解剖学24	人体解剖学実習43	人体解剖学実習44
5/26水	社会医学6	組織学8	人体解剖学25	人体解剖学実習45	人体解剖学実習46
5/27木	組織学実習15	組織学実習16	自習・補講		
5/28金	薬理学8	感染19	人体解剖学26	人体解剖学実習47	人体解剖学実習48

5/31月	生理学10	感染20	神・神経構造6	神・神経構造7	神経科学実習5
6/1火	感染21	医学英語Ⅱ4	人体解剖学27	人体解剖学実習49	人体解剖学実習50
6/2水	東洋医学(基礎)3	組織学9	人体解剖学28	人体解剖学実習51	人体解剖学実習52
6/3木	組織学実習17	組織学実習18	自習・補講		
6/4金	薬理学9	感染22	人体解剖学29	人体解剖学実習53	人体解剖学実習54

6/7月	生理学11	感染23	神・神経構造8	神・神経構造9	神経科学実習6
6/8火	感染24	生理学12	神・神経構造10	神経科学実習7	神経科学実習8
6/9水	社会医学7	組織学10	人体解剖学30	人体解剖学実習55	人体解剖学実習56
6/10木	組織学実習19	組織学実習20	自習・補講		
6/11金	薬理学10	感染25	人体解剖学31	人体解剖学実習57	人体解剖学実習58

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
6/14月	生理学13	感染26	神・神経構造11	神・神経構造12	神経科学実習9
6/15火	感染27	医学英語Ⅱ5	神・神経構造13	神・神経構造14	神経科学実習10
6/16水	東洋医学(基礎)4	組織学11	人体解剖学32	人体解剖学実習59	人体解剖学実習60
6/17木	組織学実習21	組織学実習22	自習・補講		
6/18金	薬理学11	感染28	人体解剖学33	人体解剖学実習61	人体解剖学実習62

6/21月	生理学14	感染29	神・神経構造15	神・神経構造16	神経科学実習11
6/22火	感染30	生理学15	神・神経構造17	神・神経構造18	神・神経構造19
6/23水	東洋医学(基礎)5	感染31	人体解剖学34	人体解剖学実習63	人体解剖学実習64
6/24木	生理学16	社会医学8	自習・補講		
6/25金	薬理学12	感染32	人体解剖学35	人体解剖学実習65	人体解剖学実習66

6/28月	組織学試験	感染33	神・神経構造20	神・神経構造21	神経科学実習12
6/29火	感染34	医学英語Ⅱ6	神・神経構造22	神・神経構造23	神経科学実習13
6/30水	東洋医学(基礎)6	感染35	人体解剖学36	人体解剖学実習67	人体解剖学実習68
7/1木	生理学17	神経科学・基礎1	自習・補講		
7/2金	薬理学13	感染36	人体解剖学37	人体解剖学実習69	人体解剖学実習70

7/5月	東洋医学(基礎)試験	感染37	神・神経構造24	神・神経構造25	神経科学実習14
7/6火	感染38	生理学18	神・神経構造26	神・神経構造27	神経科学実習15
7/7水	生理学19	神経科学・基礎2	人体解剖学38	人体解剖学実習71	人体解剖学実習72
7/8木	感染39	神経科学・基礎3	自習・補講		
7/9金	薬理学14	感染40	人体解剖学39	人体解剖学実習73	人体解剖学実習74

7/12月	神・神経構造試験	社会医学9	生理学実習1	生理学実習2	生理学実習3
7/13火	神経科学・基礎4	神経科学・基礎5	生理学実習4	生理学実習5	生理学実習6
7/14水	生化学1	神経科学・基礎6	生理学実習7	生理学実習8	生理学実習9
7/15木	医学英語Ⅱ7	社会医学10	生理学実習10	生理学実習11	生理学実習12
7/16金	神経科学・基礎7	薬理学15	生理学実習13	生理学実習14	生理学実習15

7/19月	(祝) 海の日				
7/20火	社会医学11	生殖・発達・加齢1	生理学実習16	生理学実習17	生理学実習18
7/21水	生化学2	生殖・発達・加齢2	生理学実習19	生理学実習20	生理学実習21
7/22木	社会医学12	生化学3	生理学実習22	生理学実習23	生理学実習24
7/23金	神経科学・基礎8	社会医学13	生理学実習25	生理学実習26	生理学実習27

夏季休業 7.26(月)～8.27(金)

8/30月	人体解剖学試験	生化学4	薬理学実習1	薬理学実習2	薬理学実習3
8/31火	神経科学・基礎9	生殖・発達・加齢3	薬理学実習4	薬理学実習5	薬理学実習6
9/1水	社会医学14	生殖・発達・加齢4	薬理学実習7	薬理学実習8	薬理学実習9
9/2木	社会医学15	医学英語Ⅱ8	薬理学実習10	薬理学実習11	薬理学実習12
9/3金	神経科学・基礎10	薬理学16	薬理学実習13	薬理学実習14	薬理学実習15

9/6月	生理学試験	感染41	薬理学実習16	薬理学実習17	薬理学実習18
9/7火	社会医学16	生殖・発達・加齢5	薬理学実習19	薬理学実習20	薬理学実習21
9/8水	神経科学・基礎11	生殖・発達・加齢6	薬理学実習22	薬理学実習23	薬理学実習24
9/9木	ブロック説明会	生化学5	薬理学実習25	薬理学実習26	薬理学実習27
9/10金	生化学6	薬理学17	薬理学実習28	薬理学実習29	薬理学実習30

9/13月	腫瘍学ブロック				
9/14火					
9/15水					
9/16木					
9/17金					

9/20月	(祝) 敬老の日				
9/21火	病理学総論ブロック				
9/22水					
9/23木	(祝) 秋分の日				
9/24金	病理学総論ブロック				

9/27月	病理学総論ブロック				
9/28火					
9/29水	神経科学・基礎12	神経科学・基礎13	自習・補講		
9/30木	生化学7	自習・補講	医学英語Ⅱ9	自習・補講	

平成22年度授業時間割 第3学年後期

後期(20週) 22.10.1(金)～23.3.11(金)

日付		8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
10/ 1	金	生化学8	生殖・発達・加齢7	感染系実習1	感染系実習2	感染系実習3

10/4	月	薬理学試験	感染42	感染系実習4	感染系実習5	感染系実習6
10/5	火	生化学9	生確・発達・加齢6	感染系実習7	感染系実習8	感染系実習9
10/6	水	神経科学・基礎14	神経科学・基礎15	感染系実習10	感染系実習11	感染系実習12
10/7	木	法医学1	医学英語Ⅱ10	感染系実習13	感染系実習14	感染系実習15
10/8	金	神経科学・基礎16	生確・発達・加齢9	感染系実習16	感染系実習17	感染系実習18

10/11	月	(祝) 体 育 の 日				
10/12	火	創 立 記 念 日				
10/13	水	病理学総論試験	生確・発達・加齢10	感染系実習19	感染系実習20	感染系実習21
10/14	木	生化学10	医学英語Ⅱ11	感染系実習22	感染系実習23	感染系実習24
10/15	金	神経科学・基礎17	神経科学・基礎18	感染系実習25	感染系実習26	感染系実習27

文化祭 10.16(土)～10.17(日)

10/18	月	臨時休業				
10/19	火					
10/20	水	腫瘍学試験	生確・発達・加齢11	感染系実習28	感染系実習29	感染系実習30
10/21	木	生化学11	解 剖 体 験 式 (予定)			
10/22	金	生化学12	小児科学1	社会医学17	社会医学18	社会医学19

10/25	月	感染試験	生化学13	衛生学1	衛生学2	法医学2
10/26	火	生化学14	小児科学2	衛生学3	衛生学4	法医学3
10/27	水	生確・発達・加齢12	小児科学3	衛生学5	衛生学6	衛生学7
10/28	木	衛生学8	医学英語Ⅱ12	社会医学20	生化学15	生化学16
10/29	金	衛生学9	神経科学・基礎19	循環器学1	生化学17	生化学18

11/1	月	社会医学試験	循環器学2	生化学実習1	生化学実習2	生化学実習3
11/2	火	衛生学10	循環器学3	生化学実習4	生化学実習5	生化学実習6
11/3	水	(祝) 文 化 の 日				
11/4	木	衛生学11	医学英語Ⅱ13	生化学実習7	生化学実習8	生化学実習9
11/5	金	循環器学4	生化学実習10	生化学実習11	生化学実習12	生化学実習13

11/8	月	小児科学4	生化学実習14	生化学実習15	生化学実習16	生化学実習17
11/9	火	小児科学5	生確・発達・加齢13	生化学実習18	生化学実習19	生化学実習20
11/10	水	衛生学12	生確・発達・加齢14	生化学実習21	生化学実習22	生化学実習23
11/11	木	循環器学5	循環器学6	生化学実習24	生化学実習25	生化学実習26
11/12	金	循環器学7	生化学実習27	生化学実習28	生化学実習29	生化学実習30

11/15	月	神経科学・基礎20	神経科学・基礎21	衛生学実習1	衛生学実習2	衛生学実習3
11/16	火	循環器学8	神経科学・基礎22	衛生学実習4	衛生学実習5	衛生学実習6
11/17	水	小児科学6	神経科学・基礎23	衛生学実習7	衛生学実習8	衛生学実習9
11/18	木	小児科学7	神経科学・基礎24	衛生学実習10	衛生学実習11	衛生学実習12
11/19	金	神経科学・基礎25	神経科学・基礎26	衛生学実習13	衛生学実習14	衛生学実習15

11/22	月	生化学試験	循環器学9	神経科学・基礎27	法医学4	
11/23	火	(祝) 勤 労 感 謝 の 日				
11/24	水	衛生学試験	循環器学10	神経科学・基礎28	法医学5	
11/25	木	小児科学8	医学英語Ⅱ14	神経科学・基礎29	神経科学・基礎30	
11/26	金	小児科学9	神経科学・基礎31	神経科学・基礎32		

11/29	月	腎・体液制御ブロック (1週目)				
11/30	火					
12/1	水					
12/2	木					
12/3	金					

12/6	月	腎・体液制御ブロック (2週目)				
12/7	火					
12/8	水					
12/9	木					
12/10	金					

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
12/13	月 内分泌代謝1	内分泌代謝2	法医学6	法医学7	法医学8
12/14	火 法医学9	小児科学10	医動物学1	内分泌代謝3	
12/15	水 医動物学2	小児科学11	法医学10	法医学11	法医学12
12/16	木 循環器学11	医学英語Ⅱ15	法医学実習1	法医学実習2	法医学実習3
12/17	金 循環器学12	小児科学12	医動物学3	膠原病・リウマチ学1	膠原病・リウマチ学2

12/20	月	腎・体液制御試験	小児科学13	医事法学1	医事法学2	医事法学3
12/21	火	循環器学13		医動物学4	医事法学4	
12/22	水	内分泌代謝4	小児科学14	医動物学5	医事法学5	医事法学6
12/23	木	(祝) 天 皇 誕 生 日				

冬季休業 12.24(金)～1.4(火)

1/5	水	内分泌代謝5	小児科学15	法医学実習4	法医学実習5	法医学実習6
1/6	木	循環器学14	医学英語Ⅱ16	医動物学6	膠原病・リウマチ学3	循環器学15
1/7	金	内分泌代謝6	小児科学16	循環器学16	循環器学17	

1/10	月	(祝) 成 人 の 日				
1/11	火	神・生理、薬理試験	医動物学7	小児科学17	循環器学18	
1/12	水	循環器学19	循環器学20	循環器学21	生確・発達・加齢15	医事法学7
1/13	木	循環器学22	医学英語Ⅱ17	法医学実習7	法医学実習8	法医学実習9
1/14	金	膠原病・リウマチ学4	膠原病・リウマチ学5	膠原病・リウマチ学6	循環器学23	循環器学24

1/17	月	法医・医事試験	内分泌代謝7	循環器学25	循環器学26	
1/18	火	内分泌代謝8	生確・発達・加齢16	ご 遺 骨 返 還 式 (予定)		
1/19	水	医動物学8	生確・発達・加齢17	内分泌代謝9	内分泌代謝10	
1/20	木	医動物学9	医学英語Ⅱ18	医動物学10	内分泌代謝11	膠原病・リウマチ学7
1/21	金	循環器学27	生確・発達・加齢18	内分泌代謝12	膠原病・リウマチ学8	

1/24	月	膠原病・リウマチ学試験	内分泌代謝13	内分泌代謝14	循環器学28	循環器学29
1/25	火	生確・発達・加齢19	医動物学11	医動物学実習1	医動物学実習2	医動物学実習3
1/26	水	生確・発達・加齢20	医動物学12	医動物学実習4	医動物学実習5	医動物学実習6
1/27	木	生確・発達・加齢21	医動物学13	医動物学実習7	医動物学実習8	医動物学実習9
1/28	金	生確・発達・加齢22	医動物学14	医動物学実習10	医動物学実習11	医動物学実習12

1/31	月	生確・加齢試験	医動物学15	医動物学実習13	医動物学実習14	医動物学実習15
2/1	火	循環器学30	医動物学16	医動物学実習16	医動物学実習17	医動物学実習18
2/2	水	内分泌代謝15	循環器学31			
2/3	木	循環器学32	医学英語Ⅱ19	内分泌代謝16	内分泌代謝17	医動物学実習試験
2/4	金	循環器学33	循環器学34	循環器学35	内分泌代謝18	

2/7	月	医動物学試験				
2/8	火	小児科学試験				
2/9	水	内分泌代謝試験				
2/10	木	循環器学試験				
2/11	金	(祝) 建 国 記 念 の 日				

2/14	月	呼吸器ブロック (1週目)				
2/15	火					
2/16	水					
2/17	木					
2/18	金					

2/21	月	呼吸器ブロック (2週目)				
2/22	火					
2/23	水					
2/24	木					
2/25	金					

2/28	月					
3/1	火					
3/2	水	呼吸器試験				
3/3	木					
3/4	金					

3/7	月					
3/8	火					
3/9	水					
3/10	木					
3/11	金					

臨時休業 23.3月下旬～【予定】
進級判定教育委員会 23.3月中旬【予定】
進級判定教授会 23.3月下旬【予定】

平成22年度授業時間割 第4学年前期

前期(22週) 22.4.5(月)～22.9.30(木)

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
4/5 月	消化器ブロック (上部消化管)				
4/6 火					
4/7 水					
4/8 木					
4/9 金					

4/12 月	消化器ブロック (下部消化管)				
4/13 火					
4/14 水					
4/15 木					
4/16 金					

4/19 月	消化器ブロック (肝胆脾)				
4/20 火					
4/21 水					
4/22 木					
4/23 金					

4/26 月	プロジェクト セミナー説明会	神経精神医学1	産科・婦人科学1	神・臨床神経1	公衆衛生学1
4/27 火	外科学1	眼科学1	病理学実習1	病理学実習2	病理学実習3
4/28 水	外科学2	臨床検査医学1	皮膚科学1	眼科学2	産科・婦人科学2
4/29 木	(祝) 昭 和 の 日				
4/30 金	産科・婦人科学3	公衆衛生学2	神・臨床神経2	医学英語Ⅱ20	血液1

5/3 月	(祝) 憲 法 記 念 日				
5/4 火	(祝) み ど り の 日				
5/5 水	(祝) こ ど も の 日				
5/6 木	外科学3	臨床検査医学2	皮膚科学2	眼科学3	公衆衛生学3
5/7 金	産科・婦人科学4	公衆衛生学4	神・臨床神経3	外科学4	血液2

5/10 月	消化器試験	神経精神医学2	産科・婦人科学5	神・臨床神経4	公衆衛生学5
5/11 火	外科学5	臨床検査医学3	病理学実習4	病理学実習5	病理学実習6
5/12 水	血液3	臨床検査医学4	病理学実習7	病理学実習8	病理学実習9
5/13 木	公衆衛生学6	臨床検査医学5	皮膚科学3	眼科学4	神・臨床神経5
5/14 金	産科・婦人科学6	公衆衛生学7	神・臨床神経6	医学英語Ⅱ21	血液4

5/17 月	臨床検査医学試験	神経精神医学3	産科・婦人科学7	神・臨床神経7	神・臨床神経8
5/18 火	外科学6	眼科学5	病理学実習10	病理学実習11	病理学実習12
5/19 水	神・臨床神経9	外科学7	病理学実習13	病理学実習14	病理学実習15
5/20 木	外科学8	血液5	皮膚科学4	眼科学6	整形外科科学1
5/21 金	産科・婦人科学8	皮膚科学5	神・臨床神経10	外科学9	血液6

5/24 月	神経精神医学4	神経精神医学5	産科・婦人科学9	神・臨床神経11	神・臨床神経12
5/25 火	外科学10	眼科学7	病理学実習16	病理学実習17	病理学実習18
5/26 水	血液補講	外科学11	病理学実習19	病理学実習20	病理学実習21
5/27 木	外科学12	血液7	皮膚科学6	眼科学8	眼科学9
5/28 金	産科・婦人科学10	皮膚科学7	神・臨床神経13	医学英語Ⅱ22	血液8

5/31 月	公衆衛生学実習1	公衆衛生学実習2	公衆衛生学実習3	公衆衛生学実習4	公衆衛生学実習5
6/1 火	公衆衛生学実習6	公衆衛生学実習7	公衆衛生学実習8	公衆衛生学実習9	公衆衛生学実習10
6/2 水	公衆衛生学実習11	公衆衛生学実習12	公衆衛生学実習13	公衆衛生学実習14	公衆衛生学実習15
6/3 木	公衆衛生学実習16	公衆衛生学実習17	公衆衛生学実習18	公衆衛生学実習19	公衆衛生学実習20
6/4 金	公衆衛生学実習21	公衆衛生学実習22	公衆衛生学実習23	公衆衛生学実習24	公衆衛生学実習25

6/7 月	公衆衛生学試験	神経精神医学6	神経精神医学7	神・臨床神経14	血液9
6/8 火	外科学13	整形外科科学2	病理学実習22	病理学実習23	病理学実習24
6/9 水	整形外科科学3	整形外科科学4	病理学実習25	病理学実習26	病理学実習27
6/10 木	外科学14	血液10	皮膚科学8	眼科学10	整形外科科学5
6/11 金	産科・婦人科学11	皮膚科学9	神経精神医学8	眼科学11	血液11

6/14 月	外科学試験	神経精神医学9	神経精神医学10	産科・婦人科学12	血液12
6/15 火	整形外科科学6	眼科学12	病理学実習28	病理学実習29	病理学実習30
6/16 水	病理学実習31	病理学実習32	病理学実習33	病理学実習34	病理学実習35
6/17 木	神・臨床神経15	血液13	皮膚科学10	眼科学13	産科・婦人科学13
6/18 金	産科・婦人科学14	皮膚科学11	眼科学14	医学英語Ⅱ23	整形外科科学7

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
6/21 月	眼科学試験	神経精神医学11	産科・婦人科学15	神・臨床神経16	
6/22 火	耳鼻咽喉科学1	放射線医学1	病理学実習36	病理学実習37	病理学実習38
6/23 水	放射線医学2	耳鼻咽喉科学2	整形外科科学8	泌尿器科学1	神・臨床神経17
6/24 木	整形外科科学9	血液14	皮膚科学12	心療・ケア医学1	
6/25 金	産科・婦人科学16	皮膚科学13	血液15	医学英語Ⅱ24	

6/28 月	産科・婦人科学試験	神経精神医学12	神・臨床神経18	心療・ケア医学2	
6/29 火	整形外科科学10	放射線医学3	神・臨床神経19	泌尿器科学2	
6/30 水	放射線医学4	神・臨床神経20	整形外科科学11	泌尿器科学3	
7/1 木	神・臨床神経21	皮膚科学14	整形外科科学12	医学英語Ⅱ25	
7/2 金	泌尿器科学4	皮膚科学15	血液16	血液17	

7/5 月	血液試験	神経精神医学13	耳鼻咽喉科学3	耳鼻咽喉科学4	
7/6 火	整形外科科学13	放射線医学5	放射線医学6	心療・ケア医学3	
7/7 水	放射線医学7	放射線医学8	泌尿器科学5	心療・ケア医学4	
7/8 木	神・臨床神経22	整形外科科学14	皮膚科学16	形成外科学1	
7/9 金	神経精神医学14	泌尿器科学6	形成外科学2	医学英語Ⅱ26	

7/12 月	皮膚科学試験	神経精神医学15	救急医学1	耳鼻咽喉科学5	
7/13 火	整形外科科学15	放射線医学9	耳鼻咽喉科学6	耳鼻咽喉科学7	
7/14 水	放射線医学10	形成外科学3	整形外科科学16	泌尿器科学7	
7/15 木	神・臨床神経23	形成外科学4	救急医学2	心療・ケア医学5	
7/16 金	泌尿器科学8	麻酔・蘇生学1	神・臨床神経24	医学英語Ⅱ27	

7/19 月	(祝) 海 の 日				
7/20 火	精神・心療試験	放射線医学11	耳鼻咽喉科学8	耳鼻咽喉科学9	
7/21 水	放射線医学12	麻酔・蘇生学2	耳鼻咽喉科学10	泌尿器科学9	
7/22 木	神・臨床神経25	麻酔・蘇生学3	救急医学3	形成外科学5	
7/23 金	泌尿器科学10	麻酔・蘇生学4	神・臨床神経26	医学英語試験	

7/26 月	放射線医学試験	耳鼻咽喉科学11	整形外科科学17	神・臨床神経27	
7/27 火	整形外科科学18	形成外科学6	耳鼻咽喉科学12	泌尿器科学11	
7/28 水	頭頸部外科学1	麻酔・蘇生学5	救急医学4	泌尿器科学12	
7/29 木	神・臨床神経28	麻酔・蘇生学6	救急医学5	救急医学6	
7/30 金	泌尿器科学13	麻酔・蘇生学7	神・臨床神経29	整形外科科学19	

夏季休業 8.2(月)～8.27(金)

8/30 月	整形外科科学試験	口腔外科学1	頭頸部外科学2	神・臨床神経30	
8/31 火	口腔外科学2	形成外科学7	頭頸部外科学3	老年病学1	
9/1 水	口腔外科学3	麻酔・蘇生学8	救急医学7	老年病学2	
9/2 木	神・臨床神経31	麻酔・蘇生学9	救急医学8	形成外科学8	
9/3 金	泌尿器科学試験	麻酔・蘇生学10	神・臨床神経32	老年病学3	

9/6 月	麻酔・蘇生学試験	口腔外科学4	神・臨床神経33	頭頸部外科学4	神・臨床神経34
9/7 火	口腔外科学5	神・臨床神経35	頭頸部外科学5	老年病学4	
9/8 水	口腔外科学6	頭頸部外科学6	頭頸部外科学7	老年病学5	
9/9 木	神・臨床神経36	口腔外科学7	救急医学9	救急医学10	
9/10 金	形成外科学試験	頭頸部外科学8	救急医学11	老年病学6	

9/13 月	耳鼻・頭頸部外科学試験				
9/14 火					
9/15 水	口腔外科学試験				
9/16 木					
9/17 金	救急医学試験				

9/20 月	(祝) 敬 老 の 日				
9/21 火					
9/22 水	神・神経内科試験				
9/23 木	(祝) 秋 分 の 日				
9/24 金					

9/27 月	神・脳外科試験				
9/28 火					
9/29 水	老年病学試験	プロジェクトセミナー 特別講義【予定】			
9/30 木					

平成22年度授業時間割 第4学年後期

後期(20週) 22. 10. 1(金)～23. 3. 11(金)

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
10/ 1	金	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			

10/ 4	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
10/ 5	火				
10/ 6	水				
10/ 7	木				
10/ 8	金				

10/11	月	(祝) 体 育 の 日			
10/12	火	創 立 記 念 日			
10/13	水	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
10/14	木	臨時休業			
10/15	金				

文化祭 10.16(土)～10.17(日)

10/18	月	臨時休業			
10/19	火				
10/20	水	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
10/21	木				
10/22	金				

10/25	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
10/26	火				
10/27	水				
10/28	木				
10/29	金				

11/ 1	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
11/ 2	火	(祝) 文 化 の 日			
11/ 3	水				
11/ 4	木	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
11/ 5	金				

11/ 8	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
11/ 9	火				
11/10	水				
11/11	木				
11/12	金				

11/15	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
11/16	火				
11/17	水				
11/18	木				
11/19	金				

11/22	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
11/23	火	(祝) 勤 労 感 謝 の 日			
11/24	水	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
11/25	木				
11/26	金				

11/29	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
11/30	火				
12/ 1	水				
12/ 2	木				
12/ 3	金				

12/ 6	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
12/ 7	火				
12/ 8	水				
12/ 9	木				
12/10	金				

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
12/13	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
12/14	火				
12/15	水				
12/16	木				
12/17	金				

12/20	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
12/21	火				
12/22	水				
12/23	木	(祝) 天 皇 誕 生 日			

冬季休業 12.24(金)～1.4(火)

1/ 5	水	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
1/ 6	木				
1/ 7	金				

1/10	月	(祝) 成 人 の 日			
1/11	火	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
1/12	水				
1/13	木				
1/14	金				

1/11(火)2限 プロジェクトセメスター特別講義【予定】

1/17	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
1/18	火				
1/19	水				
1/20	木				
1/21	金				

1/24	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
1/25	火				
1/26	水				
1/27	木				
1/28	金				

1/31	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
2/ 1	火				
2/ 2	水				
2/ 3	木				
2/ 4	金				

2/ 7	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
2/ 8	火				
2/ 9	水				
2/10	木				
2/11	金				

(祝) 建 国 記 念 の 日

2/14	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
2/15	火				
2/16	水				
2/17	木				
2/18	金				

2/21	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
2/22	火				
2/23	水				
2/24	木				
2/25	金				

2/28	月	自由選択学習（プロジェクトセメスター）			
3/ 1	火				
3/ 2	水				
3/ 3	木				
3/ 4	金				

自由選択学習（プロジェクトセメスター）成果発表会

追再試験 22.12. 6(月)～22.12.17(金)

合宿研修 23. 3. 5(土)～23. 3. 6(日)

臨時休業 23. 3. 7(月)～

進級判定教育委員会 23.3月中旬 【予定】
進級判定教授会 23.3月下旬 【予定】

平成22年度授業時間割 第5学年前期

前期(22週) 22. 4. 5(月)～22. 9. 30(木)

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
4/ 5 月	臨床実習Ⅰ（総論） 1 W				
4/ 6 火					
4/ 7 水					
4/ 8 木					
4/ 9 金					

4/12 月	臨床実習Ⅰ 2 W				
4/13 火					
4/14 水					
4/15 木					
4/16 金					

4/19 月	臨床実習Ⅰ 3 W				
4/20 火					
4/21 水					
4/22 木					
4/23 金					

4/26 月	臨床実習Ⅰ 4 W (祝) 昭 和 の 日 臨床実習Ⅰ 4 W				
4/27 火					
4/28 水					
4/29 木					
4/30 金					

5/ 3 月	(祝) 憲 法 記 念 日				
5/ 4 火	(祝) み ど り の 日				
5/ 5 水	(祝) こ ど も の 日				
5/ 6 木	臨床実習Ⅰ（総論） 5 W				
5/ 7 金					

5/10 月	臨床実習Ⅰ 6 W				
5/11 火					
5/12 水					
5/13 木					
5/14 金					

5/17 月	臨床実習Ⅰ 7 W				
5/18 火					
5/19 水					
5/20 木					
5/21 金					

5/24 月	臨床実習Ⅰ 8 W				
5/25 火					
5/26 水					
5/27 木					
5/28 金					

5/31 月	臨床実習Ⅰ 9 W				
6/ 1 火					
6/ 2 水					
6/ 3 木					
6/ 4 金					

6/ 7 月	臨床実習Ⅰ 10 W				
6/ 8 火					
6/ 9 水					
6/10 木					
6/11 金					

6/14 月	臨床実習Ⅰ 11 W				
6/15 火					
6/16 水					
6/17 木					
6/18 金					

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
6/21 月	臨床実習Ⅰ 12 W				
6/22 火					
6/23 水					
6/24 木					
6/25 金					

6/28 月	共用試験C B T				
6/29 火	臨床実習Ⅰ（総論） 13 W				
6/30 水					
7/ 1 木					
7/ 2 金					

※ 7/3（土）共用試験O S C E

7/ 5 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 1 W				
7/ 6 火					
7/ 7 水					
7/ 8 木					
7/ 9 金					

7/12 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 2 W				
7/13 火					
7/14 水					
7/15 木					
7/16 金					

7/19 月	(祝) 海 の 日				
7/20 火	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 3 W				
7/21 水					
7/22 木					
7/23 金					

7/26 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 4 W				
7/27 火					
7/28 水					
7/29 木					
7/30 金					

夏季休業 8.2(月)～8.27(金)

8/30 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 5 W				
8/31 火					
9/ 1 水					
9/ 2 木					
9/ 3 金					

9/ 6 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 6 W				
9/ 7 火					
9/ 8 水					
9/ 9 木					
9/10 金					

9/13 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 7 W				
9/14 火					
9/15 水					
9/16 木					
9/17 金					

9/20 月	(祝) 敬 老 の 日				
9/21 火	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 8 W				
9/22 水					
9/23 木	(祝) 秋 分 の 日				
9/24 金	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 8 W				

9/27 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 9 W				
9/28 火					
9/29 水					

〔臨床実習Ⅱ・Ⅲ及び臨床実習Ⅲの日程は変更する可能性あり〕

平成22年度授業時間割 第5学年後期

後期(24週) 22. 10. 1(金)～23. 3. 25(金)

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
10/1	金	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 9W			

10/4	月				
10/5	火				
10/6	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 10W			
10/7	木				
10/8	金				

10/11	月	(祝) 体育の日			
10/12	火	創立記念日			
10/13	水				
10/14	木	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 11W			
10/15	金				

10/18	月				
10/19	火				
10/20	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 12W			
10/21	木				
10/22	金				

10/25	月				
10/26	火				
10/27	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ (総論) 13W			
10/28	木				
10/29	金				

11/1	月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第1クール			
11/2	火				
11/3	水	(祝) 文化の日			
11/4	木	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第1クール 1W			
11/5	金				

11/8	月				
11/9	火				
11/10	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第1クール 2W			
11/11	木				
11/12	金				

11/15	月				
11/16	火				
11/17	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第1クール 3W			
11/18	木				
11/19	金				

11/22	月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第1クール 4W			
11/23	火	(祝) 勤労感謝の日			
11/24	水				
11/25	木	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第1クール 4W			
11/26	金				

11/29	月				
11/30	火				
12/1	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第2クール 1W			
12/2	木				
12/3	金				

12/6	月				
12/7	火				
12/8	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第2クール 2W			
12/9	木				
12/10	金				

12/13	月				
12/14	火				
12/15	水				
12/16	木	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第2クール 3W			
12/17	金				

12/20	月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第2クール 4W			
12/21	火				
12/22	水	(祝) 天皇誕生日			
12/23	木	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第2クール 4W			
12/24	金				

冬季休業 12.27(月)～1.3(月)

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
1/3	月	冬季休業			
1/4	火				
1/5	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第3クール 1W			
1/6	木				
1/7	金				

1/10	月	(祝) 成人の日			
1/11	火				
1/12	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第3クール 2W			
1/13	木				
1/14	金				

1/17	月				
1/18	火				
1/19	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第3クール 3W			
1/20	木				
1/21	金				

1/24	月				
1/25	火				
1/26	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第3クール 4W			
1/27	木				
1/28	金				

1/31	月				
2/1	火				
2/2	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第4クール 1W			
2/3	木				
2/4	金				

2/7	月				
2/8	火				
2/9	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第4クール 2W			
2/10	木				
2/11	金	(祝) 建国記念の日			

2/14	月				
2/15	火				
2/16	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第4クール 3W			
2/17	木				
2/18	金				

2/21	月				
2/22	火				
2/23	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第4クール 4W			
2/24	木				
2/25	金				

2/28	月				
3/1	火				
3/2	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第5クール 1W			
3/3	木				
3/4	金				

3/7	月				
3/8	火				
3/9	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第5クール 2W			
3/10	木				
3/11	金				

3/14	月				
3/15	火				
3/16	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第5クール 3W			
3/17	木				
3/18	金				

3/21	月	(祝) 春分の日			
3/22	火				
3/23	水	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第5クール 4W			
3/24	木				
3/25	金				

臨時休業 23.3.28(月)～4/1(金)【予定】

[臨床実習Ⅱ・Ⅲの日程は変更する可能性あり]

平成22年度授業時間割 第6学年前期

前期(20週) 22. 4. 5(月)～22. 9. 24(金)

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
4/ 5 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第6クール 1W				
4/ 6 火					
4/ 7 水					
4/ 8 木					
4/ 9 金					

4/12 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第6クール 2W				
4/13 火					
4/14 水					
4/15 木					
4/16 金					

4/19 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第6クール 3W				
4/20 火					
4/21 水					
4/22 木					
4/23 金					

4/26 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第6クール 4W				
4/27 火					
4/28 水					
4/29 木					
4/29 木	(祝) 昭 和 の 日				
4/30 金	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第6クール 4W				

5/ 3 月	(祝) 憲 法 記 念 日				
5/ 4 火	(祝) み ど り の 日				
5/ 5 水	(祝) こ ど も の 日				
5/ 6 木	臨 時 休 業				
5/ 7 金					

5/10 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第7クール 1W				
5/11 火					
5/12 水					
5/13 木					
5/14 金					

5/17 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第7クール 2W				
5/18 火					
5/19 水					
5/20 木					
5/21 金					

5/24 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第7クール 3W				
5/25 火					
5/26 水					
5/27 木					
5/28 金					

5/31 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第7クール 4W				
6/ 1 火					
6/ 2 水					
6/ 3 木					
6/ 4 金					

6/ 7 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第8クール 1W				
6/ 8 火					
6/ 9 水					
6/10 木					
6/11 金					

6/14 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第8クール 2W				
6/15 火					
6/16 水					
6/17 木					
6/18 金					

日付	8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
6/21 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第8クール 3W				
6/22 火					
6/23 水					
6/24 木					
6/25 金					

6/28 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第8クール 4W				
6/29 火					
6/30 水					
7/ 1 木					
7/ 2 金					

7/ 5 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第9クール 1W				
7/ 6 火					
7/ 7 水					
7/ 8 木					
7/ 9 金					

7/12 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第9クール 2W				
7/13 火					
7/14 水					
7/15 木					
7/16 金					

7/19 月	(祝) 海 の 日				
7/20 火	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第9クール 3W				
7/21 水					
7/22 木					
7/23 金					

7/26 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第9クール 4W				
7/27 火					
7/28 水					
7/29 木					
7/30 金					

夏季休業 8. 2(月)～8.27(金)

8/30 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第10クール 1W				
8/31 火					
9/ 1 水					
9/ 2 木					
9/ 3 金					

9/ 6 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第10クール 2W				
9/ 7 火					
9/ 8 水					
9/ 9 木					
9/10 金					

9/13 月	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第10クール 3W				
9/14 火					
9/15 水					
9/16 木					
9/17 金					

9/20 月	(祝) 敬 老 の 日				
9/21 火	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第10クール 4W				
9/22 水					
9/23 木	(祝) 秋 分 の 日				
9/24 金	臨床実習Ⅱ・Ⅲ 第10クール 4W				

[臨床実習Ⅱ・Ⅲの日程は変更する可能性あり]

平成22年度授業時間割 第6学年後期

後期(10週) 22. 10. 1(金)～23. 3. 25(金)

日付		8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
10/11	月	(祝) 体 育 の 日 (創立記念日)				
10/12	火	卒 業 試 験 1 W				
10/13	水					
10/14	木					
10/15	金					

10/18	月	卒 業 試 験 2 W				
10/19	火					
10/20	水					
10/21	木					
10/22	金					

10/25	月	卒 業 試 験 3 W				
10/26	火					
10/27	水					
10/28	木					
10/29	金					

11/ 1	月	卒 業 試 験 4 W				
11/ 2	火					
11/ 3	水	(祝) 文 化 の 日				
11/ 4	木	卒 業 試 験 4 W				
11/ 5	金					

11/ 8	月	卒 業 試 験 5 W				
11/ 9	火					
11/10	水					
11/11	木					
11/12	金					

11/15	月	卒 業 試 験 6 W				
11/16	火					
11/17	水					
11/18	木					
11/19	金					

11/22	月	卒 業 再 試 験 1 W				
11/23	火	(祝) 勤 労 感 謝 の 日				
11/24	水	卒 業 試 験 (追・再試験) 1 W				
11/25	木					
11/26	金					

11/29	月	卒 業 試 験 (追・再試験) 2 W				
11/30	火					
12/ 1	水					
12/ 2	木					
12/ 3	金					

12/ 6	月	卒 業 試 験 (追・再試験) 3 W				
12/ 7	火					
12/ 8	水					
12/ 9	木					
12/10	金					

12/13	月	卒 業 試 験 (追・再試験) 4 W				
12/14	火					
12/15	水					
12/16	木					
12/18	金					

冬季休業 12.20(月)～1.3(月)

1/ 3	月	冬 季 休 業				
1/ 4	火	臨 時 休 業				
1/ 5	水					
1/ 6	木					
1/ 7	金					

日付		8:50～10:10	10:20～11:40	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00
1/10	月	(祝) 成 人 の 日				
1/11	火	臨 時 休 業				
1/12	水					
1/13	木					
1/14	金					

1/17	月	臨 時 休 業				
1/18	火					
1/19	水					
1/20	木					
1/21	金					

1/24	月	臨 時 休 業				
1/25	火					
1/26	水					
1/27	木					
1/28	金					

1/31	月	臨 時 休 業				
2/ 1	火					
2/ 2	水					
2/ 3	木					
2/ 4	金					

2/ 7	月	臨 時 休 業				
2/ 8	火					
2/ 9	水					
2/10	木					
2/11	金	(祝) 建 国 記 念 の 日				

2/14	月	臨 時 休 業				
2/15	火					
2/16	水					
2/17	木					
2/18	金					

2/21	月	臨 時 休 業				
2/22	火					
2/23	水					
2/24	木					
2/25	金					

2/28	月	臨 時 休 業				
3/ 1	火					
3/ 2	水					
3/ 3	木					
3/ 4	金					

3/ 7	月	臨 時 休 業				
3/ 8	火					
3/ 9	水					
3/10	木					
3/11	金					

3/14	月	臨 時 休 業				
3/15	火					
3/16	水					
3/17	木					
3/18	金					

3/21	月	(祝) 春 分 の 日				
3/22	月	振 替 え 休 日				
3/23	火					
3/24	水	卒 業 式				
3/25	木					

授 業 概 要

(第 1 ～ 2 学年)

MIC (Medical Introductory Course) とは、

「医師の職務、医学の将来を概観し、医師・医学者に求められる社会性、知識、コミュニケーション能力、問題解決能力の基盤を形成する」ことを目的として創設された。医学部医学科に入学した諸君が医学科のある湯島キャンパスで学習するコースである。このコースは、

- ① Patient/Doctor Course (医師患者関係を支える理論と実際について学ぶ)
- ② Medical English Course (国際共用語である英語で医学が学ぶことができる基盤を形成する)
- ③ Basic Science Course (専門医学教育課程の基礎を固める)

からなる。いずれも医学科が目指す「患者中心の視点を持ったプロフェッショナルリーダーの育成」のためには不可欠のものであり、諸君が受けるカリキュラムの序章ともいうべきコースである。

上記のうち Patient/Doctor Courseは

Part 1 医学概説 (Overview of Medicine)

- A : オリエンテーション
- B : 医学の展望 (Medical Horizons)
- C : 多様な医師像 (Career opportunities in Medicine)

Part 2 医の原則

- A : 社会が医師に求めるもの
- B : コミュニケーション
- C : 生命倫理と医の倫理

からなる。

授業科目 MIC 医学の展望・多様な医師像

授業責任者 田中雄二郎

(P/D Course part 1)

(英訳) Medical Horizons・Career opportunities in Medicine

○授業の目的・内容

ゴールは「医学部医学科の学生が、

- ① 医学の未来像を知り
- ② 医師としての将来の選択肢について学び
- ③ 病院と医師の具体的なイメージを持つ

ことによって、学ぶべきこと鍛えるべきことを考え始める」にある。

○授業計画

A：カリキュラムオリエンテーション（第1学年に1回）

6年間のカリキュラム全体を提示し、入学時から海外単位互換なども含め、4年次後期の自由選択学習の過ごし方も視野に入れた自らの学生生活の設計を始める

B：医学の展望（2年間で5回）

医学の将来の姿を臨床医学系、社会医学系、基礎医学系から提示する。

C：多様な医師像（2年間で6回）

臨床医、臨床系および基礎系研究者、医療行政職など多様な医師の生き方を提示する。

また、医学、医療の場で医師のリーダーシップが必要となる場面を知り、将来その役割を担うことができる医師となるために、リーダーとして現在活躍している卒業生の姿を提示する。

○成績評価の方法

出席＋小論文「一番印象に残った講義」（600字以内、第1学年及び第2学年の9月1日までWebCTにて提出する）

○教科書及び参考図書

川越正平、川畑雅照、松岡角英、和田忠志 著「君はどんな医師になりたいのか」（医学書院 2002年）

渡辺昇一 著「知的生活の方法」（講談社現代新書 1976年）

酒井邦嘉 著「科学者という仕事」（中公新書 2006年）

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前 期		多様な医師像			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/27	火	12:40～14:00	心臓外科の未来を開く	荒井裕国	講義室1 I 期棟2階
6/15	火	12:40～14:00	クリエイター vs. ルーチンワーカー:あなたは一生を賭ける職業にどちらを選ぶのか?	(中山敬一)	〃

1 学 年 前 期		医 学 の 展 望			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/13	火	10:20～11:40	未来の医学をどのように学ぶか	田中雄二郎	講義室1 I 期棟2階
TBA	火	TBA	TBA	(鎌田 實)	〃

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前 期		多様な医師像			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/20	木	10:20～11:40	プライマリケア医としての生き方	（川越正平）	講義室1 I 期棟2階
5/27	木	10:20～11:40	臨床から基礎研究へ	西村 栄美	〃
6/10	木	10:20～11:40	いのちの誕生 ―その感動と神秘―	久保田 俊郎	〃
7/22	木	10:20～11:40	医療の制度設計をする医師集団	河原 和夫	〃

2 学 年 前 期		医 学 の 展 望			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/13	木	10:20～11:40	百寿者調査から見たヒト長寿科学社会	広瀬信義 （慶応大学医学部）	講義室1 I 期棟2階
6/24	木	10:20～11:40	ケミカルバイオロジー	萩原正敏	〃
7/8	木	10:20～11:40	ゲノム医学の新展開	（菅野純夫）	〃

○授業の目的・内容

1. 医療・介護の現場を体験し、社会が医師・医療システムに求めているものを考え始める。
2. 医療および医学研究の「専門家」として従うべき規範について理解を深めるとともに、問題意識と分析能力の基礎を身につけることができる。
3. 介護施設と病院の役割の違い、高齢者介護の現状を理解する。
をゴールとする。

○授業計画

【第1学年】

1. 附属病院見学／Basic Life Support（蘇生実習）
将来の臨床実習の現場となる附属病院の外来、病棟、中央診療施設を見学するほか、Basic Life Supportを学び未来の医師としての一步を踏み出す。
2. コミュニケーションについて
新患エスコート実習（下記）では学生が自己紹介をし、新患患者のエスコートを行う。
この準備として模擬患者との対話を通じて初対面の患者への接し方などを討議し、コミュニケーションについて学ぶ。
3. 実習
 1. 新患患者エスコート実習
医学部附属病院を訪れる新患患者を外来、会計終了までエスコートし患者の側から医療現場を体験する。
 2. 医師と共に過ごす半日体験（3回）
医学部附属病院の臨床系教官、基礎系教官と半日を共にし、医師の側から医療・医学の現場を体験する。
 3. 看護師とともに過ごす半日体験
医学部附属病院の看護師と半日を共にし、看護の側から医療現場を体験して、チーム医療の中で果たすべき医師の役割についても考える。

【第2学年】

4. 介護施設実習
介護施設である療養型病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームにおける介護実習に参加し、介護現場を体験する。

○成績評価の方法

出席＋実習レポート（実習中に体験したことを記載して提出する）＋指導医・看護師・介護実習施設指導者等による評価

○参考図書

日野原重明 著「生きかた上手」(ユーリーグ 2001年)

エリザベス・キューブラー・ロス 著「死ぬ瞬間」－死とその課程について(中公文庫 2001年)

松谷明彦、藤正 巖 著「人口減少社会の設計―幸福な未来への経済学」(中公新書 2002年)

広井良典 著「ケア学 越境するケアへ」(医学書院 2000年)

牛越博文 著「介護保険のしくみ」(日経文庫 2005年)

米山淑子 著「思いやりのひとこと 介護するあなたへ」(一橋出版 2003年)

白澤政和、東條光雅、中谷陽明 著「高齢者福祉とソーシャルワーク」(有斐閣 2002年)

○授業の目的・内容

1. 医療面接の目的を説明できる
2. 患者・家族と良好なコミュニケーションをとるための基礎を学ぶ
3. 非言語コミュニケーションを意識して使うことができる
4. 患者から話を引き出すことができる（主訴とプロファイル）
5. チーム医療におけるプレゼンテーションの役割がわかる

○授業計画

コミュニケーション I の授業は、2 年間で 3 シリーズ予定されている。

【第 1 学年】

1. 授業の概略を説明する（コミュニケーション導入）（講義形式）
2. シリーズ 1：人間関係づくりの土台となるコミュニケーションの基礎を学ぶ。
コミュニケーション 1 では、患者支援 NPO よりゲストを招き、患者の視点からの医療の現状を聞く。ここからコミュニケーションの共感的な配慮の重要性を学ぶ。
コミュニケーション 2 では、プレゼンテーションの技法について、基本となる事柄を講義する。
コミュニケーション 3 では、2 人程度の班で医学科 5 年生から医療行為の説明を受け、理解した内容を 5 年生にフィードバックする。ここから医師患者間でのコミュニケーションの問題を学ぶ。
3. シリーズ 2：グループ討論を通じて学習できるようになるため、small group discussion (SGD) について講義を受け、実習する。

○成績評価の方法

出席 + 実習レポート（実習中に体験したことを記載して提出する） + プレゼンテーション

○教科書及び参考図書

佐伯晴子、日下隼人 著「話せる医療者」（医学書院 2000 年）

John L Coulehan and Marian R. Block 「The Medical Interview」（F. A. Davis Company 2005 年）

西部直樹 著「はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の模擬練習まで」（あさ出版 2009 年）

○授業の目的・内容

1. 医療面接の目的を説明できる
2. 患者・家族と良好なコミュニケーションをとることができる
3. 非言語コミュニケーションを意識して使うことができる
4. 患者から話を引き出すことができる（主訴とプロフィール）
5. チーム医療におけるプレゼンテーションの役割がわかる
6. Small group discussionを有効に実践できる

○授業計画

Communication I の授業は、

Role play

Group interview・Patient interview

Oral presentation

をセットにして、2年間で3回行う。第2学年ではシリーズ3を行う

【第2学年】

シリーズ3：Patient interview, presentation 入院患者から主訴・プロフィールなどのお話を伺う。

Patient interview導入の前半は、シリーズ2の振り返りおよび資料を参考にして、入院患者インタビューの要領、面接の進め方と望ましい態度、注意事項の説明を行う。後半は、3人で1グループになり、インタビューの進め方についてグループ討議を行う。

Patient interviewでは、学生3人で1人の入院患者からお話を伺う。

Presentationでは、patient interviewで伺った内容を各々プレゼンテーションし、フィードバックを受ける。

このほか、2年生の後期には、論理的な議論の能力向上のために、ディベートの体験、1年生で体験したPBLの発展などSmall group discussion (SGD) の講義と実習を行う。

○成績評価の方法

出席＋実習レポート（実習中に体験したことを記載して提出する）＋プレゼンテーション

○教科書及び参考図書

佐伯晴子、日下隼人 著「話せる医療者」（医学書院 2000年）

John L Coulehan and Marian R. Block 「The Medical Interview」（F. A. Davis Company 2005年）

西部直樹 著「はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅくみから試合の模擬練習まで」（あさ出版 2009年）

稲垣佳世子・波多野諠余夫 著「人はいかに学ぶか 日常的認知の世界」（中公新書 2009年）

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前・後期		医の原則(A, B)			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/13	火	12:40～15:30	病院見学/LS	田中雄二郎 大友康裕 他	附属病院 他
4/20	火	12:40～15:30	病院見学/LS	田中雄二郎 大友康裕 他	附属病院 他
4/27	火	8:50～10:10	Communication 導入	田中雄二郎 他	講義室1 I 期棟2階
5/11	火	12:40～14:00	shadowing導入	〃	〃
5/18	火	12:40～14:00	コミュニケーション－1	〃	〃
5/25	火	12:40～14:00	コミュニケーション－2	辻本好子	〃
6/1	火	8:50～14:00	shadowing－1	田中雄二郎 他	附属病院 他
6/8	火	8:50～14:00	shadowing－2	〃	〃
6/22	火	8:50～14:00	shadowing－3	〃	〃
6/29	火	14:10～15:30	コミュニケーション－3	〃	講義室1、演習室 I 期棟2～5階
7/6	火	8:50～14:00	shadowing－4	〃	附属病院 他
7/13	火	8:50～14:00	shadowing－5	〃	〃
1/11	火	14:10～15:30	コミュニケーション(SGD)導入	秋田恵一	講義室1 I 期棟2階
1/18	火	14:10～15:30	コミュニケーション(SGD)－1	秋田恵一 他	演習室 I 期棟4階
1/25	火	10:20～11:40	コミュニケーション(SGD)－2	〃	〃
2/1	火	14:10～15:30	コミュニケーション(SGD)－3	〃	〃

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 後 期		医の原則(A, B)			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/7	木	14:10～17:00	コミュニケーション	(辻本好子)	講義室 1 I 期棟 2 階
10/14	木	8:50～10:10	介護実習導入	七里眞義 他	〃
10/21	木	8:50～17:00	介護実習	〃	学外介護施設
10/28	木	8:50～17:00	介護実習	〃	〃
12/2	木	14:10～15:30	Pt interview-1導入	田中雄二郎 他	講義室 1 I 期棟 2 階
12/9	木	14:10～15:30	コミュニケーション	田中雄二郎	講義室 1 I 期棟 2 階
12/16	木	10:20～11:40	Pt interview-1	田中雄二郎 他	附属病院 他
1/6	木	14:10～15:30	presentation-2	〃	〃
1/20	木	14:10～15:30	コミュニケーション(SGD)-1	秋田恵一 他	演習室 I 期棟 4 階
1/27	木	10:20～11:40	コミュニケーション(SGD)-2	〃	〃
2/3	木	14:10～15:30	コミュニケーション(SGD)-3	〃	〃

○教育目標・授業の概要

この講義では、医療倫理の概要を理解した上で実践面での課題を学ぶことで、諸君が将来医師として必要とされる倫理的な思考を身につけることを目標としています。担当講師は、法学から臨床医学・基礎研究などそれぞれの専門の立場から、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開します。講義は、医療倫理の基礎、現在の臨床での課題、医学研究を進める上での課題を組み合わせて進めます。具体的には、患者の権利や治療選択、研究参加、遺伝カウンセリング、出生前遺伝子診断、発症前遺伝子診断、利益相反、研究倫理審査などを取り上げる予定です。単なる座学ではなく、学生が実際に考えることが要求される講義形式です。諸君の積極的な参加を期待しています。

○成績評価の方法

学期末試験、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、適宜実施する小テストおよび小レポート、講義への出席等をもとに総合的に評価します。

○教科書及び参考図書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をその都度配布します。参考文献は講義の中で随時紹介してゆきます。ただし、以下に挙げる文献については各自で読んでおいてください。

- ①吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会－その科学的・倫理的アプローチ』（ブレーン出版、2007年）
- ②バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ－解決への手引き 患者の心を理解するために』（西村書店、2003年）

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前・後期		医 の 倫 理			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/20	火	8:50～10:10	患者の権利	高瀬浩造 (森本直子)	講義室1 I 期棟2階
4/27	火	14:10～15:30	法と倫理	田中智彦 (森本直子)	〃
5/11	火	14:10～15:30	医療の発達と倫理の変遷	〃	〃
5/18	火	14:10～15:30	臨床医学と倫理(1)	吉田雅幸 小笹由香	〃
5/25	火	14:10～15:30	臨床医学と倫理(2)	吉田雅幸 (石井秀人)	〃
6/1	火	14:10～15:30	最新医療と倫理(1)	吉田雅幸 小笹由香	〃
6/8	火	14:10～15:30	最新医療と倫理(2)	〃	〃
9/7	火	14:10～15:30	研究参加(1)	田中智彦 (森本直子)	〃
9/14	火	14:10～15:30	研究参加(2)	〃	〃
9/28	火	14:10～15:30	研究と倫理(1)	吉田雅幸 藍 真澄	〃
10/5	火	14:10～15:30	研究と倫理(2)	〃	〃

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前 期		医 学 史			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/25	火	15:40～17:00	医学・医療の歩み①	（佐藤達夫）	講義室1 I 期棟2階
6/1	火	15:40～17:00	医学・医療の歩み②	〃	〃
6/8	火	15:40～17:00	医学・医療の歩み③	〃	〃

○教育目標

医学部医学科に進む学生が、社会と健康・疾病との関係、個体および集団をとりまく環境諸要因の変化が個人の健康ならびに集団の健康水準にもたらす影響について、主に国際社会を捉える視座から理解する。

○授業の概要

医学の諸分野は、基礎医学、臨床医学、社会医学に大別することができる。社会医学は、医学にあって、特にその社会性に注目して、健康のしくみ、疾病の成り立ち、予防の方法、医療のあり方などを扱う領域である。そこでは、現実の社会が直面する諸課題における問題の所在と構造を解明すると共に、組織的な努力によって課題の解決を図ることを目指している。

現代社会における医学・医療を取り巻く環境変化は、国際社会における種々の変化と密接に連動し、また、医学・医療の国際化のスピードは加速しており、医学・医療、特に社会医学領域において国際的な視点の必要性がますます高まっている。

公衆衛生学、医動物・寄生虫病学、司法医学、国際保健医療協力学、政策科学、社会精神保健学の教員により、講義、チュートリアル形式による授業を行う。

○授業のキーワード

健康推進医学、国際環境寄生虫病学、司法医学、政策科学、国際保健医療協力学

○教科書・参考書

授業中に提示する。

○他科目との関連

国際社会と医療との関わり全般を扱うため、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。3～4年生で履修する系別講義「社会医学」、系統講義「医動物学」、「法医学」、「公衆衛生学」とは特に密接に関連する。

○成績評価の方法

最終期末試験ならびに平常点により評価する。

○受講上の注意

近い将来、広く国際社会の中で医学・医療を担う、という役割を念頭に、幅広い好奇心を持って柔軟な姿勢で学習に取り組んでほしい。

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前・後期		国際社会と医療			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/20	火	10:20～11:40	医学・医療と国際社会	高野健人	講義室1 I 期棟2階
4/27	火	10:20～11:40	Least developed countriesにおける医療と公衆衛生	〃	〃
5/11	火	10:20～11:40	新興感染症と公衆衛生	〃	〃
5/18	火	10:20～11:40	国際化と寄生虫	赤尾信明	〃
5/25	火	10:20～11:40	地球環境変化と感染症	〃	〃
6/15	火	8:50～10:10	熱帯医学のフィールドワーク	太田伸生	〃
6/15	火	10:20～11:40	社会の法秩序と医学、人の死	上村公一	〃
6/29	火	8:50～10:10	細胞と死	秋 利 彦	〃
6/29	火	10:20～11:40	国際犯罪と医学研究	(桜田宏一)	〃
9/7	火	10:20～11:40	社会保障モデルと医療制度	河原和夫	〃
9/14	火	10:20～11:40	医療保障制度と国民の健康水準	〃	〃
9/28	火	10:20～11:40	国際機構と医学	中村桂子	〃

(1) 概要

ヒトの体は蛋白質・脂質・糖質などが集合することによって成り立っているが、これらの分子は染色体のDNAが担う情報にしたがって組織化されている。生命の設計図ともいえるゲノムDNAの情報は、特定の個体において機能するのみならず、親から子へ世代を超えて伝えられて行く。本講義では、DNAの複製・転写、RNAの翻訳、蛋白質の修飾などの分子生命学的内容と、染色体の構造・機能や遺伝様式などの遺伝学的内容の両方を扱う。正常な仕組みの破綻による疾患、ヒトゲノムプロジェクトが医学にもたらした成果とその展開、遺伝診断とその問題についても講義する。さらに、現代の医学研究に一般的に用いられる研究手法について説明する。

(2) 学習目標

- ①DNAの複製・維持・多様化の機構を理解する
- ②DNAからRNAへの転写と遺伝子発現制御を理解する
- ③蛋白質の翻訳と修飾を理解する
- ④染色体の構造と機能を理解する
- ⑤染色体異常による疾患を理解する
- ⑥ヒトゲノムプロジェクトの内容とその医学への貢献を理解する
- ⑦遺伝疾患の分類・成因・病態を最新のゲノム知識のもとに理解する
- ⑧集団遺伝学の基礎的な方法論を理解する
- ⑨出生前診断の方法と適応を理解する
- ⑩出生前診断・遺伝子診断の倫理的問題を理解する
- ⑪医学研究に用いられる分子生物学・遺伝学的研究手法を理解する

(3) 教科書

Human Molecular Genetics 3	Strachan, T. & Read, AP.	Garland Pub	2003年
Molecular Cell Biology 6th	Lodish, H. et al.	W. H. Freeman and Company	2007年
Thompson and Thompson Genetics in Medicine 7th	Nussbaum, RL. et al.	Saunders W. B.	2007年
Molecular Biology of the Cell 5th	Alberts, B. et al.	Garland Publishing Inc.	2008年

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前・後期		遺 伝 子 と 生 命			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/7	火	8:50～10:10	生命を司る情報	畑 裕	講義室1 I 期棟2階
9/14	火	8:50～10:10	医学と遺伝	〃	〃
9/28	火	8:50～10:10	ヒトの染色体の構造と機能、臨床細胞遺伝学	稲澤譲治	〃
10/5	火	8:50～10:10	核酸の構造とDNA複製	畑 裕	〃
10/5	火	10:20～11:40	DNA修復と関連疾患	〃	〃
10/19	火	8:50～10:10	DNA組換えと多様性	〃	〃
10/26	火	8:50～10:10	転写と遺伝子発現調節	北嶋繁孝	〃
11/2	火	8:50～10:10	転写後加工	〃	〃
11/9	火	8:50～10:10	翻訳と翻訳後修飾	〃	〃
11/16	火	8:50～10:10	ヒトゲノムプロジェクトと医学貢献	稲澤譲治	〃
11/30	火	8:50～10:10	エピジェネティクス	石野史敏	〃
12/7	火	8:50～10:10	癌ならびに遺伝疾患とゲノム医科学	稲澤譲治	〃
12/7	火	10:20～11:40	新しいRNAの世界	黒柳秀人	〃
12/14	火	8:50～10:10	遺伝診断、倫理	吉田雅幸	〃
12/14	火	10:20～11:40	集団遺伝学	村松正明	〃

○教育目標

医療・医学研究において必要とされる統計学の基礎を学ぶ。古典的な推定・仮説検定の基本的な手法を習得するだけでなく、背景にある統計学の思想や数学的原理の理解にも重点を置く。

○授業の概要

医療統計Ⅰ（前期） (キーワード)

- 第1回 序説～確率 …… 標本空間、事象、条件付確率、事象の独立性、ベイズの定理
- 第2回 記述統計 …… 母集団⇔標本、度数分布表、階級、標本平均、分散と不偏分散
- 第3回 確率変数と確率分布（1） …… 確率密度関数、確率変数の平均と分散
- 第4回 確率変数と確率分布（2） …… 確率変数の独立性、2項分布、正規分布
- 第5回 確率変数と確率分布（3） …… 中心極限定理、正規近似、標本分布
- 第6回 推定の基礎 …… 母数⇔統計量・推定量、点推定⇔区間推定、信頼区間、信頼度

医療統計Ⅱ（後期） (キーワード)

- 第1回 前期の復習と後期の概説
- 第2回 母平均と母比率の区間推定 …… t分布、自由度
- 第3回 検定の基礎 …… 帰無仮説・対立仮説、有意水準、棄却域、片側検定・両側検定
- 第4回 母平均の差の検定 …… 2標本問題、統合分散
- 第5回 等分散検定と比率の検定 …… F分布
- 第6回 適合度検定・独立性の検定 …… χ^2 分布、観測度数、期待度数、分割表

○授業のキーワード

上記概要を参照のこと。

○教科書・参考書

臨床検査学講座「数学／統計学 第1版第5刷」(医歯薬出版)

○他科目との関連

「情報処理」のExcel実習で関連する内容を学ぶ他、生物学実験のデータ処理において本科目で学ぶ統計手法を用いる。

○成績評価の方法

後期末の試験を主とするが、前期中間試験の評価も加味する予定。

○受講上の注意

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 後 期		医 療 統 計 I			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/19	火	10:20～11:40	序説～記述統計	徳永伸一	講義室1 I 期棟2階
10/26	火	10:20～11:40	確率	〃	〃
11/2	火	10:20～11:40	確率変数と確率分布(1)	〃	〃
11/9	火	10:20～11:40	確率変数と確率分布(2)	〃	〃
11/16	火	10:20～11:40	確率変数と確率分布(3)	〃	〃
11/30	火	10:20～11:40	推定の基礎	〃	〃

1 学 年 後 期		医 療 統 計 II			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/14	火	12:40～14:00	前期の復習と後期の概説	徳永伸一	講義室1 I 期棟2階
12/21	火	12:40～14:00	母平均と母比率の区間推定	〃	〃
1/11	火	12:40～14:00	検定の基礎・母平均の検定	〃	〃
1/18	火	12:40～14:00	母平均の差の検定	〃	〃
1/25	火	12:40～14:00	等分散検定と比率の検定	〃	〃
2/1	火	12:40～14:00	適合度検定と独立性の検定	〃	〃

責任教員：東京医科歯科大学生命倫理研究センター教授 吉田雅幸

担当教員：東京医科歯科大学生命倫理研究センター 小笹由香

担当教員：東京医科歯科大学生命倫理研究センター 藍真澄

担当教員：東京医科歯科大学難治疾患研究所教授 木村彰方

担当教員：東京医科歯科大学医学部附属病院 梶原道子

担当教員：東京医科歯科大学医学部附属病院医療福祉支援センター 佐原まち子

担当教員：一橋大学大学院教授 井伊雅子

担当教員：蓮宝寺副住職 小川有閑

期間：平成22年6月3日～9月30日（木曜日 14：10～15：30）

講義室：I期棟2階 講義室1

1 科目の概要

1年時に学んだ「医の倫理」をベースに、医療者として要求される倫理観について、実践的な観点で理解し養成できるようにする。また、医療に関連する他の分野の専門家からの授業を通じて、多面的なものの見かたを理解できるようにする。特に明確な解答のない倫理的な問題に対しても、常に問題意識を持ち続け、少しでも解決するように努力することの必要性を感じ取ることを目的とする。

2 教育方針・教育目標

- 1) 医療における倫理的問題の背景を理解する。
- 2) 医療が医療者側と患者側のリスク共有によって成り立つことを理解する。
- 3) 医療における倫理的判断に影響する要因について学ぶ。
- 4) 医療における判断行為と利益の関係について学ぶ。
- 5) 臨床実習・臨床研修におけるとっさの倫理的判断ができるようにする。

3 教育内容

- 1 導入と医療における利益相反 吉田
- 2 基礎医学と倫理 木村
- 3 生殖医療と生命倫理 小笹
- 4 輸血をめぐる倫理的問題 梶原
- 5 宗教と生命倫理 小川
- 6 終末期医療と生命倫理 佐原
- 7 医療経済と倫理 井伊
- 8 保険診療と医療倫理 藍

9 事例検討とまとめ 吉田・藍・小笹

4 教科書・参考書

必要に応じて、資料を配布する。また随時、紹介する予定。

5 他科目との関連

第一学年MICの「医の倫理」の実践編として位置づけられているので、その知識および理解を前提としている。

6 受講上の注意

いわゆる医療者の“skill and mind”のmindに相当する部分の中核をなす分野であるので、自分で考えることが重要である。倫理的問題となっている状況を的確に把握し、どう対応すれば良いかという解決策あるいは善処策を考えるための素養としていただきたい。特に授業前の準備は不要であるが、授業中は積極的に自ら考え参加していただきたい。他分野と異なり、明快な結論あるいは解答が得られない場合もあるが、機微あるいは微妙な問題に対する感受性を高めていただきたい。

7 成績評価方法

複数回課す小レポートおよび授業終了後に課すレポートの評価による。

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前 期		医療倫理観実践論			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/3	木	14:10～15:30	導入と医療における利益相反	吉田雅幸	講義室1 I期棟2階
6/10	木	14:10～15:30	基礎医学と倫理	木村彰方	〃
6/17	木	14:10～15:30	生殖医療と生命倫理	小笹由香	〃
6/24	木	14:10～15:30	輸血をめぐる倫理的問題	梶原道子	〃
7/1	木	14:10～15:30	宗教と生命倫理	（小川有閑）	〃
7/8	木	14:10～15:30	終末期医療と倫理	佐原まち子	〃
7/15	木	14:10～15:30	医療経済と倫理	（井伊雅子）	〃
7/22	木	14:10～15:30	保険診療と医療倫理	藍 真澄	〃
9/30	木	14:10～15:30	事案検討とまとめ	吉田・藍・小笹	〃

○教育目標

医学全般を学ぶにあたって、人体の構造を知ることが重要であることは言うまでもない。3年次からの「人体解剖実習」では、器官やそれらをつなぐ脈管・神経のネットワークなどの空間的な配置を学ぶことになる。しかし、教科書などを網羅的に眺めて用語の記憶に努めたとしても、具体的な形を正確に観察し把握できなくては使える生きた知識とはならない。そのために、まず系統発生的、個体発生的にどのような過程を経て形がつくられてきたかを理解し、人体の複雑な構造が、偶然ではなく必然的に配置されているということを理解することが、形をより正確に把握するために必要となる。この理解によって『形に名前がつけられている』のであって、『名前にあわせて形ができていく』のではないという基本的な事実をあらためて確認することができるはずである。

「人体構造総論」は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで1つの話となる。

「人体構造総論Ⅰ」では、解剖学ならびに多くの他の科目を学ぶにあたって必要となる人体のマクロ的な構造の概要を学ぶことにする。「人体発生学（人体構造総論Ⅱ）」では、人体発生学総論を学び、「人体構造総論Ⅲ」は、人体発生学各論を学ぶとともに、完成した解剖学的構造との対比を学ぶことにする。

人体の構造の成り立ちや概観を学ぶわけであるから、まず簡単な解剖学の本を通読することを薦める。それらの知識は、新たに深い知識が加わるごとに更新されていく必要があることはいうまでもない。解剖学は非常に基本的な学問であるから、最初にきっかけとなる知識がなければ他の学習も進まない。そして、学習レベルが上がるに応じて解剖学的な知識の範囲を拡大させていかなければ、他の知識の拡大をも妨げることになるので、十分な学習が必要である。だからといって、はじめからレベルの高い解剖学を学ぼうとしても、前提となる事項が多すぎるので学習効率はかえって低くなる。

○授業の概要

- 1 解剖学的な形態の見方、考え方について概説する。
- 2 体の分節構造、体節、運動器（骨格・筋）系の形態などについて概説する。
- 3 内臓の空間的配置と、それらを包む膜系ならびに膜によって作られる体腔について概説する。
- 4 上・下肢（四肢）の発生と形態について概説する。
- 5 各器官系の発生を学び、それによって複雑な人体の構造は理由をもってそのような配置になっているということを概説する。
- 6 他の科目で必要となる解剖学の基本事項を概説する。

○授業のキーワード

人体解剖、系統発生、個体発生、局所解剖学、系統解剖学、臨床解剖学、進化、Body plan、人体発生学、外胚葉、中胚葉、内胚葉、消化器系、呼吸器系、骨・筋系、外皮、神経系、頭頸部、泌尿生殖器官系、循環器系

○教科書・参考書

看護系、検査系などで使われる解剖の教科書をできるだけ早いうちに一冊かならず通読し、人体の構造の概略を理解しておくこと。

発生学関係については、人体発生学を参照のこと。

○他科目との関連

基本的な人体の構造の知識は全ての科目の基礎的な知識であり、密接に関連する。

M I Cで行われる人体構造総論、人体発生学、M3の人体解剖学、M3～4にかけておこなうブロック型カリキュラムの中での解剖学、M5のC C 1の中での臨床解剖学など、解剖学関連の講義・実習などは、何度もあるが、それぞれにレベルも目的も異なるので、それぞれのところできちんと学習しておくことが求められる。

○成績評価の方法

人体発生学（人体構造総論Ⅱ）の終了後に行う筆記試験によって評価する。また、人体構造総論Ⅲの終了後に筆記試験を行い、評価する。

○受講上の注意

講義資料はWeb CTに前もってあげておくので予習に活用してほしい。講義資料は講義時に配布する。また、Web CTから講義のビデオをストリーミングにて視聴できるので利用されたい。

解剖学は、まず名前（解剖学用語）を覚えることが重要であり、構造の名称や概念や形態をある程度理解したころから理解が進むことになる。よって、基本的な用語については、次回の講義においてはすでに習得したものとして進めるので、各回の分をそれぞれ理解することにしていただきたい。講義中の質問はもちろん歓迎するが、e-mailなどにての質問も歓迎する。

秋田恵一 akita.fana@tmd.ac.jp

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前 期	人体構造総論Ⅰ				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/22	火	14:10～15:30	解剖学とは？・人体の座標・用語について	秋田恵一	講義室1 Ⅰ期棟2階
6/29	火	12:40～14:00	脊椎動物の基本体制	〃	〃
7/6	火	14:10～15:30	内臓総論・体腔・胸部内臓	〃	〃
7/13	火	14:10～15:30	腹部内臓・泌尿生殖器系	〃	〃

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前 ・ 後 期		人体構造総論Ⅲ			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/8	木	8:50～10:10	人体発生学各論:体腔・膜系, 呼吸器系	秋田恵一	講義室 1 I 期棟 2 階
7/15	木	8:50～10:10	人体発生学各論:循環器系①	〃	〃
7/22	木	8:50～10:10	人体発生学各論:循環器系②	〃	〃
9/30	木	8:50～10:10	人体発生学各論:循環器系③・消化器系①	〃	〃
10/7	木	8:50～10:10	人体発生学各論:消化器系②	〃	〃
11/4	木	8:50～10:10	人体発生学各論:消化器系③	〃	〃
11/18	木	8:50～10:10	人体発生学各論:泌尿生殖器系①(泌尿器系)	〃	〃
12/2	木	8:50～10:10	人体発生学各論:泌尿生殖器系②(生殖器系)	〃	〃
12/16	木	8:50～10:10	人体発生学各論:頭頸部①(頭蓋骨・咽頭弓)	〃	〃
1/6	木	8:50～10:10	人体発生学各論:頭頸部②(顔面の形成, 頸部)	〃	〃
1/6	木	10:20～11:40	人体発生学各論:感覚器系	〃	〃

○教育目標

人体発生学は人体を構成する組織、臓器、器官の構造ならびに臨床的な発生異常やそれに伴う病態を理解するために、非常に重要である。教養（MIC）の人体構造総論において、すでに生殖子の発生から出生までを扱う人体発生学の総論的な部分については触れてきている。よって、ここでは、個々の器官系の発生を扱う各論的な部分について講義をおこなう。この講義によって、人体解剖学の講義・実習の中で取り扱われる個々の器官・構造がどのように形成されたか、どのようにして周囲構造との関係が作られてきたのかを考えていく。

個々の器官、構造の周囲構造との関係の実際については、人体解剖学・人体解剖学実習にて学ぶことになる。

○授業の概要

授業の項目を以下に列挙した。発生の流れを説明するとともに、それに関連する臨床的事項、先天異常、そして、それらの発生を制御するシステムなどについても発展事項として概説していくという流れになっている。

○授業のキーワード

生殖系列の起源、有糸分裂、減数分裂、男性生殖子、女性生殖子、月経周期、受精、卵割、着床、二層性胚盤、胎盤循環、原腸形成、三層性胚盤、体節、神経管、脊索、外胚葉、中胚葉、沿軸中胚葉、中間中胚葉、側板中胚葉、内胚葉、先天異常、ホメオボックス遺伝子、胎盤、胎膜、羊膜、臍帯、羊水、双胎、骨格系、筋系、体腔、心臓脈管系、呼吸器系、消化器系、尿生殖器系、頭・頸部、平衡聴覚器、視覚器、外皮系、

○教科書・参考書

どの教科書でもよいので、一冊購入し、参考にしていただきたい。

（翻訳ものについては、原書は最新版がある。用語を学習するために、原書を購入することを勧める。）

ラングマン 人体発生学（第9版） メディカル・サイエンス・インターナショナル（原書は10版がある）

ラーセン 最新人体発生学（第2版） 西村書店

ムーア 人体発生学（原書第6版） 医歯薬出版株式会社

遠山・大槻・中島編著 人体発生学 南山堂

○他科目との関連

人体の発生については、人体発生学における個体の発生を縦軸に、人体解剖学の中の器官発生を横軸として理解することになる。また、発生学は多くの科目との関連が深い。

○成績評価の方法

人体発生学（人体構造総論Ⅱ）終了後に筆記試験を行う。

○受講上の注意

講義資料は、Web CTに前もってあげておくので予習に活用してほしい。講義資料は講義時に配布する。講義は時間厳守とする。また、Web CTから講義のビデオをストリーミングにて視聴できるので利用されたい。

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 後 期		人 体 発 生 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/21	火	8:50～10:10	発生学の考え方・細胞分裂	秋田恵一	講義室1 I 期棟2階
1/4	火	8:50～10:10	生殖細胞発生・卵巣周期と排卵・受精・着床	〃	〃
1/11	火	8:50～10:10	二層性胚盤・原腸形成・三層性胚盤・三胚葉の運命・外胚葉由来の構造	〃	〃
1/18	火	8:50～10:10	中胚葉由来の構造・内胚葉由来の構造・尿膜・胎児期・先天異常	〃	〃
1/25	火	8:50～10:10	栄養膜の発達・胎盤・羊膜と臍帯・双胎	〃	〃
2/1	火	8:50～10:10	発生学各論: 骨格系	〃	〃
2/8	火	8:50～10:10	発生学各論: 関節・筋系	〃	〃

○教育目標

私たちの生体は細胞社会である。個々の細胞が独立した機能を持ちながら、他の細胞や細胞外環境と連携しながら個体としての見事な機能を発揮している。従って基礎医学、臨床医学を学ぶ上でも、細胞に焦点をおいた細胞生物学の理解は必須である。細胞生物学の進歩は著しく、もはや形態と機能をわけて論じることは困難である。そこで、「細胞生物学Ⅰ」では細胞生物学の領域でも一般的かつ普遍性の高い現象について細胞の機能を含めて取り扱い、医学習得の基礎を築くことを目的とする。また、生命科学や医学分野における最新の研究成果や研究手法なども適宜紹介し、研究することの意義についても考える。

○授業の概要

- 1) 細胞内のしくみ：細胞内小器官、細胞骨格などの構造と機能、それらの連携や小胞輸送のしくみなどについて学ぶ。
- 2) 細胞の機能：個々の独立した細胞としての振る舞いについて、細胞周期（細胞増殖）、細胞死、ストレス応答、形質発現を中心に学ぶ。
- 3) 細胞外の環境：細胞外基質、細胞接着を中心に学び、多細胞生物における細胞生物学を理解する。

○教科書・参考書

Molecular Biology of the Cell 第5版 (B. Albertsら著、Routledge 2008年)

(同翻訳) 細胞の分子生物学 第5版 (中村ら翻訳、2010年)

Cells 第1版 (B. Lewinら編、Jones & Bartlett Pub、2006年)

Molecular Cell Biology 第6版 (H. Lodishら著、W H Freeman & Co、2007年)

細胞生物学 第1版 (永田ら編、東京化学同人、2006年)

Essential 細胞生物学 原著第2版 (B. Albertsら著、中村桂子ら訳、南江堂、2005年)

医学のための細胞生物学 第1版 (永田、塩田編、南山堂、2009年)

○他科目との関連

遺伝子発現については「遺伝子と生命」で、神経、筋細胞などのもつより高次な細胞機能については「細胞生物学Ⅱ（細胞の機能）」で、各組織レベルでの細胞機能については「細胞・組織の構造（細胞の構造Ⅱ）」で扱われ、いずれとも密接に関係する。

○成績評価の方法

筆記試験によって評価する。

○受講上の注意

講義では細胞生物学において特に重要なトピックスを取り扱うが、できれば1－2学年のうちに教科書を利用して細胞生物学的視点を十分に養っておくことが望ましい。現在の医学では分子、細胞レベルで議論されることが多く、そのための基盤を築いておくことは重要である。実習は行わないが、研究室訪問は歓迎する。

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 前 ・ 後 期		細胞の構造Ⅰ （細胞生物学Ⅰ）			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
9/7	火	12:40～14:00	分泌経路（１）	水島 昇	講義室1 Ⅰ期棟2階
9/14	火	12:40～14:00	分泌経路（２）	〃	〃
9/28	火	12:40～14:00	細胞骨格	井上明宏	〃
10/5	火	12:40～14:00	エンドサイトーシス	水島 昇	〃
10/19	火	12:40～14:00	ミトコンドリア・ペルオキシソーム	石原直忠	〃
10/19	火	14:10～15:30	細胞周期	〃	〃
10/26	火	12:40～14:00	細胞死	清水重臣	〃
11/2	火	12:40～14:00	ストレス応答	（一條秀憲）	〃
11/2	火	14:10～15:30	幹細胞と細胞分化	西村栄美	〃
11/9	火	12:40～14:00	細胞外基質Ⅰ	柳下正樹	〃
11/16	火	12:40～14:00	細胞外基質Ⅱ	〃	〃
11/16	火	14:10～15:30	細胞接着	畑 裕	〃

○教育目標

すでに「細胞生物学Ⅰ」において細胞の一般的な構造と機能を学んだ。その知識を基礎として、特に筋肉と神経細胞という二つの特殊な細胞を例として、細胞機能発現の分子機構を学ぶ。更に生体膜でのイオン透過性の制御と膜の興奮性について理解する。

○授業の概要

- (1) 細胞膜：細胞膜を介してのイオン濃度勾配形成の原理、膜電位の形成と膜の興奮についての生物物理学的な意味を中心に解説する。
- (2) イオンチャネルと受容体：細胞膜の内在性タンパク質であるイオンチャネルと受容体について、その分子実体、構造—機能連関、生理機能について講義する。
- (3) 筋の収縮機構：特に骨格筋を題材として、膜の興奮から筋収縮に至る分子機構の概要を説明する。
- (4) 神経細胞の構造と機能：中枢神経系を構成する主要な細胞要素である神経細胞について、細胞分化、形態形成、シナプスの形成と機能発現、シグナル伝達機構、グリアによる機能修飾などの概念を中心として解説する。

○授業のキーワード

各回の授業の際に講義担当教員より提示する。

○教科書・参考書

宮川博義、井上雅司共著 ニューロンの生物物理 丸善 ISBN-13 978-4621073308

Cellular and Molecular Neurobiology, 2nd edition, Hammond, Academic Press ISBN-13 978-0123116246 (2001)

Ion Channels of Excitable Membranes, 3rd edition, B. Hille, Sinauer ISBN-13 978-0878933211 (2001)

From Neuron to Brain, 4th edition, A. Martin et al., Academic Press ISBN-13 978-0878934393 (2001)

○他科目との関連

MICの中の講義では「細胞生物学Ⅰ」と特に密接に関連する。3学年以降の講義では、組織学、生理学、薬理学、神経科学などの授業を理解する上での基礎となる。

○成績評価

筆記試験による。

○受講上の注意

細胞生物学は授業で取り上げるトピックス以外にも重要な内容を多く含む分野である。特に授業で取り上げない部分に関しては自らで教科書を読むなどして理解を深める努力をしていただきたい。

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 後 期		細胞生物学Ⅱ (細胞の機能)			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
11/30	火	12:40～14:00	序論	中田隆夫	講義室1 I 期棟2階
12/7	火	12:40～14:00	細胞膜電位の基礎 I	杉原 泉	〃
12/7	火	14:10～15:30	細胞膜電位の基礎 II	〃	〃
12/14	火	14:10～15:30	イオンチャンネルと受容体 I	古川哲史	〃
12/21	火	10:20～11:40	イオンチャンネルと受容体 II	〃	〃
1/4	火	10:20～11:40	能動輸送	杉原 泉	〃
1/4	火	12:40～14:00	筋の収縮機構 I	古川哲史	〃
1/11	火	10:20～11:40	筋の収縮機構 II	〃	〃
1/18	火	10:20～11:40	神経細胞 発生と分化	井上明宏	〃
2/1	火	10:20～11:40	神経細胞 構造と機能	中田隆夫	〃
2/8	火	10:20～11:40	シナプスの構造と機能	〃	〃
2/8	火	12:40～14:00	神経細胞とグリア細胞	〃	〃

○教育目標

細胞は多細胞生物の生命現象の基本単位であり、その構造と機能の研究は生命科学・医学の基盤となるものである。本授業科目では細胞生物学に関する基礎知識を基にして、細胞の集合体としての組織がどのようにしてその機能を発現するのかを理解する事を目指す。

○授業の概要

上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織という人体を構成する主要な組織構造を具体例として扱い、構成細胞の構造と機能に関する理解を基にして、多細胞からなる組織構造を理解する。また、細胞間相互作用により、組織レベルでどのような機能が新たに発揮されるのかを理解する。更に細胞増殖・細胞死の観点から、組織内での細胞動態について理解する。組織学総論に対応する。

○授業のキーワード

各回の授業の際に講義担当教員より提示する。

○教科書・参考書

分子細胞生物学の教科書：

Molecular Biology of the Cell, 5th edition, by B. Alberts et al., Garland ISBN-13 978-0815341062 (2008)

Molecular Cell Biology, H. Lodish et al., 6th edition, Freeman & Co., ISBN-13 978-1429203142 (2007)

組織学の教科書：

標準組織学総論 医学書院 (2002)

最新カラー組織学 西村書店 (2003)

Color Textbook of Histology, 3rd edition, by Gartner and Hiatt, Saunders, ISBN-13 978-1416029458 (2006)

発生学の教科書：

Human Embryology, 3rd edition, W.J. Larsen, Churchill/Livingstone ISBN-13 978-0443065835

○他科目との関連

MICの中の講義では「細胞生物学Ⅰ」、「細胞生物学Ⅱ」と特に密接に関連する。3学年以降の講義では、組織学、生理学、薬理学、神経科学などの授業を理解する上での基礎となる。

○成績評価

筆記試験による。

○受講上の注意

授業は講義を行い、その内容について実習を行うという形式をとるので、24色程度の色鉛筆と無地のノート（綴じられたもの）を用意すること。

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 後 期		細胞・組織の構造 (細胞の構造Ⅱ)			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/7	木	10:20～11:40	総論Ⅰ	中田隆夫	講義室1 I期棟2階
10/14	木	10:20～11:40	総論Ⅱ	井上明宏	組織実習室 I期棟4階
11/4	木	10:20～11:40	細胞分化Ⅰ(上皮組織・講義)	中田隆夫	講義室1 I期棟2階
11/11	木	8:50～10:10	細胞分化Ⅱ(上皮組織・実習)	〃	組織実習室 I期棟4階
11/11	木	10:20～11:40	〃	〃	〃
11/18	木	10:20～11:40	細胞分化Ⅲ(支持組織・講義)	井上明宏	講義室1 I期棟2階
11/25	木	8:50～10:10	細胞分化Ⅳ(支持組織・実習)	〃	組織実習室 I期棟4階
11/25	木	10:20～11:40	〃	〃	〃
12/2	木	10:20～11:40	細胞機能発現Ⅰ(筋・講義)	〃	講義室1 I期棟2階
12/9	木	8:50～10:10	細胞機能発現Ⅱ(筋・実習)	〃	組織実習室 I期棟4階
12/9	木	10:20～11:40	〃	〃	〃
1/13	木	8:50～10:10	細胞機能発現Ⅲ(神経・講義)	中田隆夫	講義室1 I期棟2階
1/20	木	8:50～10:10	細胞機能発現Ⅳ(神経・実習)	〃	組織実習室 I期棟4階
1/20	木	10:20～11:40	〃	〃	〃
1/27	木	8:50～10:10	細胞機能発現Ⅴ(免疫系・実習)	井上明宏	講義室1 I期棟2階
2/3	木	8:50～10:10	細胞機能発現Ⅵ(免疫系・実習)	〃	組織実習室 I期棟4階
2/3	木	10:20～11:40	〃	〃	〃

○教育目的・到達目標

本学が掲げる教育理念・目的（「幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観を持ち、自ら問題を提起し解決する姿勢に富み、医学のフロンティアを切り開く創造能力があり、地球的規模で働く国際人としての意識を持つ医師・医学研究者の育成」）のためには、以下に挙げる資質が不可欠である。

- ・ グローバルスタンダードに沿った医療を提供する
- ・ 基礎・臨床研究を行い、情報を世界に向けて発信する
- ・ 国際舞台で意見交換を行い、生命科学の発展に貢献する

これら資質の獲得のためには、医学知識の習得に加え、以下の能力の習得が必要である。

- 1) 英語による医学情報（論文やデータベース）を読む能力
- 2) 英語により情報発信を行い、また国際舞台で議論する能力
- 3) 臨床問題解決における、病歴・身体所見を重視した米国式アプローチを実践する能力

したがって医学英語 I および II においては、これら 3 つの能力の習得を到達目標に掲げ、それらに対する学生による必要性の認識、および自己主導的学習をサポートするための学習機会を提供する。

○授業の内容

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医学知識習得ステージに合わせた学習スケジュールを組み、オンライン教材も利用し、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医学知識・臨床技能習得ステージに合わせたトピック・論点を選定し、2から4人ずつの小グループにて議論を行う。毎回Native speaker(s)を講師兼Moderator/facilitatorとして配備する。トピック・論点の選定や議論内容は、以下の通りである。

【医学英語 I】

第1/2学年：新聞・雑誌などの、「健康・医学」関連トピック記事

【医学英語Ⅱ】

第3学年：主に倫理的問題を中心とした症例検討

第4学年：臨床問題解決における米国式アプローチ習得およびEBM（Evidence-based medicine）概念理解/実践も兼ねた症例検討

○教科書・参考書

- ・医学関連英語語彙・フレーズの習得に関しては、配布資料または教科書（別途指定）を用いる。
- ・Small group discussionに関しては、毎回資料を配布する。
- ・医学英語Ⅱ第4学年においてはEBM参考書（別途指定）を用いる。

○成績評価の方法

【医学英語Ⅰ】

第2学年末に試験を行う。形式は個別の口答試問とする。最終成績は、Small group discussionへの参加（50%）、Vocabulary quiz成績（20%）、そして期末試験成績（30%）に基づき判定される。

【医学英語Ⅱ】

第4学年中間に試験を行う。形式は筆答試験を予定している。最終成績は、Small group discussionへの参加/ Group work提出資料（60%）、Vocabulary quiz成績（20%）、そして期末試験成績（20%）に基づき判定される。

○受講上の注意

3分の2以上出席していないものは筆答試験の期末試験受験資格を欠く。したがって欠席の場合には必ず届け出ること。遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。

Small group discussionに際しては、あらかじめ配布された資料を必ず事前に読み、自分自身の意見をまとめ、当日グループメンバーに対して発表し、議論に参加できるよう、十分準備しておくこと。

平成22年度第1学年授業内容（MIC）

1 学 年 後 期		医 学 英 語 I			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/26	火	14:10～15:30	TBA	高田和生 他	講義室1 I 期棟2階
11/9	火	14:10～15:30	TBA	〃	〃
11/30	火	14:10～15:30	TBA	〃	〃
12/21	火	14:10～15:30	TBA	〃	〃
1/4	火	14:10～15:30	TBA	〃	〃
1/25	火	14:10～15:30	TBA	〃	〃
2/8	火	14:10～15:30	TBA	〃	〃

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前・後期		医 学 英 語 I			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/22	木	10:20～11:40	TBA	高田和生 他	講義室 1 I 期棟 2 階
5/6	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
5/20	木	14:10～15:30	TBA	〃	〃
6/3	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
6/17	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
7/1	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
7/15	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
9/30	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
10/14	木	12:40～14:00	TBA	〃	〃
11/4	木	12:40～14:00	TBA	〃	〃
11/18	木	12:40～14:00	TBA	〃	〃
11/25	木	12:40～14:00	TBA	〃	〃
12/9	木	12:40～14:00	TBA	〃	〃
12/16	木	12:40～14:00	TBA	〃	〃
1/13	木	12:40～14:00	TBA	〃	〃
1/27	木	12:40～14:00	医学英語（口頭試問）	〃	
1/27	木	14:10～15:30	医学英語（口頭試問）	〃	

○教育目標

日常生活の中で、体のなかに免疫システムが備わっているおかげで私たちの生命が守られているのだと実感することはまずない。しかし実際には、私たちの体は外からは細菌やウイルスなど病原体の侵入、内においては癌細胞の出現と、絶えず自己の存続を脅かすような危険にさらされている。事実、生まれつき免疫システムに障害がある原発性免疫不全症患者や後天的に免疫不全状態となるエイズ患者では重篤な感染症を繰り返し、また白血病や肉腫などの悪性腫瘍が多発する。一方、医療技術の進歩にともない、臓器移植や再生医療など本来免疫システムが想定していなかったような人為的な状況が出現し、拒絶反応など免疫反応の制御がクローズアップされてきている。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの免疫病も大きな社会問題となっている。このような免疫の関わる疾患の根本的治療法を開発するためには、免疫システムがどのような基盤から成り立ち、全体としてどのように制御されているのかを理解する必要がある。

「免疫Ⅰ」では、まず免疫システムの特徴を把握し、リンパ球をはじめとする免疫担当細胞がどのような相互作用を経て外来異物に対する免疫反応を引き起こすのか、どのような機構によって免疫反応が統御されているのかを分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解することをめざす。ひきつづいておこなわれる「免疫Ⅱ」では、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの医療の現場で問題となる免疫病を理解するという観点から授業がおこなわれるので、「免疫Ⅰ」で免疫システムの基本をしっかりと理解しておく必要がある。

○授業の概要

1. 生体防御における免疫システムのユニークな働きと成り立ちを理解する
2. 免疫システムを構築する組織・細胞の種類と基本的機能を理解する
3. 自然免疫と獲得免疫の違いとその有機的連携を理解する
4. 自己と非自己の識別機構ならびにそれに関わる抗原受容体の構造と機能を理解する
5. 免疫反応の正と負の制御機構を理解する
6. 免疫システムの破綻と免疫病の発症の基本を理解する

○授業のキーワード

生体防御、自己と非自己の識別、免疫寛容、特異性、多様性、記憶、自然免疫、獲得免疫、免疫システム、リンパ組織、骨髄、胸腺、リンパ節、脾臓、免疫担当細胞、リンパ球、T細胞、ヘルパーT細胞、Th1/Th2、キラーT細胞、調節性T細胞、B細胞、NK細胞、抗原提示細胞、マクロファージ、樹状細胞、抗原、抗体、補体、抗原レセプター、遺伝子再構成、主要組織適合抗原、MHCクラスI、MHCクラスII、抗原プロセッシング、抗原提示、共刺激、サイトカイン、ケモカイン、接着分子、ホーミング、免疫不全症、自己免疫疾患、アレルギー、感染症、癌、臓器移植、拒絶反応、免疫抑制剤、遺伝子治療

○教科書・参考書

書名	著者名	発行所名
標準免疫学第2版（2002年発行）	谷口克・宮坂昌之	医学書院
医系免疫学第11版（2009年発行）	矢田純一	中外医学社
Cellular and Molecular Immunology 6 th Edition（2007年発行）	A.K. Abbas et al.	SAUNDERS
Immunobiology 7 th Edition（2007年発行）	C.A. Janeway et al.	Harcourt Health Science

○他科目との関連

免疫システムを構成する臓器・組織・細胞を理解するためには解剖学・発生学・組織学の知識が必要である。生体防御機構を理解するためには免疫系が応答する病原微生物の特徴を知ることが大切であり、微生物学・医動物学の知識を必要とする。臨床の現場では、感染症、悪性腫瘍、アレルギー疾患、自己免疫疾患、臓器移植など非常に多岐にわたる領域で免疫が関与しており、免疫の授業内容はほとんどすべての臨床系科目と深い関連をもつ。

○成績評価の方法

免疫Ⅰ、免疫Ⅱに関して、それぞれのコース終了後に筆記試験をおこない評価する。また、各授業中に理解度を把握するため適宜小テストをおこなうことがある。

○受講上の注意

一方向的授業ではなくインターラクティブな双方向授業をめざしているので、ただじっと聞いているだけではなく、疑問に感じたことを積極的に質問し、討議の輪をひろげる努力をすること。授業では免疫システムのおもしろさ・巧妙さをまず理解できるように的を絞って討議するため、網羅的な講義はしない。したがって、いずれかの教科書（英語のものが望ましい）を通読し、免疫システムの基本的理解を深めること。

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前 期		免 疫 I			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/15	木	12:40 ～ 14:00	序論「免疫系の機能と特徴」	烏山 一	講義室 1 I 期棟 2 階
4/15	木	14:10 ～ 15:30	免疫系を構築する細胞・器官と役割	〃	〃
4/22	木	12:40 ～ 14:00	抗体の働き・構造と補体の役割	〃	〃
4/22	木	14:10 ～ 15:30	抗体遺伝子の特徴と再構成	〃	〃
5/6	木	12:40 ～ 14:00	B細胞の機能と分化	〃	〃
5/6	木	14:10 ～ 15:30	T細胞の種類と機能	神奈木真理	〃
5/13	木	12:40 ～ 14:00	T細胞レセプター	〃	〃
5/13	木	14:10 ～ 15:30	抗原提示と抗原認識	〃	〃
5/20	木	12:40 ～ 14:00	NK細胞の機能と自己非自己識別機構	（反町典子）	〃
5/27	木	12:40 ～ 14:00	T細胞の発生と自己寛容の成立	神奈木真理	〃
5/27	木	14:10 ～ 15:30	サイトカインによる免疫制御	中村正孝	〃
6/3	木	12:40 ～ 14:00	共受容体による免疫調節、免疫寛容	東 みゆき	〃
6/10	木	12:40 ～ 14:00	自然免疫と獲得免疫の相互作用	鐺田武志	〃

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前・後期		免 疫 II			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/17	木	12:40～14:00	感染症と免疫	神奈木真理	講義室 1 I 期棟 2 階
6/24	木	12:40～14:00	腫瘍と免疫	〃	〃
7/1	木	12:40～14:00	HLAと疾患	木村彰方	〃
7/8	木	12:40～14:00	臓器移植と免疫	磯部光章	〃
7/15	木	12:40～14:00	粘膜免疫(腸管免疫)	渡辺 守	〃
7/22	木	12:40～14:00	妊娠と免疫(生殖免疫): 不育症	(己斐秀樹)	〃
9/30	木	12:40～14:00	先天性免疫不全症	峯岸克行	〃
10/7	木	12:40～14:00	後天性免疫不全症(AIDSを中心として)	(山本直樹)	〃
10/14	木	14:10～15:30	アレルギー	宮坂信之	〃
11/4	木	14:10～15:30	自己免疫疾患	〃	〃
11/11	木	14:10～15:30	加齢と免疫異常	(廣川克昱)	〃
11/18	木	14:10～15:30	免疫異常治療の最先端	上坂 等	〃
11/25	木	14:10～15:30	予備日		〃

○教育目標

ほんのしばらく前までは、夢物語であった脳の働き、たとえば学習、記憶、思考などの機能の解明には、どの辺を攻めれば近づけるかという戦略が、日常の研究の中に現れる時代になってきた。そうなると固定した概念からなる従来の生理学、解剖学、生化学、薬理学という枠組みで物を考えるわけには行かなくなる。世界の趨勢ではこのような分野をまとめて神経科学 (Neuroscience) と総称し、上述のような問題、あるいはそれにいたるための種々の基礎的な研究を一堂に論じる場が25年ほど前に生まれた。幸いこの大学には神経科学分野に身をおく研究者が多いので、授業科目にもこの総合的な考えを持ち込むこととした。もちろん上のような機能の問題に直ちに取り組めないが、最終的な目標をそのあたりに置いていることを授業担当者が自覚して、基礎的な形態、機能、物質、それに薬物の作用などと共に、初歩的な臨床の問題までをできるだけ理解しやすいように配列して講義、実習に臨む予定である。

正常状態における神経系の理解は、異常状態における神経系の病態の理解に必要不可欠であるので、知識の羅列としてではなく、科学的な物の見方、考え方にたって内容を理解できる学生を育成することを考えて授業を進める。臨床医学に基礎医学がどのように繋がっていくかが理解できるようにする努力をこれに加えたい。

○授業の概要

神経解剖学としては中枢神経系の基本型を保っている脊髄から始め、高度に分化した大脳皮質に上るような順に中枢神経系を見ていく。すなわち延髄、橋、中脳、間脳、運動機能に関与する小脳、基底核、情動や本能と関係の深い辺縁系がこの間に入るが、その間に脳の実物を観察する脳実習を週一度から二度の割合で行う。これらに加えて数回、感覚系や運動系をシステムとして形態学的観点から見なおす授業を加える。

神経生理学については神経活動の基本となる興奮と伝導、シナプス伝達など細胞レベルの話題と共に、脳と脊髄については、形態学のように部位別というよりも、システム別を重視し、しかも神経解剖学の講義の進行も考慮して授業を行う。

神経薬理学は、神経系の薬物に対する反応が話題の中心となるが、その基礎としてのリセプター、チャネルの構造、機能から説き起こし、個体の反応にまで進む。

○授業のキーワード

神経解剖学、神経生理学、神経化学、神経薬理学、神経学、脳神経外科学

○教科書・参考書

神経科学

E.R.Kandel, J.H.Schwartz and T.M.Jessell, Principles of Neural Science (5th ed.) McGraw Hill, 2010.

脳神経科学 伊藤正男 他、三輪書店 2003.

神経解剖学

M.B.Carpenter, Core Text of Neuroanatomy, (4th ed.) Williams & Wilkins, 1991.

L. Heimer, The Human Brain and Spinal Cord (2nd ed.) Springer, 1995.

J. Nolte, The Human Brain (5th ed.) Mosby, 2002.

神経生理学

小澤澁司 他、標準生理学 第7版 医学書院 2009.

古河太郎 他、現代の生理学 改訂第3版 金原出版 1996.

小幡邦彦 他、新生理学第4版 文光堂 2003.

神経薬理学

ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学MEDSi 2006

Siegel et al., Basic Neurochemistry, (6th ed.) Lippincott Williams of Wilkins 1998.

The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw Hill 11版 2005

○成績評価の方法

講義担当者が所属する分野毎（神経機能形態学、システム神経生理学、細胞薬理学）に試験を行い、それぞれに合格しなければならない。詳細については、必要に応じて掲示する。

○受講上の注意

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いておいて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前・後期		神 経 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/15	木	10:20～11:40	神経の興奮と伝導 I	杉原 泉	講義室 1 I 期棟 2 階
4/22	木	8:50～10:10	神経の興奮と伝導 II	〃	〃
5/6	木	8:50～10:10	シナプス I（シナプスの生理学－1）	〃	〃
5/13	木	8:50～10:10	シナプス II（シナプスの生理学－2）	〃	〃
5/20	木	8:50～10:10	シナプス III（シナプスの生理学－3）	〃	〃
5/27	木	8:50～10:10	運動系の中樞神経制御機構 脊髄 I（運動ニューロンと筋）	杉内友理子	〃
6/3	木	8:50～10:10	運動系の中樞神経制御機構 脊髄 II（脊髄反射）	〃	〃
6/10	木	8:50～10:10	運動系の中樞神経制御機構 大脳運動野の機能	（篠田義一）	〃
6/17	木	8:50～10:10	運動系の中樞神経制御機構 錐体路とその障害の病態生理	〃	〃
6/24	木	8:50～10:10	感覚系の生理学 ①体性感覚系 I．末梢受容器の性質	杉内友理子	〃
7/1	木	8:50～10:10	感覚系の生理学 ①体性感覚系 II．中枢機構	〃	〃
1/6	木	12:40～14:00	感覚系の生理学 ②視覚系 I．網膜	伊澤佳子	〃
1/13	木	10:20～11:40	感覚系の生理学 ②視覚系 II．色覚	〃	〃
1/20	木	12:40～14:00	感覚系の生理学 ③嗅覚と味覚	杉原 泉	〃
2/3	木	12:40～14:00	感覚系の生理学 ④聴覚系 I．末梢機構	〃	〃

平成22年度第2学年授業内容（MIC）

2 学 年 前 ・ 後 期		生 理 学 導 入			
年月日	曜日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
11/11	木	12:40～14:00	消化と吸収(1)	水島	講義室1 I 期棟2階
12/2	木	14:10～15:30	消化と吸収(2)	〃	〃

授 業 概 要

(第 3 学年)

○教育目標

医学の中で数多くある“・・・学”は、一般的には対象あるいは主たる方法をもって分類されている。例えば、病気の成り立ちとその転機を対象とする分野として、細胞・組織変化を主として形態的な面から追求する病理学、そして化学的な面からの病態生化学などである。それらは謂わば広い対象の中を主たる方法をもって“・・・学”と類別している。

翻って、あることを解明しようとする場合には、まずはじめに知ろうとするものの目的あるいは対象があって、次にそれを効率よく証明するための方法は？ ということであるから、方法は知ろうとする目的に従属している。現在、科学の進歩はめざましく、主たる方法によって類別されている“・・・学”といった分野では、そのような枠組みを越えた学際的な研究がなされるようになっている。

このようなことから、腫瘍学授業の目的は、病気の概念（奇形、物質代謝異常、炎症、循環障害、腫瘍）を学ぶ病理学総論から腫瘍の部分を取り出してあらゆる面から腫瘍を眺めて、腫瘍の全貌を把握することにある。つまり、“・・・学”の中で腫瘍について学ぶ部分があるが、それらを系統的に一括して腫瘍学と呼ぶ。

○授業の概要

この科目は1週間の間に講義と実習全てを集中して、「腫瘍学ブロック」として授業が行われる。この科目は、腫瘍とは何かという問題に始まり、腫瘍の特徴を病理学、分子生物学、疫学など様々な視点から概観することを目的とする。診断や治療などの臨床的側面についてはこの授業科目では扱わず、後に臨床各科やクリニカルクラークシップなどにおいて扱われる。

授業の方法としては、ブロック期間中3回のPBLを軸とし、講義によって腫瘍全般に関わる基礎知識を、また顕微鏡自習によって代表的な腫瘍の観察を補完する。そして最終日には主としてPBLの内容を総括するための時間を設けてある。

ブロック期間中は自習時間を多く取ってあるので、PBLの内容を深めるために、講義や実習で直接触れられなかった点についても自己学習が求められる。

○授業のキーワード

良性腫瘍、悪性腫瘍、上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、癌腫、肉腫、浸潤、転移、遺伝子変化、癌組織発生

○教科書・参考書

腫瘍に関する全体を腫瘍学としてまとめた教科書はない。腫瘍学は病理学総論と臨床各科の教科書の腫瘍部分を参考にされたい。

○他科目との関連

授業の概要で述べてあるように、腫瘍学は分子水準での細胞生物学から実際における診断・治療に至るまでを包括している。既存の“・・・学”の枠組みを外した学際的な科目であるが故に、ウイルス、遺伝子などを対象とする細胞生物学的分野と、広い分野にわたって関連している。

○成績評価の方法

筆記試験を行い、PBLや実習の出席状況などを加味して、総合的に判定する。

具体的な日程および内容に関しては、事前に行う説明会にて説明します。

○教育目標

ほんのしばらく前までは、夢物語であった脳の働き、たとえば学習、記憶、思考などの機能の解明には、どの辺を攻めれば近づけるかという戦略が、日常の研究の中に現れる時代になってきた。そうすると固定した概念からなる従来の生理学、解剖学、生化学、薬理学という枠組みで物を考えるわけには行かなくなる。世界の趨勢ではこのような分野をまとめて神経科学 (Neuroscience) と総称し、上述のような問題、あるいはそれにいたるための種々の基礎的な研究を一堂に論じる場が25年ほど前に生まれた。幸いこの大学には神経科学分野に身をおく研究者が多いので、授業科目にもこの総合的な考えを持ち込むこととした。もちろん上のような機能の問題に直ちに取り組めないが、最終的な目標をそのあたりに置いていることを授業担当者が自覚して、基礎的な形態、機能、物質、それに薬物の作用などと共に、初歩的な臨床の問題までをできるだけ理解しやすいように配列して講義、実習に臨む予定である。

正常状態における神経系の理解は、異常状態における神経系の病態の理解に必要不可欠であるので、知識の羅列としてではなく、科学的な物の見方、考え方にたって内容を理解できる学生を育成することを考えて授業を進める。臨床医学に基礎医学がどのように繋がっていくかが理解できるようにする努力をこれに加えたい。

○授業の概要

神経解剖学としては中枢神経系の基本型を保っている脊髄から始め、高度に分化した大脳皮質に上るような順に中枢神経系を見ていく。すなわち延髄、橋、中脳、間脳、運動機能に関与する小脳、基底核、情動や本能と関係の深い辺縁系がこの間に入るが、その間に脳の実物を観察する脳実習を週一度から二度の割合で行う。これらに加えて数回、感覚系や運動系をシステムとして形態学的観点から見なおす授業を加える。

神経生理学については神経活動の基本となる興奮と伝導、シナプス伝達など細胞レベルの話題と共に、脳と脊髄については、形態学のように部位別というよりも、システム別を重視し、しかも神経解剖学の講義の進行も考慮して授業を行う。

神経薬理学は、神経系の薬物に対する反応が話題の中心となるが、その基礎としてのリセプター、チャネルの構造、機能から説き起こし、個体の反応にまで進む。

○授業のキーワード

神経解剖学、神経生理学、神経化学、神経薬理学、神経学、脳神経外科学

○教科書・参考書

神経科学

E.R.Kandel, J.H.Schwartz and T.M.Jessell, Principles of Neural Science (5th ed.) McGraw Hill, 2010.

脳神経科学 伊藤正男 他、三輪書店 2003.

神経解剖学

M.B.Carpenter, Core Text of Neuroanatomy, (4th ed.) Williams & Wilkins, 1991.

L. Heimer, The Human Brain and Spinal Cord (2nd ed.) Springer, 1995.

J. Nolte, The Human Brain (5th ed.) Mosby, 2002.

神経生理学

小澤澁司 他、標準生理学 第7版 医学書院 2009.

古河太郎 他、現代の生理学 改訂第3版 金原出版 1996.

小幡邦彦 他、新生理学 第4版 文光堂 2003.

神経薬理学

ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学MEDSi 2006

Siegel et al., Basic Neurochemistry, (6th ed.) Lippincott Williams of Wilkins 1998.

The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw Hill 11版 2005

○成績評価の方法

講義担当者が所属する分野毎（神経機能形態学、システム神経生理学、細胞薬理学）に試験を行い、それぞれに合格しなければならない。詳細については、必要に応じて掲示する。

○受講上の注意

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いておいて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		神 経 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/10	月	12:40～14:00	イントロダクション、神経系の発生総論	寺田純雄	講義室2 I 期棟2階
5/10	月	14:10～15:30	脳の概観、髄膜と血管、脳神経の観察	〃	〃
5/17	月	12:40～14:00	脊髄の組織学(1)	〃	〃
5/17	月	14:10～15:30	脊髄の組織学(2)	〃	〃
5/24	月	12:40～14:00	脳幹・小脳の分離、菱形窩〔第四脳室〕、脳幹スライス標本の観察	〃	〃
5/31	月	12:40～14:00	延髄、橋の組織学	〃	〃
5/31	月	14:10～15:30	中脳の組織学	〃	〃
6/7	月	12:40～14:00	特別講義1／脳幹網様体・自律神経系	(大竹一嘉)	〃
6/7	月	14:10～15:30	特別講義2／神経系の血流支配	(大竹一嘉)	〃
6/8	火	12:40～14:00	小脳の皮質区分と小脳核、線維結合の観察	寺田純雄	〃
6/14	月	12:40～14:00	小脳の組織学(1)	〃	〃
6/14	月	14:10～15:30	小脳の組織学(2)	〃	〃
6/15	火	12:40～14:00	大脳の半切、大脳皮質(区分)、第三脳室、視床下部の観察	〃	〃
6/15	火	14:10～15:30	特別講義3／間脳の構造と機能(1)	(大竹一嘉)	〃
6/21	月	12:40～14:00	島皮質、皮質における連合・交連・投射線維、視放線、内包、視床、基底核等の観察(1)	寺田純雄	〃
6/21	月	14:10～15:30	島皮質、皮質における連合・交連・投射線維、視放線、内包、視床、基底核等の観察(2)	〃	〃
6/22	火	12:40～14:00	特別講義4／間脳の構造と機能(2)	(大竹一嘉)	〃
6/22	火	14:10～15:30	特別講義5／味覚と嗅覚	(大竹一嘉)	〃
6/22	火	15:40～17:00	特別講義6／脳幹の解剖学のまとめ、前庭覚と聴覚	(八木沼洋行)	〃
6/28	月	12:40～14:00	大脳皮質の組織学、代表的な神経伝導路のまとめ(1)	寺田純雄	〃
6/28	月	14:10～15:30	大脳皮質の組織学、代表的な神経伝導路のまとめ(2)	〃	〃
6/29	火	12:40～14:00	特別講義7／神経系の発生各論	(大竹一嘉)	〃
6/29	火	14:10～15:30	側脳室、海馬と脳弓、扁桃核、視床、基底核等の観察	寺田純雄	〃
7/1	木	10:20～11:40	自律神経系Ⅱ(自律神経系の生理学－1)	(片山芳文)	〃
7/5	月	12:40～14:00	辺縁系と海馬の組織学	寺田純雄	〃
7/5	月	14:10～15:30	視覚伝導路	〃	〃
7/6	火	12:40～14:00	大脳基底核	〃	〃
7/6	火	14:10～15:30	大脳のスライス標本の観察、まとめ	〃	〃
7/7	水	10:20～11:40	自律神経系Ⅲ(自律神経系の生理学－2)	(片山芳文)	〃
7/8	木	10:20～11:40	感覚系の生理学④聴覚系 I. 末梢機構	杉原 泉	〃
7/12	月	8:50～10:10	神経科学(神経構造)試験		

平成22年度医学部医学科授業内容

年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/13	火	8:50～10:10	感覚系の生理学 ⑤前庭系 Ⅰ. 前庭脊髄系と筋トーン	杉内友理子	講義室2 Ⅰ 期棟2階
7/13	火	10:20～11:40	感覚系の生理学 ⑤前庭系 Ⅱ. 前庭眼反射	〃	〃
7/14	水	10:20～11:40	シナプス Ⅳ (神経筋接合部)	田邊 勉	〃
7/16	金	8:50～10:10	カルシウムと細胞内情報伝達系	〃	〃
7/23	金	8:50～10:10	自律神経系Ⅳ (交感神経作動薬-1)	三枝弘尚	〃
8/31	火	8:50～10:10	自律神経系Ⅴ (交感神経作動薬-2)	〃	〃
9/3	金	8:50～10:10	自律神経系Ⅵ (副交感神経作動薬-1)	〃	〃
9/8	水	8:50～10:10	自律神経系Ⅶ (副交感神経作動薬-2)	〃	〃
9/29	水	8:50～10:10	本能行動・脳高次機能と中枢神経薬理 中枢神経薬理Ⅰ	〃	〃
9/29	水	10:20～11:40	運動系の中枢神経制御機構 眼球運動	高橋真有	〃
10/6	水	8:50～10:10	本能行動・脳高次機能と中枢神経薬理 中枢神経薬理Ⅱ	三枝弘尚	〃
10/6	水	10:20～11:40	感覚系の生理学 ④ 聴覚系Ⅱ. 中枢機構	杉原 泉	〃
10/8	金	8:50～10:10	シナプス Ⅴ (分子生物学)	田邊 勉	〃
10/15	金	8:50～10:10	運動系の中枢神経制御機構 小脳の機能	杉原 泉	〃
10/15	金	10:20～11:40	本能行動・脳高次機能と中枢神経薬理 辺縁系と視床下部(本能行動)	〃	〃
10/29	金	10:20～11:40	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅲ. 痛覚と視床	杉内友理子	〃
11/15	月	8:50～10:10	運動系の中枢神経制御機構 基底核と不随運動の病態生理	〃	〃
11/15	月	10:20～11:40	感覚系の生理学 ② 視覚系Ⅲ. 中枢機構	伊澤佳子	〃
11/16	火	10:20～11:40	本能行動・脳高次機能と中枢神経薬理 脳高次機能(空間識、失認、前頭葉機能)	〃	〃
11/17	水	10:20～11:40	〃 感覚-運動変換と失語・失行	高橋真有	〃
11/18	木	10:20～11:40	〃 睡眠の脳波Ⅰ(睡眠の現象学)	(篠田義一)	〃
11/19	金	08:50～10:10	〃 睡眠の脳波Ⅱ(脳波と睡眠の誘発機構)	〃	〃
11/19	金	10:20～11:40	〃 睡眠障害	西川 徹	〃
11/22	月	12:40～14:00	〃 精神神経薬理Ⅰ	三枝弘尚	〃
11/24	水	12:40～14:00	〃 精神神経薬理Ⅱ	〃	〃
11/25	木	12:40～14:00	〃 記憶と学習	杉原 泉	〃
11/25	木	14:10～15:30	〃 随意運動の発現	(篠田義一)	〃
11/26	金	10:20～11:40	イオンチャンネルとレセプターⅠ	田邊 勉	〃
11/26	金	12:40～14:00	イオンチャンネルとレセプターⅡ	〃	〃
1/11	月	08:50～10:10	神・生理薬理試験		

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		神 経 科 学 実 習			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
5/10	月	15:40～17:00	マクロ実習1 脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経	寺田純雄	解剖学実習室 I 期棟地下1階
5/17	月	15:40～17:00	ミクロ実習1 脊髄	〃	組織実習室 I 期棟4階
5/24	月	14:10～15:30	マクロ実習2 脳幹・小脳の分離, 菱形窩(第四脳室), 脳幹スライス標本	〃	解剖学実習室 I 期棟地下1階
5/24	月	15:40～17:00	〃	〃	〃
5/31	月	15:40～17:00	ミクロ実習2 脳幹(1)	〃	組織実習室 I 期棟4階
6/7	月	15:40～17:00	ミクロ実習3 脳幹(2)	〃	〃
6/8	火	14:10～15:30	マクロ実習3 小脳	〃	解剖学実習室 I 期棟地下1階
6/8	火	15:40～17:00	〃	〃	〃
6/14	月	15:40～17:00	ミクロ実習4 小脳	〃	組織実習室 I 期棟4階
6/15	火	15:40～17:00	マクロ実習4 大脳の半切, 大脳皮質(区分)	〃	解剖学実習室 I 期棟地下1階
6/21	月	15:40～17:00	マクロ実習5 島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等	〃	〃
6/28	月	15:40～17:00	ミクロ実習5 中心前回と後回	〃	組織実習室 I 期棟4階
6/29	火	15:40～17:00	マクロ実習6 側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃体, 視床, 基底核等	〃	解剖学実習室 I 期棟地下1階
7/5	月	15:40～17:00	ミクロ実習6 海馬, 視覚領	〃	組織実習室 I 期棟4階
7/6	火	15:40～17:00	マクロ実習7 大脳のスライス標本	〃	解剖学実習室 I 期棟地下1階

○教育目標

微生物とは肉眼で認めることのできない小さな生物の総称である。微生物は分類的に多種にわたり、その中のウイルス、細菌および真菌などが含まれるが、このような生物を研究する科学が微生物学であり、それらによって引き起こされる病態が感染症である。医学の進歩により、多くの病原体による疾病の治療は可能になった。しかし、近年、エイズ、C型肝炎、SARS、インフルエンザ、ヘリコバクターピロリあるいはメチシリン耐性ブドウ球菌などの新興、再興感染症が新たな問題を提起している。感染の系統別総合講義では、微生物に関する基礎的知識と臨床面からの感染症の知識を同時に身につけることを目標とする。学生は講義を通して微生物の構造、増殖、機能、遺伝に関する原理を理解するとともに、臨床面からみた各種微生物が生体に及ぼす症状や発症機序、その治療法を理解することになる。

○授業の概要

総論では微生物の概念と歴史、細菌の分類、構造、染色、代謝、培養について学ぶ。さらに微生物がなぜ宿主に感染をきたすのかについて学び、感染症の総論を学ぶ。

1. 細菌学

1) 総論的に細菌感染、遺伝学を学びグラム陽性菌とグラム陰性菌に分けて基礎面の講義の後、臨床面からの感染症を学ぶ。2) 感染症は各種臓器に及び、様々な感染症状をきたすこと、感染症の特徴についても学ぶ。3) 検査による感染症の診断方法を学んだ後、稀な微生物（ノカルジア、放線菌、嫌気性菌、梅毒、リケッチア）についても基礎面、臨床面から学ぶ。4) 抗酸菌の基礎面と臨床面の講義を通して結核、非定型抗酸菌の全体像を把握する。5) 真菌に関しても同様に基礎面と臨床面からの講義で理解してもらう。6) 菌種別の知識を身につけた後に、臨床面からの具体的な臓器別の感染症について学ぶ。

2. ウイルス学

1) ウイルス学総論ではウイルスの一般的性状、ウイルス粒子の構造、増殖、組織培養法および定量法について学ぶ。2) ウイルスの核酸と遺伝、干渉とインターフェロン、ウイルス感染症の治療、防疫、疫学および予防について学ぶ。3) ウイルス感染症の実験室診断法、検体の採取、ウイルスの同定、抗体価の測定、皮膚反応等について学ぶ。4) 感染の概念、微生物学の病原因子、宿主の感染防御機構などについて学ぶ。5) 各論はピコルナウイルス、コロナウイルス、トガウイルス、ラブドウイルス、オルソミクソウイルス、およびレトロウイルス、ヘルペスウイルスなどのヒトの病原ウイルスについて学ぶ。

○授業のキーワード

細菌、真菌、クラミジア、リケッチア、マイコプラズマ、ウイルス、ビリオン、エイズ、SARS、感染症、病原性、滅菌、消毒、化学療法剤、ビルレンス、宿主寄生体関係、免疫

○教科書・参考書

書 名	著 書 名	発 行 所 名
エッセンシャル微生物	高木 篤	医歯薬出版
戸田新細菌学	天児和暢	南山堂
標準微生物学	横田 健	医学書院
微生物学実習提要	東京大学医科学研究所	丸善
医学ウイルス学	White, Fenner	近代出版
一目でわかる微生物学と感染症	Stephen H. Gillespie & Kathleen B. Bamford	メディカル・サイエンス ・インターナショナル
Medical Microbiology (Eighteenth Ed.)	E.Jawetz	Maruzen Asia Ed.
Zinsser Microbiology (Nineteenth Ed.)	Joklil, Willett, Amos, Wilfert	Appleton Lange
Manual of Clinical Microbiology (Fourth Ed.)	E.H.Lennette	American Society for Microbiology
Principle and Practice of Infectious Diseases (Seventh Ed.)	Mandell and Douglas	Willy Medical
Microbiology (Fourth Ed.)	Davis, Dulbecco, Eisen, Ginsberg	Lippincott
Fields Virology	Kriple, Howley	Lippincott

○他科目との関連

感染は医学の多くの科目と深い関係をもっている。特に免疫学、公衆衛生学、病理学、衛生学、医動物学、臨床面では内科学、小児科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学等と密接な関係がある。

○成績評価の方法

講義に関しては筆答試験で学習成果を問う。実習に関してはレポートを提出させ、筆答試験で学習成果を問う。

○受講上の注意

講義及び実習には必ず出席すること。特に実習ではウイルスが発育した細胞、組織あるいは細菌の集落等を実際に観察するなど、ほとんどの学生では二度とない大切な機会となるので欠席はしないこと。また病原微生物を実際に取り扱うので、教官の注意をよく守り感染しないように努める。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		感 染			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/6	火	8:50～10:10	病原体総論	山岡昇司	講義室2 I 期棟2階
4/9	金	10:20～11:40	細菌学総論	(堀内三吉)	〃
4/12	月	10:20～11:40	細菌感染の治療と予防	岡村 登	〃
4/13	火	8:50～10:10	細菌遺伝学	中村正孝	〃
4/16	金	10:20～11:40	グラム陽性菌の基礎知識	(堀内三吉)	〃
4/19	月	10:20～11:40	グラム陰性菌の基礎知識	岡村 登	〃
4/20	火	8:50～10:10	その他の病原体（嫌気性菌、リケッチア）	(堀内三吉)	〃
4/23	金	10:20～11:40	ウイルス学総論	山岡昇司	〃
4/26	月	10:20～11:40	ウイルスの複製と遺伝学	〃	〃
5/7	金	10:20～11:40	DNAウイルス各論（1）	斎藤愛記	〃
5/10	金	10:20～11:40	DNAウイルス各論（2）	斎藤愛記	〃
5/11	月	8:50～10:10	RNAウイルス各論（1）	山岡昇司	〃
5/14	金	10:20～11:40	RNAウイルス各論（2）	〃	〃
5/17	月	10:20～11:40	ウイルス感染症の化学療法	佐久間龍太	〃
5/18	火	8:50～10:10	ヒトレトロウイルス感染症	山岡昇司	〃
5/21	金	10:20～11:40	肝炎ウイルス感染症	坂本直哉	〃
5/24	月	10:20～11:40	感染免疫とワクチン	佐久間龍太	〃
5/25	火	8:50～10:10	腫瘍ウイルス	山岡昇司	〃
5/28	金	10:20～11:40	臨床総論	小池竜司	〃
5/31	月	10:20～11:40	感染症の検査法	東田修二	〃
6/1	火	8:50～10:10	呼吸器感染症（1）	三宅修司	〃
6/4	金	10:20～11:40	呼吸器感染症・抗酸菌感染症（2）	〃	〃
6/7	月	10:20～11:40	耳鼻咽喉科感染症	角田篤信	〃
6/8	火	8:50～10:10	腸管感染症	(相楽裕子)	〃
6/11	金	10:20～11:40	外科感染症（一般外科領域）	山田博之	〃
6/14	月	10:20～11:40	外科感染症（皮膚／軟部組織領域）	鈴木真澄	〃
6/15	火	8:50～10:10	皮膚科領域感染症	加藤卓朗	〃
6/18	金	10:20～11:40	真菌感染症・皮膚科領域の感染症	吉田正巳	〃
6/21	月	10:20～11:40	泌尿器科領域感染症（含性感染症）	小林 剛	〃
6/22	火	8:50～10:10	産婦人科領域感染症（含性感染症）	石橋智子	〃
6/23	水	10:20～11:40	前半のまとめ（主に臓器別感染症）	小池竜司	〃

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		感 染			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/25	金	10:20～11:40	小児感染症（1）	長澤正之	講義室2 I 期棟2階
6/28	月	10:20～11:40	小児感染症（2）	〃	〃
6/29	火	8:50～10:10	高齢者の感染症	下門顕太郎	〃
6/30	水	10:20～11:40	輸入感染症	太田伸生	〃
7/2	金	10:20～11:40	院内感染症とその対策	長澤正之	〃
7/5	月	10:20～11:40	日和見感染と不明熱	小池竜司	〃
7/6	火	8:50～10:10	後半のまとめ（主に横断的感染症）	長澤正之	〃
7/8	木	8:50～10:10	人畜共通感染症と新興・再興ウイルス感染症	佐久間龍太	〃
7/9	金	10:20～11:40	ウイルスベクターと臨床応用	増田貴夫	〃
9/6	月	10:20～11:40	ウイルスベクターと研究応用	野阪哲哉	〃
10/4	月	10:20～11:40	プリオン病	山岡昇司	〃
10/25	月	8:50～10:10	感染試験		

3 学 年 後 期		感 染 系 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/1	金	12:40～17:00	感染実習	全員	学生実習室
10/4	月	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/5	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/6	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/7	木	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/8	金	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/13	月	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/14	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/15	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
10/20	水	12:40～17:00	〃	〃	〃

○教育目標

このコースは広く循環器疾患の基礎的事項、検査法、疾患について学び、さらに代表的な症候を呈した循環器疾患の臨床例から、その臨床症状の成り立ち、背景、病態、診断への道筋、治療法の考え方など様々な側面を学習するために企画されている。症例を通じて、情報収集、検査・治療計画立案法などの臨床的考え方を学び、もって問題探求、問題解決力を養うことを目的としている。

○授業の概要

臨床的な観点から循環器疾患の成り立ち、病態、診断法、治療法を講義する。後半は臨床講義として症例を通じて臨床的な考え方も含めて学ぶ。

○授業のキーワード

基礎（解剖、生理、生化、薬理、病理）から臨床へ 診断学から治療学へ
治療医学から予防医学へ 侵襲から非侵襲へ

○教科書・参考書

1. Harrison: Principles of Internal medicine (McGraw-Hill)
2. Braunwald: Heart Disease (W. B. Saunders) 7th edition 2006年
3. 小川聡、井上博編：標準循環器病学（医学書院）、2001年

○他科目との関連

循環器疾患の病態を考える上で、解剖学、生理学、生化学、分子生化学、薬理学、病理学、免疫学の基礎的な知識は必須である。また社会における生活習慣病など循環器疾患の位置付けを考える上で、公衆衛生学的な知識と発想が必要である。医療経済、高齢者医学などとの関連において循環器疾患をとらえる視点も必要である。

○成績評価の方法

コース修了後に筆記試験を行う。

○受講上の注意

循環器疾患に関連した解剖学、病理学、生理学、生化学、薬理学等に関する基礎的知識を再確認しておくこと。学生の積極的な参加が求められるコースである。

臨床講義は、学生が参加する授業形態である。各講義の担当者3～4名を決め、講義予定日の1ヶ月前に担当教員に連絡をして指示を受けること。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		循 環 器 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/29	金	12:40～14:00	循環器疾患総論／症候論、身体所見	磯部光章	講義室2 I 期棟2階
11/1	月	10:20～11:40	循環器疾患の病理	(田中道雄)	〃
11/2	火	10:20～11:40	循環生理学／循環薬理学	(足利貴志)	〃
11/5	金	8:50～10:10	循環器外科総論／病態生理と外科治療理論	荒井裕国	〃
11/11	木	8:50～10:10	画像診断／心電図	平尾見三	〃
11/11	木	10:20～11:40	体外循環、補助循環、人工心臓、心臓移植	荒井裕国	〃
11/12	金	8:50～10:10	画像診断／心エコー、シンチグラフィー	鈴木淳一	〃
11/16	火	8:50～10:10	心臓カテーテル検査／電気生理学的検査	(安達 進)	〃
11/22	月	10:20～11:40	心不全	(伊藤 宏)	〃
11/24	水	10:20～11:40	先天性心疾患Ⅰ(総論1)	土井庄三郎	〃
12/16	木	8:50～10:10	先天性心疾患Ⅱ(総論2)	〃	〃
12/17	金	8:50～10:10	先天性心疾患Ⅲ(心エコー・カテーテル治療)	(西山光則)	〃
12/21	火	8:50～10:10	小児循環器外科治療	(広岡一信)	〃
1/6	木	8:50～10:10	虚血性心疾患Ⅰ	稲垣 裕	〃
1/6	木	15:40～17:00	虚血性心疾患Ⅱ	荒井裕国	〃
1/7	金	12:40～14:00	心臓弁膜症	鈴木淳一	〃
1/7	金	14:10～15:30	不整脈Ⅰ(基礎)	(古川哲史)	〃
1/11	火	14:10～15:30	不整脈Ⅱ(徐脈)	蜂谷 仁	〃
1/12	水	8:50～10:10	不整脈Ⅲ(頻脈)	平尾見三	〃
1/12	水	10:20～11:40	大動脈疾患	磯部光章	〃
1/12	水	12:40～14:00	心筋症Ⅰ	鈴木淳一	〃
1/13	木	8:50～10:10	心筋症Ⅱ	〃	〃
1/14	金	14:10～15:30	動脈疾患Ⅰ	地引政利	〃
1/14	金	15:40～17:00	動脈疾患Ⅱ	井上芳徳	〃
1/17	月	12:40～14:00	静脈疾患・リンパ疾患	菅野範英	〃
1/17	月	14:10～15:30	背部痛 (臨床講義)	(田淵典之)	〃
1/21	金	8:50～10:10	発熱 (臨床講義)	磯部光章	〃
1/24	月	14:10～15:30	息切れ (臨床講義)	〃	〃
1/24	月	15:40～17:00	めまい・動悸 (臨床講義)	平尾見三	〃
2/1	火	8:50～10:10	胸痛 (臨床講義)	稲垣 裕 田中啓之	〃

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		循 環 器 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
2/2	水	10:20～11:40	失神 (臨床講義)	磯部光章	講義室2 I 期棟2階
2/3	木	8:50～10:10	チアノーゼ (臨床講義)	(泉田直巳)	〃
2/4	金	8:50～10:10	呼吸困難 (臨床講義)	(丹羽明博)	〃
2/4	金	10:20～11:40	間歇性跛行 (臨床講義)	菅野範英	〃
2/4	金	12:40～14:00	腹痛 (臨床講義)	井上芳徳	〃
2/10	木	8:50～10:10	循環器学試験		

○教育目標

卒前教育では基本的な知識の習得はもちろん、医師としての自覚と責任感を培うことを重視して教育にあたっている。呼吸器疾患は腫瘍、感染症、アレルギー疾患、その他の炎症、先天異常まで多岐にわたるが、PBLにおいては病態生理を理解した上で疾患の全体像について理解を深める。また、臨床的な観点から呼吸器疾患の成り立ち、病態、診断法、治療法を講義する。

○授業の概要

1. PBL：

1 週につき 1 シナリオ、計 2 シナリオ。金曜に各グループの発表と引き続き総括を行う。

2. 講義：

呼吸生理、臨床解剖、画像診断について概説し、病態理解の一助とする。各論として主要な呼吸器疾患（間質性肺炎、肉芽腫性肺疾患、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、胸膜・縦隔疾患など）を取りあげ、一部はミニケース形式で講義する。また、病理学的理解を深めるために、腫瘍と非腫瘍について実習を行う。

○教科書・参考書

臨床研修イラストレイテッド6 呼吸器系マニュアル（羊土社）、改訂版、2005年
別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患－state of arts（医歯薬出版）、Ver.5、2007年

○他科目との関連

病態の理解において生理学や病理学が重要である。呼吸器疾患はCPCで取り上げられることが多く（日常の臨床で重症例が多いことを反映している）、また臨床実習や外科病理カンファランスなどを通じて病理学を勉強する機会が多い。また呼吸器は種々の微生物の主要なターゲットであるため、感染症の診断および治療において微生物学の理解が重要である。

○成績評価の方法

PBLと講義の出席を前提に、試験（Web CT）で評価する。

○教育目標

腎臓は体液の恒常性維持にとって重要な臓器であり、外界の変化に応じ非常に繊細かつ巧みな制御を働かせている。その機能低下や破綻は、本来尿に排出されるべき尿毒素の貯留、水・電解質バランスの異常、血圧の異常などをもたらす。腎臓が機能低下をきたす原因には、腎臓自体に原因のある1次性腎疾患、他の病気により腎臓が障害される2次性腎疾患と種々ある。この授業では、これら疾患の症候・症状を単に丸暗記するのではなく、腎臓機能の本質と各疾患の病態生理を理解することを目指とする。そのための基礎知識は講義にて、実際の臨床での腎臓病とはいかなるものかはPBL・ミニケースで学ぶ。

○授業の内容

腎臓・体液制御ブロックとして、PBLやミニケースを中心に、代表的な腎疾患について学習する。

PBL：

1週につき1シナリオ。計2シナリオ。金曜に各グループのプレゼンテーションとそれに引き続き総括。

ミニケース：

代表的腎疾患について、実際の症例に則して講義形式で授業を行う。

講義：

ネフロンの構造と機能：腎臓生理学の復習。腎疾患の症候・検査：PBLを進めるにあたり必要な腎臓病学臨床の基礎知識。腎炎・ネフローゼ1, 2：1次性腎疾患についての講義。講義の内容を把握した上で、病理実習を行う。

2次性腎疾患、薬剤と腎障害：糖尿病性腎症などの2次性腎疾患について。腎不全：急性腎不全、慢性腎不全の病態生理、ならびに合併症、治療法など。小児の輸液：輸液一般と小児の輸液の特殊性について。

血液浄化療法・腎移植：腎機能が不可逆的に低下した場合、血液透析や腹膜透析などの血液浄化療法が必要となる。その実際と問題点について。腎移植についてもふれる。

患者様講演会：血液透析ないし移植を経験した患者様の講演会。積極的に質問を。

○授業のキーワード

体液、電解質、酸・塩基平衡、脱水、浮腫、腎炎、ネフローゼ、腎不全、血液浄化療法、腎移植。

○教科書・参考書

体液異常と腎臓の病態生理 第2版 (メディカル・サイエンス・インターナショナル、2007)

腎臓学：病態生理からのアプローチ (南江堂、1995)

腎疾患のとらえかた：眼で見るベットサイドの病態生理 (文光堂、2003)

新腎生検の病理（診断と治療社、2003）。

一目でわかる腎臓、一目でわかる水・電解質、一目でわかる輸液、一目でわかる透析療法（メディカルサイエンスインターナショナル）。

人体の正常構造と機能V腎・泌尿器（日本医事新報社、1999年）。

○他科目との関連

呼吸は酸－塩基平衡に影響を与え、内分泌疾患は体液制御系に大きく関わっている。また、心不全、肝不全時の体液貯留の病態の理解を深める。2次性腎疾患の原因には、代謝疾患、膠原病、血液疾患、肝疾患などがあり、腎臓病との関連であわせて理解する。

○成績評価

試験を行う。試験範囲は2週間の学習内容に基づいて出題する。

○Abstract

この系別総合講義は、ヒトの生殖・発達・加齢に関連する事象を系統的、総合的に学習し理解することを目的に、解剖学、産科・婦人科学、泌尿器科学、小児科学、老年病内科学の分野を担当する教官により行なわれる。まず、男性・女性生殖系の発生と組織・臓器の形態と生理機能を統合的に理解する。次いで、受精、初期発生の段階を経て胚、胎児へと発育して分娩に至り、出生後の状態から新生児期、小児期、思春期を経て成熟期に発達するまでの、身体的・精神的特徴と変化、そしてそれを取り巻く諸問題について系統的に学習し、新たな視点からこの領域での総合理解を目指す。さらに最終的には、加齢・老化に伴う生殖機能の変化にまで発展させて、身体的変化に留まらず精神心理的な問題点も含めた生殖・発達・加齢の過程を総合的に理解できるように学習する。

○Goals

- 1) 男性および女性生殖器の発生と組織・解剖を説明できる。
- 2) 女性の性周期とその調節機構を説明できる。
- 3) 男性生殖機能、精子形成の機序を説明できる。
- 4) 妊娠の成立、妊娠の生理、妊娠に伴う母体の変化を概説できる。
- 5) 胎児・胎盤系の発育過程、その機能と形態的变化を説明できる。
- 6) 新生児の生理と発達を概説できる。
- 7) 小児の成長と発達を説明できる。
- 8) 思春期発達の機序と性徴、この時期における身体・精神機能の発達の特徴を説明できる。
- 9) 新生児・小児の発達過程における病態およびそれに起因する疾患群について理解する。
- 10) 小児における社会予防医学について理解し、その重要性や問題点について説明できる。
- 11) 小児の発達と両親・家族および社会とのかかわりについてその重要性・問題点を説明できる。
- 12) 加齢による身体・心理・社会的変化を説明できる。

○Method & Planning

「生殖・発達・加齢」に関連する事象を総合的・系統的に理解できるように、各担当教官が事前に協議し授業内容の統一性・連続性を図る。授業形態としては、全体講義だけでなく小グループによる実習形式も随時に取り入れ、学生の積極的自主的な学習を重視する。

各セッション毎に学習成果を評価すると共に、コース終了時には総合的な理解度についても評価し、また教官に対する学生の評価も合わせて行う。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		生殖・発達・加齢			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/20	火	10:20～11:40	イントロダクション	久保田俊郎	講義室2 I 期棟2階
7/21	水	10:20～11:40	男性・女性生殖機能の生理/生殖腺、性器の発生と分化①	井上明宏	〃
8/31	火	10:20～11:40	男性・女性生殖機能の生理/生殖腺、性器の発生と分化②(実習形式)	〃	〃
9/1	水	10:20～11:40	男性生殖の生理学/精子形成	松岡 陽	〃
9/7	火	10:20～11:40	男性生殖の生理学/勃起と射精	増田 均	〃
9/8	水	10:20～11:40	女性の生殖機能/①性周期とその調節機構	久保田俊郎	〃
10/1	金	10:20～11:40	女性の生殖機能/②妊娠の成立	(清水康史)	〃
10/5	火	10:20～11:40	妊娠の生理/①初期発生(胚芽から胎児へ)	原田竜也	〃
10/8	金	10:20～11:40	妊娠の生理/②子宮内胎児発育	寺内公一	〃
10/13	水	10:20～11:40	妊娠の生理/③分娩前後の胎児・新生児	桃原祥人	〃
10/20	水	10:20～11:40	妊娠の生理/④妊娠・分娩・産褥による母胎の変化	(坂本秀一)	〃
10/27	水	8:50～10:10	小児保健Ⅰ	土井庄三郎	〃
11/9	火	10:20～11:40	小児保健Ⅱ	荒木 聡	〃
11/10	水	10:20～11:40	小児の成長発達	(神山 潤)	〃
1/12	水	14:10～15:30	小児の栄養	(矢田純一)	〃
1/18	火	10:20～11:40	親と子の絆	水谷修紀	〃
1/19	水	10:20～11:40	老化に伴う変化Ⅰ	下門顕太郎	〃
1/21	金	10:20～11:40	老化に伴う変化Ⅱ	〃	〃
1/25	火	8:50～10:10	老年病実習	〃	〃
1/26	水	8:50～10:10	老年の分子生物学	〃	〃
1/27	木	8:50～10:10	小児の成長・発達／思春期発現の機序と性徴(女兒を主に)	(増田美香子)	〃
1/28	金	8:50～10:10	女性の加齢	尾林 聡	〃
1/31	月	8:50～10:10	生殖・加齢試験		

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後 期		小児科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/22	金	10:20～11:40	小児科概論	水谷修紀	〃
10/26	火	10:20～11:40	新生児疾患Ⅰ	(山南貞夫)	〃
10/27	水	10:20～11:40	新生児疾患Ⅱ	〃	〃
11/8	月	8:50～10:10	小児消化器疾患	(高木正稔)	〃
11/9	火	8:50～10:10	小児神経疾患Ⅰ	荒木 聡	〃
11/17	水	8:50～10:10	小児神経疾患Ⅱ	〃	〃
11/18	木	8:50～10:10	小児アレルギー疾患	(大柴晃洋)	〃
11/25	木	8:50～10:10	小児腎臓疾患	(水沢慵一)	〃
11/26	金	8:50～10:10	小児代謝疾患	(小野 真)	〃
12/14	火	10:20～11:40	小児内分泌Ⅰ	〃	〃
12/15	水	10:20～11:40	小児内分泌Ⅱ	〃	〃
12/17	金	10:20～11:40	小児膠原病	森尾友宏	〃
12/20	月	10:20～11:40	遺伝子診断と遺伝カウンセリング	吉田雅幸 小笹由香	〃
12/22	水	10:20～11:40	小児の遺伝性疾患	森尾友宏	〃
1/5	水	10:20～11:40	小児悪性腫瘍	長澤正之	〃
1/7	金	10:20～11:40	小児救急疾患	(畠井芳穂)	〃
1/11	火	12:40～14:00	小児の在宅医療	(前田浩利)	講義室2 I 期棟2階
2/8	火	8:50～10:10	小児科学試験		

○教育目標

「内分泌・代謝」はホルモンと生体内物質（特に糖、脂質）の代謝を対象とした分野であり、その異常によってもたらされる疾患を扱う領域である。内分泌・代謝の正常な構造と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病態生理、病因、症候、診断、治療を学習する。

○授業の概要

「ホルモン」の生化学および生理学の基礎を中心にした総論、視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患、糖および脂質代謝異常といった各論を学習し、更に各疾患に焦点を当てた症例基盤型学習により問題解決能力を目指す。最後に「レセプターの異常」や「ホルモンと腫瘍」といった最先端の知識を学ぶ。

○授業のキーワード

ホルモン、オートクリン・パラクリン、レセプター、情報伝達系、ネガティブフィードバック

○教科書・参考書

Williams Textbook of Endocrinology : Larssen他 編集 (10版) Saunders, 2009
Endocrinology : DeGroot他 編集 (第5版) Saunders, 2007
NIM Lecture内分泌・代謝学 : 井村裕夫他編集 医学書院, 1997
内科学 : 杉本恒明 他 編集 朝倉書店, 2008
新臨床内科学 : 高久史麿 他 編集 医学書院, 2008

○他科目との関連

形態面からは内分泌臓器としての解剖学（肉眼、組織）、病理学、放射線科、機能面からはホルモンとしての生化学、生理学、薬理学、分子生物学、また各臓器別疾患として脳神経外科（下垂体）、頭頸部外科（甲状腺、副甲状腺）、泌尿器科（副腎、睪丸）、婦人科（卵巣）、小児科（先天性代謝）、消化器外科（膵）などに関連し総合的知識を集約する。

○成績評価の方法

最終の筆記試験（コアカリキュラムの内容に準じ、医師国家試験に準拠した出題形式）の結果により合否判定する。

○受講上の注意

内分泌・代謝学は基礎知識を十分把握しておけばおのずと病態生理が理解できる。したがって、必ず予め基礎知識を復習した上で病態生理を理解し、症候、診断、治療へと進み総合的に理解を深めてもらいたい。質問は講義終了後に個別にするのではなく、講義中に積極的にして下さい。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		内 分 泌 代 謝			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/13	月	8:50～10:10	内分泌総論	平田結喜緒	講義室2 I 期棟2階
12/13	月	10:20～11:40	視床下部・下垂体系	〃	〃
12/14	火	14:10～15:30	臨床栄養学	三原正明	〃
12/22	水	8:50～10:10	視床下部・下垂体疾患	泉山 肇	〃
1/5	水	8:50～10:10	視床下部・下垂体／PBL	泉山 肇	〃
1/7	金	8:50～10:10	糖代謝異常－1	内村 功	〃
1/17	月	10:20～11:40	副腎疾患	吉本貴宣	〃
1/18	火	8:50～10:10	高血圧(含二次性高血圧)	吉本貴宣	〃
1/19	水	12:40～14:00	副腎/PBL	吉本貴宣	〃
1/19	水	14:10～15:30	糖代謝異常－2	内村 功	〃
1/20	木	14:10～15:30	糖代謝異常－3	内村 功	〃
1/21	金	12:40～14:00	脂質代謝異常	(川村光信)	〃
1/24	月	10:20～11:40	肥満とやせ	杉山 徹	〃
1/24	月	12:40～14:00	甲状腺疾患	三原正明	〃
2/2	水	8:50～10:10	多内分泌疾患とホルモン産生腫瘍	泉山 肇	〃
2/3	木	12:40～14:00	糖代謝異常－4	内村 功	〃
2/3	木	14:10～15:30	ホルモン受容体異常症	杉山 徹	〃
2/4	金	14:10～15:30	副甲状腺疾患	(堀内敏行)	〃
2/9	水	8:50～10:10	内分泌代謝試験		

○教育目標

医学教育は一般に臨床系科目、基礎系科目と社会医学系科目に区分される。社会医学は直接社会に働きかけるだけでなく、臨床医学や基礎医学は社会に適応してこそ人々の健康に貢献できるものであることから、社会医学はこれらの学問の社会への橋渡しの役割を果たしている。

現在社会は、超高齢化社会の到来に伴う諸問題、グローバル化に伴う新興・再興感染症のアウトブレイクと蔓延、地球環境問題等の深刻化する環境の健康影響、児童虐待や都市犯罪等の新しい健康問題など、医学領域では社会医学をめぐる多数の深刻な問題を抱えている。さらに、完治を期待することのできない悪性腫瘍や循環器・代謝疾患などの慢性疾患が医療の対応すべき疾患の大部分を占める時代となっている。こうした時代にあっては、医師は、全人的な医療、チーム医療、プライマリケアと予防医学の重視、地域保健医療福祉システムの一員としての医師の役割、国際的視野、医療関連法規の理解、社会環境に深く関連している健康問題への対応を習得する必要がある。

社会医学の内容の多くは時代背景を直接反映し、常に変化するものが多い。また一方、時代を経ても変わらぬ基本的で普遍的な学術事項や、集団を扱うアプローチ手法や、公共の健康を確保するという考え方の啓発もある。

近年、患者とのコミュニケーションや、医師のあるべき姿として、患者中心の医療の実践、安全性の配慮、信頼される人間関係の構築などの能力の養成が求められている。人間は社会的な存在である。患者とは、社会の中で生活し、人生を営む人々である。患者を社会から切り離して考えることはできない。今後の求められる医療における社会医学の必要性は大きく、また、山積する保健医療福祉制度的課題の解決は目下の急務である。患者を取り巻く社会的要因まで広い視野を持った全人的医療を実施できる医師、および直接的に社会に働きかけることのできる医師を養成することが社会医学の役割である。

系別総合講義「社会医学」では、「患者中心の医療」を実践し、社会医学的視点を持った医師となるための、基礎的な知識、技能および態度の習得を目的とする。

○授業の概要

授業内容は「医学教育モデルコアカリキュラム」および「医師国家試験出題基準」に準じる。その他、社会医学に関連する重要な課題や新しい課題についても教示する。

本学大学院医歯学総合研究科環境社会医歯学系の教員その他、社会医学に関連する臨床系分野が担当する。

○授業のキーワード

- ・社会と健康・疾病：健康・障害・疾病の概念、社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）、地域医療の機能と体制（地域保健医療計画、救急医療、災害医療、へき地医療、在宅ターミナルケア）、環境と健康・疾病との関係（環境と適応、主体環境系、原因と保健行動、環境基

準と環境影響評価、公害と環境保全)、生態系の変化が健康と生活に与える影響(有害物質、環境発癌物質、内分泌攪乱物質)、地球環境の変化、生態循環、生物濃縮と健康

- ・疫学と予防医学：保健統計、疫学、疾病の予防、人口静態統計と人口動態統計、疾病の定義、分類と国際疾病分類(ICD)、疾病・有病・障害統計、年齢調整率と標準化死亡比SMR、疫学概念と諸指標、予防医学(一、二、三次予防)、生命関数表(平均余命と平均寿命)、健康管理・健康診断
- ・生活習慣と疾病：生活習慣に関連した疾病、生活習慣と肥満・高脂血症・動脈硬化、生活習慣と糖尿病、生活習慣と高血圧、生活習慣とがん、喫煙と疾病の関係と禁煙指導
- ・保健、医療、福祉と介護の制度：日本の社会保障制度、医療保険・公費医療・介護保険、高齢者福祉・医療、地域保健(母子保健、老人保健、精神保健、学校保健)、産業保健、医療の質の評価、医師法・医療法、医師の義務、医療従事者の資格免許
- ・医療における安全性への配慮と危機管理：医療事故、組織的なリスク管理、フェイル・セーフ・システム、医療機関における安全管理のあり方(事故報告書、インシデント・リポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会)、危機管理、潜在的医療事故、医療事故に関連した基本的事項(行政処分、民事責任、刑事責任、司法解剖)
- ・病院機能における医療福祉：病診・病病連携、地域連携・ネットワーク、介護保険、地域保健と医師の役割
- ・人の死：死の概念と定義や生物学的な個体の死、植物状態・脳死、尊厳死・安楽死、臓器移植、医師法、死体解剖保存法、異状死、裁判員制度、死亡診断書・死体検案書、死因、死因の種類、死亡場所、死亡日時、外因死の追加事項
- ・児童虐待と乳幼児突然死症候群：損傷、Shaken baby syndrome、Munchausen syndrome by proxy、SIDS
- ・感染症：新興・再興感染症、寄生と共生、熱帯医学のフィールドワーク、橋本イニシアティブ・国際寄生虫対策、Neglected Tropical Disease、感染症予防医療法、予防接種
- ・現在社会における新しい健康課題：児童虐待と乳幼児突然死症候群、都市犯罪、児童虐待と心理カウンセリング

○教科書・参考書

- ・高野健人，河原和夫，伊藤洋子，他(編)：社会医学事典．朝倉書店、2002．
その他、各担当教員が指示する。

○他科目との関連

社会医学は、基礎医学、臨床医学の各科目との深く関係する。MIC「国際社会と医療」では、国際社会から社会医学的視点から講義を行ったが、系別講義「社会医学」では、さらに個別な課題に踏み込み、社会医学の基礎を学ぶ。また、社会医学の応用分野である衛生学、医動物学、法医学、公衆衛生学とは密接に関係し、これらの系統講義を十分に理解する上で、社会医学の修得は必須である。

○成績評価の方法

出席状況、授業態度、および最終筆記試験の結果から総合的に判定する。

○受講上の注意

知識の習得とともに、医療を取り巻く社会的状況を踏まえて実際の課題を把握し、その解決方法を学ぶことが要求される。自主性と問題意識を持ち、積極的な授業の参加を期待する。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		社 会 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/6	火	12:40～14:00	社会・環境と健康:健康の社会的決定要因	高野健人	講義室2 I 期棟2階
4/12	月	8:50～10:10	国際寄生虫症	赤尾信明	〃
4/14	水	8:50～10:10	新興・再興感染症の発生と対応	太田伸生	〃
4/27	火	8:50～10:10	国際寄生虫対策事業	太田伸生	〃
5/12	水	8:50～10:10	地球環境変化と感染症	赤尾信明	〃
5/26	水	8:50～10:10	人の死の概念	上村公一	〃
6/9	水	8:50～10:10	関係法規:医師法、死体解剖保存法	上村公一	〃
6/24	木	10:20～11:40	医療安全と健康危機管理政策	河原和夫	〃
7/12	月	10:20～11:40	死亡診断書(死体検案書)	上村公一	〃
7/15	木	10:20～11:40	児童虐待と乳幼児突然死症候群	(澤口聡子)	〃
7/20	火	8:50～10:10	小児の精神保健医療	(横山恭子)	〃
7/22	木	8:50～10:10	生活習慣と健康	泉山 肇	〃
7/23	金	10:20～11:40	地球環境問題	湯浅保仁	〃
9/1	水	8:50～10:10	環境発がん	湯浅保仁	〃
9/2	木	8:50～10:10	医療関連法規	河原和夫	〃
9/7	火	8:50～10:10	地域における高齢者医療福祉	高野健人	〃
10/22	金	12:40～14:00	病院機能における医療福祉	泉山 肇	〃
10/22	金	14:10～15:30	環境保健と環境アセスメント	中村桂子	〃
10/22	金	15:40～17:00	疾病分類と衛生統計	中村桂子	〃
10/28	木	12:40～14:00	健康格差	高野健人	〃
11/1	月	8:50～10:10	社会医学試験		

○教育目標

人体解剖学は、医学を学ぶうえで最も基本的な知識の一つといえる。そして、正常人体の各構造の正確な名称を理解し、位置を知り、それを表現できることが必要である。しかし、人体は、複雑であり、その構造の緻密さをすべて網羅するためには、学習項目は膨大なものとなることは否めない。

解剖学は記憶に追われるというイメージがあるが、その一方で名称を覚えてだけでは、使える有機的な知識とはならず、徒労感のみがつきまとうことになる。多くの場合、断片的な情報量は増えているのに、それらが統合され、3次元的な配置を把握するという段階までいかないために、知識となっていないことが多い。そのため、講義や教科書・アトラスを用いた座学のみならず、人体解剖学実習を通じて、自ら剖出し、観察していくことによって、空間的な認識を行なうことが必要となる。

『人体解剖学』というと、多くの場合、『系統解剖学』と同義と理解されることが多い。しかし、系統解剖とは器官系ごとに横断的に学ぶというものである。それに対し、本講義・実習においては、個々の部位の関わる様々な器官系をその配置や個体発生的な意味を中心に学んでいくという意味で、『局所解剖学』と分類される。

講義は、個々の実習内容の事項の解説というよりも、観察や学習のポイント、系統発生ならびに個体発生との関係、臨床的な関連事項などを概説するものとなる。それによって、器官の配置を理解するのみではなく、神経・血管といった体内の配線図を把握し、諸構造物の相互位置関係を神経・血管とのつながりを通じて理解することができる。個体発生の理解によって、形態がそこにあることが偶然ではなく、必然であるということを理解することを目的としている。

予習によって基本的な用語を把握し、講義によって概略を知り、自ら剖出し、さらにそれをどのように考えるかをグループで討議しながら理解を進めるという繰り返しは、学習の反復性、定着性などから必要なことである。しかし、カリキュラムの編成上、十分な時間をとることができないため、いかに効率よく学習するか、さらには予・復習を含めた自習が求められることになる。

当教室で編集した観察手順や項目などをまとめた、実習用マニュアルにしたがって予習をおこなってから実習に臨んでほしい。実習用マニュアルには、各回ごとに、その日の学習項目の確認用課題が添付されている。これらにより、確実な理解を目指す。また、各回に提示される課題については、グループ討論をおこない、まとめたうえで提出をする。これらのレポートをまとめたものを全体に公開し、共通の資産としていきたい。

○授業の概要

- 1) 講義と実習とは一体となって進められる。講義の中で概説されたり、例示される問題などは、観察のための指針となるものを含んでいるから、参考にされたい。
- 2) 解剖学用語については、日本語はもちろんのことであるが、英語の教科書などを理解するために必要となるので、英語・ラテン語の用語についても、学習が必要である。用語集については、製作中であるので、自習に活用されたい。

- 3) 講義においては、解剖学の名称の説明にととまらず、その言葉の定義、個体発生・系統発生的意味についても触れる。人体が複雑な個体発生の結果であり、証拠であるということを理解することを目標とする。
- 4) 解剖学実習は、学生3～4名に1体ずつ解剖実習体が与えられる。解剖学実習に提供されたご遺体は、すべて生前の自発的な意志にもとづいて献体された方ばかりである。できるだけ多くのことを積極的に学んでいただきたい。そのためには予習、復習が重要であることはいうまでもない。スケジュールの都合上、実習の予定は非常にタイトであるため、遅れが生じないように努力されたい。実習は、時間の都合上、上半身・下半身に分かれて分担する部分があるが、とくに胸部・腹部内臓といった重要なについては、できるだけグループ全員で行うよう配列した。グループごとに討議しながら理解に努められたい。

○授業のキーワード

系統解剖、臨床解剖、局所解剖、比較解剖、形態形成、位置関係、骨格、関節、筋、動脈、静脈、リンパ系、脊髄神経、脳神経、四肢の形成と神経叢、自律神経系、心臓、肺、縦隔、消化管、肝・胆・膵、泌尿・生殖器、腹膜後器官、鰓弓器官、筋膜、腹膜

○教科書・参考書

系統解剖学書

器官系ごとの記述がなされている。通読するというよりは、事典として、活用するもの。解剖学のマクロ的な記述において、基本的な部分が大きく変わることはあまりないので、一生使える教科書を今のうちにおいておくことは必要である。

Williams et al. ed. Gray's Anatomy (38th ed.) Churchill Livingstone 37,500円

国際的な解剖学教科書の定番の英国版。組織学、発生学的な記述もかなり充実。
絵や写真も充実している。

Gray's Anatomy : The Anatomical Basis Of Clinical Practice (Gray's Anatomy: the Anatomical Basis of Clinical Practice) (39th ed.) Churchill Livingstone 約20,000円

上記の38版より発生学的・臨床的記述が増え、構成が大幅に変わった。改悪にしか見えないが、時代のニーズに合わせたものと思われる。

Clemente ed. Gray's Anatomy (30th ed.) Lea & Febiger 19,800円

国際的な解剖学教科書の定番の米国版。マクロ的な記述については簡潔でわかりやすい。
絵はあまりよくない。

分担 解剖学（第11版）金原出版

1 総説・骨学・靱帯学・筋学 ￥9,300

- 2 脈管学・神経系 ￥10,600
- 3 感覚器学・内臓学 ￥8,600

国内において、もっとも、充実した定番の解剖学書。図が充実している。

日本語、ラテン語の用語を調べるためにはよいが、記述がむずかしいところがある。

金子丑之助 日本人体解剖学（第19版）南山堂

- ① 骨格系、筋系、神経系 ￥12,000円
- ② 循環器系、内臓学、感覚器 ￥10,000円

国内における、分担とともに定番の解剖学書。図も充実している。

索引が非常に充実しており、用語を調べるには非常に良い。

局所・臨床解剖学書

Gray's Anatomy for Students (Paperback) by Richard Drake, Wayne Vogl, Adam Mitchell
Paperback, 1150pages Churchill Livingstone

(訳本) グレイ解剖学 原著第1版 出版社 エルゼビア・ジャパン

塩田浩平・瀬口春道・ほか／訳 10,500円

前述のGray's Anatomyとはタイトルは似ているが、まったくの別物である。

英語の本を買いたい人にはぜひお勧めする。もちろん訳本でもよい。

とにかく図がよく考えられている。

Frick他著 大谷修監訳

人体解剖学ハンドブック カラー版1 西村書店 ￥3,980

人体解剖学ハンドブック カラー版2 西村書店 ￥3,980

安価なわりには、図もよく、臨床的記述も充実している。

医学生の学習用として、十分に使える。ただ、読みこなさないと、記述を探しにくい。

ムーア 坂井達雄訳 臨床解剖学 メディカル・サイエンス・インターナショナル ￥10,000円

臨床医学および外科学との関連を重視し簡潔に整理してある。

きちんとしたイメージを作る必要がある学生には図が簡略である。

Snell 山内昭雄訳 臨床解剖学 メディカル・サイエンス・インターナショナル ￥14,000円

臨床的な記述が豊富で、臨床問題も充実している。

画像（放射線）解剖学や診断学に関連する解剖も充実している。

図が理解するためには不十分であるので、アトラスとの併用が求められる。

アトラス

ネッター（相磯貞和訳）解剖学図譜（学生版）丸善 ￥10,000

絵や図を用いたアトラス。わかりやすく、使いやすい。

Clemente著 A Regional Atlas of the Human Body, 4th ed. Williams & Wilkins

絵を用いたアトラス。記述が充実し、長く使える。

Mcminn et al. 佐藤達夫訳 人体解剖カラーアトラス（第4版）南江堂 ￥5,700円

写真を用いたアトラス。標本が美しい。

解剖学の本は非常に種類が多く、レベルも様々である。ここにあげたものの他の参考書については、授業のはじめに示唆する。ただ、安易な本は、CBTや国試などの試験用対策としてまとめるためには活用することがあるかもしれないが、今の段階で使うことは全く薦めない。将来にわたって使える本を先行投資として購入することを薦める。

○他科目との関連

解剖学は人体の立体構造や複雑な配線の絡み合いを理解する学問である。したがって、ほとんどの科目の基礎となるものであり、きわめて密接な関連がある。また実習で養われた観察眼、所見採取能力ならびに、それらの統合的理解をはかる力は、必ず診断、治療などに役立つものと考ええる。

4月から、多くの他授業科目もはじまる。解剖での基本的な用語を習得する前にはじまってしまうことが考えられる。しかし、人体解剖学は解剖実習という作業とともに進めるため、他科目の進捗と合わなくなる部分がでてくることは残念ながら仕方がない。

○成績評価の方法

口頭試験および筆記試験によって学習成果を問う。

また、実習ごとの課題のレポートおよび、実習中に提出する課題などについても評価の対象になる。

○受講上の注意

実習は、貴重な遺体を用いての実物観察の重要な機会であり、もっとも効率的な学習法であるからかならず出席することが必要である。効率的な実習をおこないかつ十分な効果をあげるためには、十分な予習が必要である。

講義・実習については、時間厳守を旨とする。また、とくに実習における遅刻・欠席は、その後の実習に影響が出るため、遅れが出た場合には、時間外に自主的に追いつくようにすること。

また、講義のストリーミングをPCにて視聴できるので利用されたい

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 前	年 期	人 体 解 剖 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/6	火	14:10～15:30	解剖学総論（1）	秋田恵一	講義室2 I 期棟2階
4/6	火	15:40～17:00	解剖学総論（2）	〃	〃
4/7	水	12:40～14:00	体幹の骨	〃	〃
4/9	金	12:40～14:00	上肢の骨	〃	〃
4/12	月	12:40～14:00	下肢の骨	〃	〃
4/13	火	12:40～14:00	頭蓋の骨	〃	〃
4/14	水	12:40～14:00	体表観察(仰臥位)・胸腹部(皮下)	〃	〃
4/16	金	12:40～14:00	頸部(皮下)・下腹部(皮下)	〃	〃
4/19	月	12:40～14:00	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	〃	〃
4/20	火	12:40～14:00	体表観察(腹臥位)・頭部・頸部・背部(皮下)・腰部・殿部・大腿屈側(皮下)	〃	〃
4/21	水	12:40～14:00	後頭の筋・浅背筋・上肢帯近位部・殿部(浅層)	〃	〃
4/23	金	12:40～14:00	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	〃	〃
4/26	月	12:40～14:00	頸部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	〃	〃
4/27	火	12:40～14:00	腋窩・腕神経叢・大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)	〃	〃
4/28	水	12:40～14:00	上肢の切離・下肢の切離	〃	〃
4/30	金	12:40～14:00	胸郭・上縦隔・甲状腺	〃	〃
5/7	金	12:40～14:00	心臓の神経・後縦隔	〃	〃
5/11	火	12:40～14:00	心臓・肺	〃	〃
5/12	水	12:40～14:00	腹膜・腸間膜の脈管・神経	〃	〃
5/14	金	12:40～14:00	腹膜・腸間膜の脈管・神経	〃	〃
5/18	火	12:40～14:00	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	〃	〃
5/19	水	12:40～14:00	消化管・肝臓	〃	〃
5/21	金	12:40～14:00	腹膜後器官・横隔膜・後体壁	〃	〃
5/25	火	12:40～14:00	脊柱管・脊髓・内頭蓋底・頭部離断・腰部離断・椎前筋・椎側筋・咽頭後壁	〃	〃
5/26	水	12:40～14:00	顔面(皮下・浅層)・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	〃	〃
5/28	金	12:40～14:00	咀嚼筋(浅層)・顔面(中層)・側頭下窩・会陰部(皮下)・寛骨の除去	〃	〃
6/1	火	12:40～14:00	顔面(深層)・舌・会陰部(浅層)	〃	〃
6/2	水	12:40～14:00	咽頭(外側)・仙骨神経叢	〃	〃
6/4	金	12:40～14:00	咽頭・喉頭・骨盤出口筋	〃	〃
6/9	水	12:40～14:00	肩甲帯・上肢(皮下)・内腸骨動脈	〃	〃
6/11	金	12:40～14:00	上腕屈側・上腕伸側・骨盤神経叢	〃	〃

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前	年 期	人 体 解 剖 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
6/16	水	12:40～14:00	眼窩・眼球・骨盤内臓	秋田恵一	講義室2 I 期棟2階
6/18	金	12:40～14:00	外耳・中耳・内耳・下腿屈側(皮下)・下腿伸側(皮下)・足背(皮下)	〃	〃
6/23	水	12:40～14:00	鼻腔・副鼻腔・口蓋・下腿伸側(浅層)・足背(浅層)	〃	〃
6/25	金	12:40～14:00	前腕屈側(浅層)・手掌(皮下・浅層)・下腿屈側(浅層)	〃	〃
6/30	水	12:40～14:00	前腕屈側(深層)・足底(浅層)	〃	〃
7/2	金	12:40～14:00	手掌(深層)・下腿屈側(深層)	〃	〃
7/7	水	12:40～14:00	前腕伸側(浅層・深層)・手背・足底(深層)	〃	〃
7/9	金	12:40～14:00	総 括	〃	〃
8/30	月	8:50～10:10	人体解剖学試験		

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前	年 期	人体解剖学実習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/7	水	14:10～17:00	体幹の骨	秋田恵一 山口久美子 (坂本裕次郎)	解剖実習室
4/9	金	14:10～17:00	上肢の骨		〃
4/12	月	14:10～17:00	下肢の骨	〃	〃
4/13	火	14:10～17:00	頭蓋の骨	〃	〃
4/14	水	14:10～17:00	体表観察(仰臥位)・胸腹部(皮下)	〃	〃
4/16	金	14:10～17:00	頸部(皮下)・下腹部(皮下)	〃	〃
4/19	月	14:10～17:00	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	〃	〃
4/20	火	14:10～17:00	体表観察(腹臥位)・頭部・頸部・背部(皮下)・腰部・殿部・大腿屈側(皮下)	〃	〃
4/21	水	14:10～17:00	後頭の筋・浅背筋・上肢帯近位部・殿部(浅層)	〃	〃
4/23	金	14:10～17:00	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	〃	〃
4/26	月	14:10～17:00	頸部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	〃	〃
4/27	火	14:10～17:00	腋窩・腕神経叢・大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)	〃	〃
4/28	水	14:10～17:00	上肢の切離・下肢の切離	〃	〃
4/30	金	14:10～17:00	胸郭・上縦隔・甲状腺	〃	〃
5/7	金	14:10～17:00	心臓の神経・後縦隔	〃	〃
5/11	火	14:10～17:00	心臓・肺	〃	〃
5/12	水	14:10～17:00	腹膜・腸間膜の脈管・神経	〃	〃
5/14	金	14:10～17:00	腹膜・腸間膜の脈管・神経	〃	〃
5/18	火	14:10～17:00	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	〃	〃
5/19	水	14:10～17:00	消化管・肝臓	〃	〃
5/21	金	14:10～17:00	腹膜後器官・横隔膜・後体壁	〃	〃
5/25	火	14:10～17:00	脊柱管・脊髓・内頭蓋底・頭部離断・腰部離断・椎前筋・椎側筋・咽頭後壁	〃	〃
5/26	水	14:10～17:00	顔面(皮下・浅層)・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	〃	〃
5/28	金	14:10～17:00	咀嚼筋(浅層)・顔面(中層)・側頭下窩・会陰部(皮下)・寛骨の除去	〃	〃
6/1	火	14:10～17:00	顔面(深層)・舌・会陰部(浅層)	〃	〃
6/2	水	14:10～17:00	咽頭(外側)・仙骨神経叢	〃	〃
6/4	金	14:10～17:00	咽頭・喉頭・骨盤出口筋	〃	〃
6/9	水	14:10～17:00	肩甲帯・上肢(皮下)・内腸骨動脈	〃	〃
6/11	金	14:10～17:00	上腕屈側・上腕伸側・骨盤神経叢	〃	〃
6/16	水	14:10～17:00	眼窩・眼球・骨盤内臓	〃	〃
6/18	金	14:10～17:00	外耳・中耳・内耳・下腿屈側(皮下)・下腿伸側(皮下)・足背(皮下)	〃	〃
6/23	水	14:10～17:00	鼻腔・副鼻腔・口蓋・下腿伸側(浅層)・足背(浅層)	〃	〃

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前		人体解剖学実習			
年月日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/25	金	14:10～17:00	前腕屈側(浅層)・手掌(皮下・浅層)・下腿屈側(浅層)	秋田恵一 山口久美子 (坂本裕次郎)	解剖実習室
6/30	水	14:10～17:00	前腕屈側(深層)・足底(浅層)		〃
7/2	金	14:10～17:00	手掌(深層)・下腿屈側(深層)	〃	〃
7/7	水	14:10～17:00	前腕伸側(浅層・深層)・手背・足底(深層)	〃	〃
7/9	金	14:10～17:00	総 括	〃	〃

○教育目標

細胞は多細胞生物の生命現象の基本単位であり、その構造と機能の研究は生命科学・医学の基盤となるものである。「組織学」では「細胞生物学 (Ⅰ)、(Ⅱ)」「細胞・組織の構造」で学んだ細胞内および細胞間での生命現象に関する基礎知識を基盤として、組織レベルでの機能発現のメカニズムおよび構造と機能の相関を理解する事を目指す。人体の組織構造は複雑であるが、ほとんどの組織は基本組織構造の組み合わせとして考えることが可能である。各臓器に特有の組織構造をこのような観点で理解し、構造と機能を結びつける事を最終的な目的とする。

○授業の概要

組織の基本構築に関する講義の後、実際の組織標本について顕微鏡を用いた観察を行う。上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織という基本組織構造については、すでに「細胞・組織の構造」で学んだ。これらの知識を基に、以下の組織についてその構造を理解し、実際の標本を観察する。細胞、組織の構造がどのように組み合わされて個々の組織が形成され、さらに臓器としての機能を発揮するのかを理解する。組織学各論に相当する。

○授業のキーワード

各回の授業の際に講義担当教員より提示する。

○教科書・参考書

標準組織学 総論 第4版 (2002)、各論 第3版 (1992) 医学書院

最新カラー組織学 西村書店 (2003)

A Textbook of Histology, 12th edition, by Bloom and Fawcett, Chapman & Hall, ISBN-13 978-0412046919 (1994)

Color Textbook of Histology, 3rd edition, by Gartner and Hiatt, Saunders, ISBN-13 978-1416029458 (2006)

Human Histology, 3rd edition, by Stevens and Lowe, Mosby, ISBN-13 978-0323036634 (2004)

Wheater's Functional Histology: A Text and Colour Atlas, 5th edition, Churchill Livingstone, ISBN-13 978-0443068508 (2006)

○他科目との関連

MICの中の講義では「細胞生物学(特、監)」「細胞・組織の構造」と特に密接に関連する。3学年以降の講義では、組織学、生理学、薬理学、神経科学などの授業を理解する上での基礎となる。

○成績評価

筆記試験による。

○受講上の注意

授業は講義を行い、その内容について実習を行うという形式をとるので、24色程度の色鉛筆と無地のノート（綴じられたもの）を用意すること。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		組 織 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/7	水	10:20～11:40	血管および軟骨	井上明宏	講義室2 I 期棟2階
4/14	水	10:20～11:40	骨	〃	〃
4/21	水	10:20～11:40	皮膚・歯	中田隆夫	〃
4/27	火	10:20～11:40	上部消化管	井上明宏	〃
4/30	金	10:20～11:40	下部消化管	〃	〃
5/12	水	10:20～11:40	肝臓・膵臓	〃	〃
5/19	水	10:20～11:40	呼吸器	中田隆夫	〃
5/26	水	10:20～11:40	泌尿器	井上明宏	〃
6/2	水	10:20～11:40	内分泌器官	中田隆夫	〃
6/9	水	10:20～11:40	眼	井上明宏	〃
6/16	水	10:20～11:40	耳	中田隆夫	〃
6/28	月	8:50～10:10	組織学試験		

3 学 年 前 期		組 織 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/8	木	8:50～11:40	血管および軟骨	井上明宏	組織実習室 I 期棟4階
4/15	木	8:50～11:40	骨	〃	〃
4/22	木	8:50～11:40	皮膚・歯	中田隆夫	〃
4/28	水	8:50～11:40	上部消化管	井上明宏	〃
5/6	木	8:50～11:40	下部消化管	〃	〃
5/13	木	8:50～11:40	肝臓・膵臓	〃	〃
5/20	木	8:50～11:40	呼吸器	中田隆夫	〃
5/27	木	8:50～11:40	泌尿器	井上明宏	〃
6/3	木	8:50～11:40	内分泌器官	中田隆夫	〃
6/10	木	8:50～11:40	眼	井上明宏	〃
6/17	木	8:50～11:40	耳	中田隆夫	〃

○教育目標

生理学は生命の仕組みを理解する科学である。基礎医学における生理学は特に人体機能の特性とメカニズムを明らかにすることを目指す学問である。生理学は臨床医学を学ぶ上での基盤を築くという点で大変重要である。また一方で、臨床医学からの還元によっても生理学が成り立っているという双方向性の関係を理解する必要もある。従って、生理学を単に理解、暗記するという姿勢にとどまらず、将来この分野にフィードバックできるような見方、考え方を身につけることも目的とする。

○授業の概要

一般細胞生理学はMIC「細胞の構造Ⅰ（細胞生物学Ⅰ）」で、膜生理学（細胞膜電位とイオンチャンネル、膜輸送）、筋生理学（骨格筋収縮）についてはMIC「細胞の機能（細胞生物学Ⅱ）」で扱ったので、「生理学」ではそれに続く以下の項目を扱う。

- 1) 消化器生理学：消化と吸収（MIC「生理学導入」、消化管の運動
- 2) 代謝生理学：体温調節、中間代謝
- 3) 心臓生理学：心臓の電氣的活動、力学的活動
- 4) 循環生理学：血行力学、循環の調節機構
- 5) 内分泌生理学：内分泌因子の各論、内分泌系の総論
- 6) 呼吸生理学：肺の機能、呼吸調節機構

実習では神経生理学、筋生理学、内分泌学、消化器生理学の項目を含んだ「生理学」全体の実習を行う。

○教科書・参考書

生理学の教科書として、以下のものをあげる。その他は講義で適宜紹介する。

標準生理学 第6版（医学書院、2005年）

Ganong's Review of Medical Physiology 第23版（LANGE Basic Science、2009年）

（同翻訳）ギャノン生理学 第22版（丸善、2006年）

Textbook of Medical Physiology第11版（W B Saunders Co、2005年）

（同翻訳）ガイトン臨床生理学（医学書院、1999年）

○多科目との関連

生理学に含まれる次項目についてはそれぞれに示す系別講義で取り扱われる。

神経生理学（神経科学）、血液の生理学（血液学）、尿生成と体液の構成（腎体液制御学）

また、生体機能を理解するという目的にあたって、生理学はすべての基礎医学科目と密接に関連する。

○成績評価の方法

講義については筆記試験によって評価する。実習は、出席、実習態度、小テスト、レポートによって評価する。

○受講上の注意

短い期間で基礎医学と臨床医学の講義が行われるため、内容によってはやむを得ず順番が前後したり、一部重複したりする場合もある。したがって、教育カリキュラムに従うのみではなく、繰り返し自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。特に興味を引く部分を中心に、講座横断的に理解することからはじめることを勧める。また実習ですべてを取り扱うことはできないので、当研究室を直接訪問、見学することも可能である。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 期 前 期		生 理 学			
年月日	曜日	授 業 時 間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/7	水	8:50～10:10	体温調節	水島 昇	講義室2 I 期棟2階
4/13	火	10:20～11:40	心臓（1）心臓の電氣的活動	古川哲史	〃
4/19	月	8:50～10:10	心臓（2）心筋の興奮と収縮	〃	〃
4/26	月	8:50～10:10	心臓（3）心電図	〃	〃
5/10	月	8:50～10:10	心臓（4）ポンプとしての心臓1	磯部光章	〃
5/11	火	10:20～11:40	消化管運動（1）	（片山芳文）	〃
5/17	月	8:50～10:10	心臓（5）ポンプとしての心臓2	磯部光章	〃
5/24	月	8:50～10:10	循環（1）ヘモレオロジー・血行力学	吉田雅幸	〃
5/25	火	10:20～11:40	消化管運動（2）	（片山芳文）	〃
5/31	月	8:50～10:10	循環（2）循環の神経性調節	吉田雅幸	〃
6/7	月	8:50～10:10	代謝生理	水島 昇	〃
6/8	火	10:20～11:40	内分泌（1）視床下部・下垂体	〃	〃
6/14	月	8:50～10:10	内分泌（2）甲状腺・副甲状腺	〃	〃
6/21	月	8:50～10:10	呼吸（1）	三宅修司	〃
6/22	火	10:20～11:40	呼吸（2）	〃	〃
6/24	木	8:50～10:10	内分泌（3）睪臓	水島 昇	〃
7/1	木	8:50～10:10	内分泌（4）副腎	〃	〃
7/6	火	10:20～11:40	内分泌（5）総論	〃	〃
7/7	水	8:50～10:10	遺伝子組み換えマウスと代謝生理学	〃	〃
9/6	月	8:50～10:10	生理学試験		

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		生 理 学 実 習			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
7/12	月	12:40~17:00	実習講義	システム神経生理学 細 胞 生 理 学	講義室 2 I 期棟 2 階
7/13	火	12:40~17:00	実習 (1)	〃	実習室 I 期棟 6 階
7/14	水	12:40~17:00	実習 (2)	〃	〃
7/15	木	12:40~17:00	実習 (3)	〃	〃
7/16	金	12:40~17:00	実習 (4)	〃	〃
7/20	火	12:40~17:00	実習 (5)	〃	〃
7/21	水	12:40~17:00	実習 (6)	〃	〃
7/22	木	12:40~17:00	実習 (7)	〃	〃
7/23	金	12:40~17:00	実習のまとめ・小テスト	〃	講義室 2 I 期棟 2 階

○教育目標

生化学は、生体の構成成分の物理化学的性状を理解し、それらがどのように合成・分解されるか、その過程にエネルギー代謝がどのように関与するか、多彩な反応過程がどのように制御されるかを、学習する授業科目です。生体内の反応は、試験管内の化学反応とは異なり、特定の臓器や、細胞内の特異的なコンパートメントにおいて進行します。したがって、生化学反応の場としての組織・細胞の構築を分子レベルで理解する必要があります。達成目標は、“臨床医学で学習する各種疾患の病態を理解するために必要な知識を習得すること”です。

○教科書・参考書

(生化学教科書)

- 1) Lippincott's illustrated reviews Biochemistry (Lippincott Williams & Wilkins) 4th 2007年
- 2) Harper's Illustrated Biochemistry (Lange Medical Books) 28th 2009年

○受講上の注意

なるべく臨床医学との接点を強調するように努めているつもりです。あらかじめ内科学の教科書などを参考にするのも有意義でしょう。

(連絡先) yuhammch@tmd.ac.jp

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		生 化 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/14	水	8:50～10:10	総論	畑 裕	講義室2 I 期棟2階
7/21	水	8:50～10:10	糖代謝 I	〃	〃
7/22	木	10:20～11:40	〃 II	〃	〃
8/30	月	10:20～11:40	〃 III	〃	〃
9/9	木	10:20～11:40	脂質代謝 I	〃	〃
9/10	金	8:50～10:10	脂質代謝 II	〃	〃
9/30	木	8:50～10:10	脂質代謝と疾患	〃	〃
10/1	金	8:50～10:10	アミノ酸代謝 I	吉田 雅幸	〃
10/5	火	8:50～10:10	アミノ酸代謝 II	畑 裕	〃
10/14	木	8:50～10:10	エネルギー代謝	〃	〃
10/21	木	8:50～10:10	プリン・ピリミジン	〃	〃
10/22	金	8:50～10:10	ポルフィリン・ビリルビン	〃	〃
10/25	月	10:20～11:40	ビタミン	〃	〃
10/26	火	8:50～10:10	臨床検査の生化学的理解	〃	〃
10/28	木	14:10～15:30	補講 I	〃	〃
10/28	木	15:40～17:00	補講 II	〃	〃
10/29	金	14:10～17:00	生化学酵素学実習の説明(出席評価の対象とします)	〃	〃
11/22	月	8:50～10:10	生化学試験		

3 学 年 後 期		生 化 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
11/1	月	12:40～17:00	実習	畑 裕 鳥山 一	実習室
11/2	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
11/4	木	12:40～17:00	〃	〃	〃
11/5	金	10:20～17:00	〃	〃	〃
11/8	月	10:20～17:00	〃	〃	〃
11/9	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
11/10	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
11/11	木	12:40～17:00	〃	〃	〃
11/12	金	10:20～17:00	〃	〃	〃

○教育目標

薬理学とは薬物の特性及びその効果を対象とする科学である。

教育方針としては：

- A 比較的少数の基本的な薬物について、その作用様式を学ぶ。
- B 生理学、生化学、薬理学等の区別にあまりとらわれずに、広く「物質と生体の相互作用」という立場から教育を行う。
- C 「ある特定の薬物が、ある特定の作用を持っているか否か」といった基本的な問題について、将来、適正な判断を下し得るよう、実験科学者としての訓練に重点をおく。

○授業の概要

(1) 講義

題目及び内容	担当	題目及び内容	担当
総論 序論、薬力学	田邊	内分泌薬理	野田、三枝
薬物動態	安原	抗菌薬	安原
血管系薬理	三枝	免疫薬理	田邊
循環薬理	田邊	臨床薬理	安原
呼吸器薬理	田邊	イオンチャンネルとレセプター(*)	田邊
消化器薬理	田邊	神経筋接合部(*)	田邊
利尿薬	三枝	シナプスの分子生物学(*)	田邊
泌尿器・生殖器薬理	三枝	Caと細胞内情報伝達(*)	田邊
鎮痛薬	田邊	自律神経薬理(*)	三枝
抗炎症薬	田邊	中枢神経薬理(*)	三枝
抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊	神経精神薬理(*)	三枝

(*)は神経科学系統講義

(2) 実習

題目	題目
実習講義	7. 動脈および静脈リング
シミュレーション実習	8. 薬物動態シミュレーション
1. ラット横隔神経-横隔膜標本	動物実習 (骨格筋、平滑筋の収縮)
2. 前頸骨筋-座骨神経標本	1. カエル腹直筋
3. 心拍数血圧標本	2. モルモット回腸
4. カエル腹直筋標本	
5. モルモット回腸標本	実習発表会
6. 輸精管標本	

○授業のキーワード

講義及び実習の項目参照

○教科書・参考書

- ・ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 2006
- ・The Pharmacological Basis of Therapeutics 11版 2005
- ・グッドマンギルマン薬理書（上・下巻）11版 2007
- ・医系薬理学 2005
- ・図解薬理学 2008
- ・イラスト薬理学 2006
- ・イオンチャンネルの分子生物学 1998
- ・カラー図解 これならわかる薬理学 2006
- ・ローレンス臨床薬理学 2006
- ・NEW薬理学 2007
- ・標準薬理学 2001
- ・Color Atlas of Pharmacology 2005
- ・Principles of Neural Science 2010
- ・Molecular Biology of the Cell 2001

○他科目との関連

薬物を取り扱うという点で、全ての臨床科目と関連している。基礎科目では神経科学、生理学、生化学と特に密接に関連している。

○成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。神経系薬理学（*）に関しては神経科学として別に試験を行う。また実習に関しては、出席し実験レポートを提出することが必須で、実習態度、実習発表会のための結果取りまとめへの貢献度も勘案する。

○受講上の注意

受講前に必ず教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが望ましい。

授業では時間の関係で全てを教えることは不可能なので足りない部分は教科書等で自習し補完することが重要である。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前・後期		薬 理 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/9	金	8:50～10:10	薬理学総論：序論、薬力学	田邊 勉	講義室2 I 期棟2階
4/16	金	8:50～10:10	薬物動態学 (1)	安原真人	〃
4/23	金	8:50～10:10	薬物動態学 (2)	〃	〃
4/30	金	8:50～10:10	血管系薬理：抗血栓薬、高脂血症治療薬	三枝弘尚	〃
5/7	金	8:50～10:10	循環器系 (1)：心不全治療薬、抗不整脈薬	田邊 勉	〃
5/14	金	8:50～10:10	循環器系 (2)：虚血性心疾患治療薬、高血圧治療薬	〃	〃
5/21	金	8:50～10:10	呼吸器・消化器作用薬	〃	〃
5/28	金	8:50～10:10	利尿薬、泌尿器・生殖器作用薬	三枝弘尚	〃
6/4	金	8:50～10:10	鎮痛薬 (麻薬性、非麻薬性)	田邊 勉	〃
6/11	金	8:50～10:10	内分泌系 (1)：糖尿病治療薬	三枝弘尚	〃
6/18	金	8:50～10:10	内分泌系 (2)：骨粗鬆症治療薬	野田政樹	〃
6/25	金	8:50～10:10	非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊 勉	〃
7/2	金	8:50～10:10	抗菌薬 (抗生物質、合成抗菌薬) (1)	安原真人	〃
7/9	金	8:50～10:10	抗菌薬 (抗生物質、合成抗菌薬) (2)	〃	〃
7/16	金	10:20～11:40	免疫抑制薬、糖質コルチコイド	田邊 勉	〃
9/3	金	10:20～11:40	臨床薬理 (1)	安原真人	〃
9/10	金	10:20～11:40	臨床薬理 (2)	〃	〃
10/4	月	8:50～10:10	薬理学試験		

3 学 年 前		薬 理 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
8/30	月	12:40～17:00	実習説明会	田邊 勉 三枝弘尚 Zong Shuqin	講義室2 I 期棟2階
8/31	火	12:40～17:00	シミュレーション実習 (1)		実習室 I 期棟6階
9/1	水	12:40～17:00	シミュレーション実習 (2)		
9/2	木	12:40～17:00	シミュレーション実習 (3)		
9/3	金	12:40～17:00	シミュレーション実習 (4)		
9/6	月	12:40～17:00	シミュレーション実習 (5)		
9/7	火	12:40～17:00	シミュレーション実習のまとめと発表会の準備		
9/8	水	12:40～17:00	動物実習 (1)		
9/9	木	12:40～17:00	動物実習 (2)		
9/10	金	12:40～17:00	実習発表会		講義室2 I 期棟2階

○教育目標

病理学とは、ヒトの疾病の理論を扱う学問であり、主に細胞・組織・臓器の形態像に基づき、各種疾患の原因・進行・転帰を追究していく。「病理学総論」では、全ての疾患を理解するための縦糸として、系統的な疾患概念（奇形、代謝異常、炎症、循環障害、腫瘍）を学ぶ。そして、これに続く「病理学各論」で得られる個々の疾患に関する知識を横糸として組み合わせることで、ヒトの“病気”の姿が明確に織り成されるのである。

○授業の概要

本科目は、1週間に講義と実習の全てを集中させた「病理総論ブロック」として授業が行われる。学生は数人ごとの小グループに分かれ、各グループには、病理学総論の大きなテーマに関連して幾つかの課題が与えられる。ブロック週の前半はその課題に対する調査・探究をするための自習時間が多く取られ、その合間に数時間の講義および顕微鏡実習が入る。週の後半では、与えられた課題に対する次週の成果を各グループが発表し、知識を共有しあう場とする。

講義と実習は必要最小限度にとどめてあり、各グループの課題を調査・探究するのに十分なものではないから、学生自身の十分な自己学習が求められる。

○授業のキーワード

遺伝子異常、細胞傷害、循環障害、代謝障害、炎症、免疫病理、腫瘍

○教科書・参考書

- (1) Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease 7th ed. W B Saunders Co.

連携ウェブサイトあり。教科書付属のシリアルナンバー登録により、本文・図表の全てをウェブ上で閲覧可能。なお、2009年6月に新版（8th ed）出版予定。

- (2) ロビンス基礎病理学 廣川書店

(1) の簡約版 (Robbins Basic Pathology) の旧版の翻訳。

- (3) 標準病理学 第3版 医学書院

編集協力：北川昌伸。

- (4) 組織病理学アトラス 第5版 文光堂

- (5) 外科病理学 文光堂

- (6) 現代の病理学（総論、各論）金原出版

- (7) 病理学（総論、各論）文光堂

○他科目との関連

病理学はヒトの正常形態・機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学・臨床医学と強く関連している。すなわち病理学は、基礎と臨床を結ぶ学際的分野である。

○成績評価の方法

筆記試験を実施する。試験範囲は、講義・実習およびブロック週的全課題、のすべての内容である。

○受講上の注意

病理学はこれから臨床医学を学ぶ道程の一里塚であり、病理学講義では病気に関する数多くの医学用語に初めて接するところでもある。以後に続く臨床医学の講義に際しては、病理学総論に登場する医学用語の概念や各種病態を正しく把握しているか否かが、その理解度を大きく左右する。

一方、病理学はヒトの病的なことの理論であるから、その基盤は当然、正常状態にある。従って病理学を学習する際には、常に正常状態との対比を忘れてはならない。

☆具体的な日程および内容に関しては、事前に行う説明会にて説明します。

○教育目標

衛生学は、医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると社会医学に入り、臨床医学を治療医学と考えれば、衛生学は予防医学と考えることができる。すなわち、衛生学は人間をとりまく自然的、社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防、早期発見および健康の維持推進に役立てようとする学問である。従って衛生学では単に疾病を治療するだけでなく、疾病の背後にある種々の自然的・社会的要因をも考察して対応できる医師・医学研究者を養成することを目標とする。

○授業の概要

1. 衛生学の講義内容は環境と感染症を中心とする。
2. 衛生学実習では、環境測定・変異原性試験・体力測定などの実習を行い、具体的に測定方法を学ぶほか、レポート提出・口頭発表をしてもらう。
3. 担当者（専門領域）

教授：湯浅保仁（衛生学一般、分子腫瘍学、遺伝子診断）

非常勤講師：中西準子（環境リスク）、福林 徹（スポーツ医学）、工藤泰雄（食中毒）、水野哲也（体育学）、平野靖史郎（ヒ素）、森 千里（化学物質の健康影響）、那須民江（有機溶剤中毒）、小久保喜弘（循環器病の疫学）

○授業のキーワード

地球環境、酸性雨、オゾンホール、大気汚染、水質汚染、水俣病、環境リスク、ヒ素、上水道、下水道、温熱条件、感染症、エイズ、日和見感染、食中毒、金属アレルギー、有機溶剤、喫煙、変異原性試験、職業癌、遺伝子診断、スポーツ医学

○教科書・参考書

「国民衛生の動向2009年」(財)厚生統計協会 2009

「標準公衆衛生・社会医学」第1版 岡崎勲・豊嶋英明・小林康毅編集 医学書院 2006

「衛生公衆衛生学」第3版 糸川嘉則他編集 南江堂 1998

「シンプル衛生公衆衛生学2005」鈴木庄亮・久道茂編集 南江堂 2005

「慢性水俣病 何が病像論なのか」環境叢書シリーズ3 原田正純著 実教出版 1994

「奪われし未来」オズボーン他著 翔泳社 1997

「地球温暖化を考える」宇沢弘文著 岩波新書 1995

「Public Health and Preventive Medicine」15th ed., Maxcy-Rosenau-Last ed., McGraw-Hill Medical Publishing, 2007

○他科目との関連

「公衆衛生学」および「社会医学」と最も強く関連するが、その他の基礎・社会医学科目とも関連する。

○成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験で学習成果を問う。実習及びグループ選択研究については、レポート・口頭発表・筆記試験で判定する。

○受講上の注意

衛生学では常に新たな内容が付加され、また最新のデータを常に把握する必要があるので必ず講義に出席すること。実習も見学や実験など貴重な機会が用意されるので必ず受けること。グループ選択実習では積極的に課題に取り組む姿勢を培ってほしい。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		衛 生 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/25	月	12:40～14:00	序論	湯浅保仁	講義室2 I 期棟2階
10/25	月	14:10～15:30	水質汚染	秋山好光	〃
10/26	火	12:40～14:00	大気汚染	深町博史	〃
10/26	火	14:10～15:30	有機溶剤中毒	(那須民江)	〃
10/27	水	12:40～14:00	ヒ素の環境汚染と毒性	(平野靖史郎)	〃
10/27	水	14:10～15:30	化学物質のヒトへの健康影響	(森 千里)	〃
10/27	水	15:40～17:00	環境リスク論	中西準子	〃
10/28	木	8:50～10:10	循環器病の疫学	(小久保善弘)	〃
10/29	金	8:50～10:10	感染症(1)	湯浅保仁	〃
11/2	火	8:50～10:10	感染症(2)	〃	〃
11/4	木	8:50～10:10	食品・水媒介性疾病と食品衛生	(工藤泰雄)	〃
11/10	水	8:50～10:10	スポーツ医学	(福林 徹)	〃
11/24	水	8:50～10:10	衛生学試験		

3 学 年 後 期		衛 生 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
11/15	月	12:40～17:00	環境測定	湯浅保仁	実習室 I 期棟
11/16	火	12:40～17:00	〃	秋山好光	〃
11/17	水	12:40～17:00	変異原性試験	深町博史	〃
11/18	木	12:40～17:00	感染症・腫瘍	湯浅保仁	〃
11/19	金	12:40～17:00	体力測定	水野哲也	〃

○教育目標

医動物学とは、人類の衛生上有害なすべての動物を対象とし、それらの形態、分類、生態、臨床、疫学及び防除の研究を行う学問である。特に、真核生物の寄生動物を扱うという意味で、ウイルスや細菌とは異なる寄生生物学を教授する分野である。対象動物はきわめて広く、原生動物から脊椎動物の哺乳類にまで亘っており、原虫学、蠕虫学、衛生昆虫学、感染症媒介動物学及び有毒動物学として学習する。

このように、その対象も広く、また基礎から応用面までその扱い方も広い。当教室は社会医学の一部門として、熱帯医学、国際保健、予防医学、公衆衛生学の立場に立って教育し、臨床との関連も重要視しているが、寄生生物学としての基礎医学の視点も重視する。医動物学では実物を体験する教育が重要なので、できるだけカラースライドや標本を示すようにし、視聴覚教材も活用する。さらに、熱帯病としての寄生虫病の防圧やフィールド活動を通して医療の国際化に対応できる医師の育成をめざす。

○授業の概要

- 1) 医動物学総論と医動物学各論は教科書や参考書に沿って、世界及び日本での重要と思われる疾患・項目を主体に解説する。
- 2) 医動物学の各分野の講師により、研究やフィールドワークなど、この分野の研究最前線からの話題を提供する。疑問点や自分の意見を討論して欲しい。
- 3) 医動物学実習: 医動物学で扱う動物を標本や生きている寄生虫を実際に観察し、スケッチする。系統講義で学習した事項を実習で確認し、疑問のある場合は、遠慮なく教員に質問して欲しい。貴重なものを含めて、貴重な標本を準備している。
- 4) 担当者: 太田伸生教授、赤尾信明准教授、熊谷 貴助教 (総論、線虫学、原虫学、寄生虫免疫学、熱帯医学、吸虫学、条虫学、実習)、非常勤講師: 篠永 哲 (衛生動物学)、小林 潤 (国際保健学)

○授業のキーワード

蠕虫学、原虫学、人畜共通感染症、輸入寄生虫症、国際保健、熱帯医学

○教科書・参考書

図説 人体寄生虫学、吉田幸雄・有蘭直樹 著、南山堂

寄生虫学テキスト 上村清ら編、文光堂 (2000)

標準医動物学 石井明、鎮西康雄、太田伸生編、医学書院

熱帯医学 中山書店

Medical Parasitology, E. K. Markell & M. voge, W. B. Saunders

Clinical Parasitology, P. C. Beaver et al., Lea & Febiger

Manson's Tropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Baillierre Tindall
Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James
Diagnostic Medical Parasitology, L. s. Gracia, ASN Press (2001)

○他科目との関連

医動物学は医学と動物学の両分野にまたがった学問であるから、医学のすべての科目及び動物学と深い関係を持っている。特に、基礎では細菌学、ウイルス学、薬理学、病理学、免疫学、生化学、公衆衛生学、臨床では内科学、感染症学、小児科学、皮膚科学、眼科、熱帯病学などと密接な関係がある。

○成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。また、講義の際に、随時小テストなどによる理解度の把握を行う。実習では、毎回スケッチの提出を求めて理解をはかる。実習の最終回に標本を用いて筆答試験を行う。それらを総合して医動物学としての成績評価を行う。

○受講上の注意

医動物学は扱う病原体をスライドや標本で実際にみて体験することが大切なので、実習には毎回出席することを原則とし、無断欠席は実習試験の受験資格に影響するので注意すること。生の病原体を供覧することもあるので、実習では白衣着用を徹底すること。

また、医動物学が担当する範囲の疾患は、近年のグルメブーム、自然食ブーム、ペットブーム、環境保全運動の高まり、地球の温暖化による媒介昆虫の生息域拡大などによって増加の傾向を示し始めている。さらに、途上国に目を向けると重要な疾患はマラリア、住血吸血症などのように原虫・蠕虫感染症が大半を占めている。医動物学の講義では今日の国際化をにらんで、熱帯病としての寄生虫病の診断・治療学や、フィールド活動を通じて国際交流に役立つ人材の育成に向けた講義も併せて行う。また、寄生虫感染の最新の基礎的研究成果についても解説するので講義にも毎回出席して問題点に積極的に関心を抱いてもらうことを強く希望している。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		医 動 物 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/14	火	12:40～14:00	総論	太田伸生	講義室2 I 期棟2階
12/15	水	8:50～10:10	線虫病(1) 腸管寄生線虫病	赤尾信明	〃
12/17	金	12:40～14:00	〃 (2) フィラリア症	〃	〃
12/21	火	12:40～14:00	〃 (3) 幼虫移行症	〃	〃
12/22	水	12:40～14:00	吸虫病(1) 肺吸虫症・肝吸虫症	太田伸生	〃
1/6	木	12:40～14:00	〃 (2) 住血吸虫症	熊谷 貴	〃
1/11	火	10:20～11:40	条虫病(1) 腸管寄生条虫病	太田伸生	〃
1/19	水	8:50～10:10	〃 (2) エキノコックス症・囊虫症	赤尾信明	〃
1/20	木	8:50～10:10	原虫病(1) マラリア	太田伸生	〃
1/20	木	12:40～14:00	〃 (2) 消化管寄生原虫病	赤尾信明	〃
1/25	火	10:20～11:40	〃 (3) トキソプラズマ症・鞭毛虫症	太田伸生	〃
1/26	水	10:20～11:40	節足動物	(篠永 哲)	〃
1/27	木	10:20～11:40	有害動物	〃	〃
1/28	金	10:20～11:40	寄生虫疾患の診断学	赤尾信明	〃
1/31	月	10:20～11:40	寄生虫疾患の治療対応	太田伸生	〃
2/1	火	10:20～11:40	国際保健と寄生虫対策	(小林 潤)	〃
2/7	月	8:50～10:10	医動物学試験		

3 学 年 後 期		医 動 物 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
1/25	月	12:40～17:00	線虫類(1)	全員	実習室
1/26	火	12:40～17:00	線虫類(2)・節足動物	〃	〃
1/27	水	12:40～17:00	吸虫類	〃	〃
1/28	木	12:40～17:00	条虫類	〃	〃
1/31	月	12:40～17:00	原虫類(1)	〃	〃
2/1	火	12:40～17:00	〃 (2)	〃	〃
2/3	木	15:40～17:00	医動物学実習試験		

○教育目標

法医学 (legal medicine) は、法律上問題となる医学的事項を解明して、法的解決に寄与することを目的としている。法医学の授業には狭義の法医学 (forensic medicine) と医事法学 (medical laws) が含まれる。

法律上問題となる医学的事項は多岐で、司法、行政、立法の各分野に及ぶが、司法的分野の問題が最も多い。法医学は法治国家には不可欠な学問であり、制定法の整った民主主義国家においては臨床医学のあらゆる領域に跨がって法医学的な問題が存在する。例えば死亡診断書の作成、医事紛争防止などは各科の臨床医に身近な問題であるが、これらの問題の解決には法医学的な基本知識が必要である。特に医学を倫理、法律、行政、社会、訴訟などと関連づけて見る目を養う必要がある。「臨床医に必要な法医学的常識と心構えを身につける」を一般的学習目標とし、次の3つを個別的行動目標とする。

- (1) 死因、および、死因の種類を判断し、死体検案書（死亡診断書）を正しく作成できる。
- (2) 外因死について、一般の人に分かりやすく説明できる。
- (3) 異状死届けの必要な場合を全部説明できる。

○授業の概要

講義（系統的講義および応用的講義）と実習を行う。

系統的講義は次の項目を含み、死体検案に必要な知識を中心に講義する。

死体現象、窒息、内因性急死、鋭器損傷、鈍器損傷、交通外傷・頭部損傷、焼死・感電死など、嬰兒殺など、労働災害、中毒

応用的講義は、主として実務問題の解決に必要な知識を中心に講義する。多くの学外講師を予定している。

実習では法医学特有の事項を体験することを目標として、次の項目を予定している。症例検討実習、血液型・アルコール、法医解剖見学。

○授業のキーワード

司法解剖、死体検案書、死亡診断書、変死、死因、損傷の種類、損傷の部位、損傷の程度、生活反応、皮下出血、皮内出血、自為、他為、胃内容、死体現象、死体硬直、体温降下、死斑、自家融解、腐敗、白骨、死蝋、死後経過時間、眼角膜、窒息、縊死、絞殺、扼殺、気道閉塞、溺死、縊血点、流動性血液、鬱血、内因性急死、病死、鋭器損傷、凶器、有刃器、切創、割創、刺創、鈍器損傷、打撲傷、擦過傷、挫傷、挫滅、挫裂創、架橋状組織、射創、交通事故、轢過傷、伸展傷、硬膜外出血、脳硬膜下出血、クモ膜下出血、脳挫傷、アルコール、焼死、煤煙、火傷、紅斑、水疱、感電、嬰兒殺、生産児、死産児、未熟児、肺浮揚試験、強姦、精液、労働災害、墜落、転落、中毒、睡眠薬、覚醒剤、麻薬、有機燐剤、アルカロイド、無機毒物、神経毒、血液毒、腐蝕毒、賠償医学、親子鑑定、血液型、

血清型、酵素型、白血球型、DNA多型、父権肯定確率、父権否定確率、認知、個人識別、歯牙、指紋、掌紋

○教科書（指定）

- ①現代の法医学（第3版増補）永野・若杉（編）金原出版 1998
- ②標準法医学・医事法（第6版）石津・高津（編）医学書院 2006

○他科目との関連

法医学を専門としない医師にとっても、死亡診断書作成、医事紛争の防止、死体検案などは必ず遭遇する身近な法医学的事項である。上記の「授業のキーワード」に挙げた項目が極めて多彩なことから判るように、法医学は臨床医学の全ての領域に関連がある。

○成績評価の方法

筆答試験で行う。出席状況も考慮する。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		法 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/7	木	8:50～10:10	死体現象	上村公一	講義室2 I 期棟2階
10/25	月	15:40～17:00	損傷(1) 損傷総論、生活反応	上村公一	〃
10/26	火	15:40～17:00	損傷(2) 鋭器	上村公一	〃
11/22	月	14:10～15:30	損傷(3) 鈍器、銃器	上村公一	〃
11/24	水	14:10～15:30	頭部外傷、交通外傷	上村公一	〃
12/13	月	12:40～14:00	窒息(1) 総論	上村公一	〃
12/13	月	14:10～15:30	窒息(2) 各論	上村公一	〃
12/13	月	15:40～17:00	血液型、物体検査、親子鑑定	上村公一	〃
12/14	火	8:50～10:10	法歯学	(小室歳信)	〃
12/15	水	12:40～14:00	中毒学(1) 総論	秋 利彦	〃
12/15	水	14:10～15:30	中毒学(2) 各論	秋 利彦	〃
12/15	水	15:40～17:00	環境異常	上村公一	〃
1/17	月	8:50～10:10	法医・医事試験		

3 学 年 後 期		法 医 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/16	木	12:40～17:00	死体検案書作成・症例検討	上村公一	実習室
1/5	水	12:40～17:00	血液型・アルコール(1)	上村公一、 (永井智紀)	〃
1/13	木	12:40～17:00	血液型・アルコール(2)	上村公一、 (永井智紀)	〃

○教育目標

人間の生命・健康に直接関わるものであるから、何らかのルールを定めておく必要がある。特に現在のように医療技術・機器・薬剤が高度化してくると、適正な医療の確保のために人や物、あるいは行為に対する規制が強化されてくる。医療が平等に行き互るように種々の制度が生まれ、また、万一事故が発生した場合の適切な処理のための法制度の整備が必要である。医療のように専門性が高く、且つ患者・医師の人的信頼関係を基盤とする領域においては、第一次的には倫理的、社会的なコントロールが働き、その後に法的規制が問題となるべきものである。これらの法制度の本質を理解し、法に対していかに対処すべきかを理解した医師を育てたい。

○授業の概要

「医療行為」の法的意味について、概説する。

「医療事故」では、分類と現状、社会的制裁、法的制裁、周辺問題、などを解説し、予防対策を検討する。法律家（刑事・民事）、および、臨床家の立場から、「医療事故」を論じる。

現在、死因究明制度について、議論されているところである。これからの「死因究明制度」の展望について説明する。

○授業のキーワード

医師法、医療法、医倫理、医療行為、診療契約、医療事故、限界的医療、日本国憲法、刑法、軽犯罪法、刑事訴訟法、民法、戸籍法、民事訴訟法、弁護士法、死体解剖保存法、食品衛生法、検疫法、死産の届出に関する規程、精神保健法、母体保護法、予防接種法、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、感染症法、臓器の移植に関する法律

○教科書・参考書

標準法医学・医事法（第6版）石津・高津（編）医学書院 2006

現代の法医学（第3版増補）永野・若杉（編）金原出版 1998

○他科目との関連

医事法学は医療のみではなく、広く人の生命と健康に関わる法的問題を扱うので、臨床、基礎、社会医学のすべての科目と関連がある。最も関連の深い科目は法医学で、法医学の授業の一部としている。

○成績評価の方法

法医学の試験に含めて、筆答試験で行う。出席状況も考慮する。

○受講上の注意

医事に関わる法令は抽象的規定であったり、ごく限定された状況についてのものであり、個々の現場での医師の具体的な指針となることは極めて稀である。大切なことは、医師が視野を広く持ち法全体の意図する方法を見定め、その中における医師としての立場と役割を客観的に認識することであろう。そのためには、全ての講義に出席して、問題解決の素養の涵養に務めることを望む。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		医 事 法 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/20	月	12:40～14:00	医療行為、医療事故	上村公一	講義室2 I 期棟2階
12/20	月	14:10～15:30	刑事事件としての医療事故	(奥津康祐)	〃
12/20	月	15:40～17:00	医療事故の予防	(奥津康祐)	〃
12/21	火	14:10～15:30	死因究明制度	上村公一	〃
12/22	水	14:10～15:30	民事事件としての医療事故	(武市尚子)	〃
12/22	水	15:40～17:00	医事紛争と死亡時医学検索の意義	(武市尚子)	〃
1/12	水	15:40～17:00	臨床家の立場からみた医療事故	(長野展久)	〃
1/17	月	8:50～10:10	法医・医事試験		

○教育目的・到達目標

本学における膠原病・リウマチ学教育カリキュラムは、系統的講義および診療参加型臨床実習よりなる。

前者においては、膠原病・リウマチ性疾患の発症機構、疫学、病態生理、診断、治療に関する基本的知識の習得を到達目標と設定している。

後者においては、頻度の高い内科的問題および膠原病・リウマチ内科領域の基本的な問題に面した際の問題解決技能の習得のサポートを教育目的にかかげ、病歴聴取、身体診察、プロブレムリストの作成、鑑別診断リストの構築、評価計画の立案、初期治療方針の立案、そして自己学習姿勢の習得を到達目標と設定している。

○授業の概要

1. 系統的講義：

临床上、特に重要な膠原病・リウマチ性疾患を中心に提起し、概念、病因、病態、症候、治療について概説し、学生が自主的に考察することを目指す。

- 1) 全身性エリテマトーデス、薬剤起因性ループス、抗リン脂質抗体症候群
- 2) 関節リウマチ、悪性関節リウマチ、成人スティル病
- 3) 血管炎症候群
- 4) 多発性筋炎、皮膚筋炎
- 5) 強皮症、混合性結合組織病、CREST症候群
- 6) シェーグレン症候群、ベーチェット病
- 7) アナフィラキシー、薬物アレルギー
- 8) 結晶誘発性関節炎（痛風、偽痛風）

2. 診療参加型臨床実習（詳細は「臨床実習シラバス」を参照）：

臨床実習は病棟実習が主であり、指導医の監視およびサポートのもとで診療チームの一員として実際に患者を受け持ち、診療への参加を通して上述した問題解決技能の習得に努める。

学生は、担当患者に関して常に最新の更新された臨床情報を完全網羅していることを期待され、担当患者に関する他医療スタッフや患者および家族との議論には必ず同席し、日々の回診でのプレゼンテーションおよび議論を含め、全ての臨床判断・診療活動に参加する。

外来や院内コンサルテーションを通しての学習も、適宜取り入れる。

○授業のキーワード

臨床推論、EBM (Evidence-based medicine)、知的探究心

○教科書・参考書

1. 【内科学教科書】

ハリソン内科学第2版（原著第16版）、メディカル・サイエンス・インターナショナル

2. 【膠原病・リウマチ内科学教科書】

リウマチ入門（第12版 [日本語版]）アメリカ関節炎財団編集 日本リウマチ学会発行

3. 【膠原病・リウマチ内科学診療マニュアル】ワシントンマニュアル（WM）リウマチ科コンサルト；メディカル・サイエンス・インターナショナル

○他教科との関連

膠原病・リウマチ学は、疾患の発症機構を理解する上において免疫学のみならず、分子生物学、遺伝学、生化学、薬理学、病理学などの基礎医学に関する基本的知識を具備していることが必要である。またその診療においては、各専門内科、皮膚科、整形外科など多くの分野と協力し、全人的なケアを実現するためのチーム医療が必要である。

○成績評価の方法

系統的講義は、筆答試験にて到達度の評価を行う。臨床実習についての成績評価方法は医学科教育委員会の規定による。

○受講上の注意

系統的講義および臨床実習では出席の有無を確認し、これを総合合否判定に加える。3分の2以上出席していないものは筆答試験の受験資格を欠き、また臨床実習は不合格とする。したがって欠席の場合には必ず届け出ること。

臨床実習においては、態度・振る舞いのみでなく外見上も、患者および診療スタッフの信頼を得るために十分配慮しなければならない。服装に関しては、男子学生はネクタイ着用を必須とする。またジーンズやサンダルの使用は禁止する。ピアスや宝石は相手に不快感を与えず必要最小限な程度に控えること。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 後 期		膠原病・リウマチ学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/17	金	14:10～15:30	関節リウマチ	上 阪 等	講義室2 I 期棟2階
12/17	金	15:40～17:00	多発性筋炎・皮膚筋炎	南木敏宏	〃
1/6	木	14:10～15:30	全身性エリテマトーデス	窪田哲朗	〃
1/14	金	8:50～10:10	シェーグレン症候群・ベーチェット病	平田真哉	〃
1/14	金	10:20～11:40	強皮症・混合結合組織病	針谷正祥	〃
1/14	金	12:40～14:00	血管炎症候群	高田和生	〃
1/20	木	15:40～17:00	結晶誘発性関節炎	小池竜司	〃
1/21	金	14:10～15:30	アナフィラキシー・薬剤アレルギー	溝口史高	〃
1/24	月	8:50～10:10	膠原病・リウマチ学試験		

○教育目的・到達目標

本学が掲げる教育理念・目的（「幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観を持ち、自ら問題を提起し解決する姿勢に富み、医学のフロンティアを切り開く創造能力があり、地球的規模で働く国際人としての意識を持つ医師・医学研究者の育成」）のためには、以下に挙げる資質が不可欠である。

- ・ グローバルスタンダードに沿った医療を提供する
- ・ 基礎・臨床研究を行い、情報を世界に向けて発信する
- ・ 国際舞台で意見交換を行い、生命科学の発展に貢献する

これら資質の獲得のためには、医学知識の習得に加え、以下の能力の習得が必要である。

- 1) 英語による医学情報（論文やデータベース）を読む能力
- 2) 英語により情報発信を行い、また国際舞台で議論する能力
- 3) 臨床問題解決における、病歴・身体所見を重視した米国式アプローチを実践する能力

したがって医学英語ⅠおよびⅡにおいては、これら3つの能力の習得を到達目標に掲げ、それらに対する学生による必要性の認識、および自己主導的学習をサポートするための学習機会を提供する。

○授業の内容

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医学知識習得ステージに合わせた学習スケジュールを組み、オンライン教材も利用し、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医学知識・臨床技能習得ステージに合わせたトピック・論点を選定し、2から4人ずつの小グループにて議論を行う。毎回Native speaker(s)を講師兼Moderator/facilitatorとして配備する。トピック・論点の選定や議論内容は、以下の通りである。

【医学英語Ⅰ】

第1/2学年：新聞・雑誌などの、「健康・医学」関連トピック記事

【医学英語Ⅱ】

第3学年：主に倫理的問題を中心とした症例検討

第4学年：臨床問題解決における米国式アプローチ習得およびEBM（Evidence-based medicine）概念理解/実践も兼ねた症例検討

○教科書・参考書

- ・医学関連英語語彙・フレーズの習得に関しては、配布資料または教科書（別途指定）を用いる。
- ・Small group discussionに関しては、毎回資料を配布する。
- ・医学英語Ⅱ第4学年においてはEBM参考書（別途指定）を用いる。

○成績評価の方法

【医学英語Ⅰ】

第2学年末に試験を行う。形式は個別の口答試問とする。最終成績は、Small group discussionへの参加（50%）、Vocabulary quiz成績（20%）、そして期末試験成績（30%）に基づき判定される。

【医学英語Ⅱ】

第4学年中間に試験を行う。形式は筆答試験を予定している。最終成績は、Small group discussionへの参加/Group work提出資料（60%）、Vocabulary quiz成績（20%）、そして期末試験成績（20%）に基づき判定される。

○受講上の注意

3分の2以上出席していないものは筆答試験の期末試験受験資格を欠く。したがって欠席の場合には必ず届け出ること。遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。

Small group discussionに際しては、あらかじめ配布された資料を必ず事前に読み、自分自身の意見をまとめ、当日グループメンバーに対して発表し、議論に参加できるよう、十分準備しておくこと。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前		医 学 英 語 II			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/6	火	10:20～11:40	TBA	高田和生 他	講義室2 I 期棟2階
4/20	火	10:20～11:40	TBA	〃	〃
5/18	火	10:20～11:40	TBA	〃	〃
6/1	火	10:20～11:40	TBA	〃	〃
6/15	火	10:20～11:40	TBA	〃	〃
6/29	火	10:20～11:40	TBA	〃	〃
7/15	木	8:50～10:10	TBA	〃	〃
9/2	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃

3 学 年 後		医 学 英 語 II			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/30	木	10:20～11:40	TBA	高田和生 他	講義室2 I 期棟2階
10/7	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
10/14	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
10/28	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
11/4	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
11/25	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
12/16	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
1/6	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
1/13	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
1/20	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃
2/3	木	10:20～11:40	TBA	〃	〃

○教育目標

一般目標

- 1) 東洋医学の根底となる理論的背景を理解する。
- 2) 東洋医学理論を通して現代医学に応用できる広い分析視野と思考形態を習得する。

到達目標

1. 東洋医学の基礎理論を説明できる。(整体観、弁証論治、陰陽論、五行説)
2. 東洋医学の生理観と現象把握手段を説明できる。(気血津液、蔵象、経絡、八綱、四診)
3. 東洋医学の病態観、治療概念、生薬作用、処方概念の総論が説明できる。
(病因病機 [特に内因外因、邪正闘争]、治療原則、処方の構成と薬性理論、製剤の実際)
5. 東洋医学と西洋医学の基本的相違点および両者の統合を説明できる

○授業の概要

本学学生が我が国の東洋医学を学ぶことによって、臨床面で役立つばかりでなく、各々の専門の枠だけにとらわれない広い視野を養い、国際人として活躍していく素地を形成していく上において大きく寄与する。また、東洋医学的視野を持つことは西洋医学の理解をも深いものとするであろう。

○授業のキーワード

東洋医学、漢方、和漢、中医学、中医基礎理論、整体観、弁証論治、陰陽、五行、気血津液、蔵象(五臓)、八綱、四診、標・本、病因病機、治則、方剤学、君臣佐使、生薬、四気五味、方剤と治法、方剤の組成

○教科書・参考書

教科書 「標準東洋医学」 金原出版 仙頭正四郎著

参考書 ●基礎理論の理解に

「中医学入門」神戸中医学研究会編著 医歯薬出版

「中医学の基礎」平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望監修、東洋学術出版社

●一般向けの平易な内容で東洋医学理論を理解する

「東洋医学－『人を診る』中国医学のしくみ」仙頭正四郎著 新星出版社

「読体術：体質判別・養生編」仙頭正四郎著 農文協

●臨床的な治療内容を含む内容

「入門漢方医学」 日本東洋医学会学術教育委員会 編集 南江堂

「症例から学ぶ和漢診療学2版」 寺澤 捷年著 医学書院

●基礎理論理解の助けになるが入手しにくい

「改訂・中医学基礎」上海中医学院編 神戸中医学研究会訳 燎原

「簡明 漢方医学」 三重大学 東洋医学研究会

○他科目との関連

東洋医学は西洋医学に匹敵する独立した一つの医学体系である。本講義の目的は、漢方治療の専門家育成や反西洋医学としての東洋医学を学ぶことではなく、東西両医学の役目をきちんと理解し、将来の臨床の場において疾患に応じた適切な対応ができる視点を育てることにある。東洋医学理論を理解することにより一辺倒の見方ではない視野の広い医学視点を育てる契機とすることは、他科の学習においても大いに役立つものと期待される。

○成績評価の方法

出席及び筆答試験の結果で判定（レポートに替えることもある）

○受講上の注意

今まで学んできた概念を根底から見直す意気込みで臨んで下さい。

短時間で詳細な新概念を詳述することには限界があるので、講義内容の理解のためには上記教科書もしくは参考書による事前および事後の独習が不可欠です。

平成22年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		東 洋 医 学 (基 礎)			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/21	水	8:50～10:10	基礎概念（陰陽論、五行説、八綱弁証）	別府正志	講義室2 I 期棟2階
5/19	水	8:50～10:10	総論：感冒が葛根湯でなぜ治る（煎液実演・病態、治療の考え方）	（仙頭正四郎）	〃
6/2	水	8:50～10:10	生理概念（気血津液の生成と運行・五臓概念）	（仙頭正四郎）	〃
6/16	水	8:50～10:10	病態観、治療原則（素因誘因・外因内因・標治本治）	別府正志	〃
6/23	水	8:50～10:10	体のとらえ方（四診）	（仙頭正四郎）	〃
6/30	水	8:50～10:10	薬の考え方と方剤・生薬（君臣佐使・四気五味）	〃	〃
7/5	月	8:50～10:10	東洋医学(基礎) 試験		

授 業 概 要

(第 4 学年)

○教育目的・到達目標

本学が掲げる教育理念・目的（「幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観を持ち、自ら問題を提起し解決する姿勢に富み、医学のフロンティアを切り開く創造能力があり、地球的規模で働く国際人としての意識を持つ医師・医学研究者の育成」）のためには、以下に挙げる資質が不可欠である。

- ・ グローバルスタンダードに沿った医療を提供する
- ・ 基礎・臨床研究を行い、情報を世界に向けて発信する
- ・ 国際舞台で意見交換を行い、生命科学の発展に貢献する

これら資質の獲得のためには、医学知識の習得に加え、以下の能力の習得が必要である。

- 1) 英語による医学情報（論文やデータベース）を読む能力
- 2) 英語により情報発信を行い、また国際舞台で議論する能力
- 3) 臨床問題解決における、病歴・身体所見を重視した米国式アプローチを実践する能力

したがって医学英語ⅠおよびⅡにおいては、これら3つの能力の習得を到達目標に掲げ、それらに対する学生による必要性の認識、および自己主導的学習をサポートするための学習機会を提供する。

○授業の内容

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医学知識習得ステージに合わせた学習スケジュールを組み、オンライン教材も利用し、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医学知識・臨床技能習得ステージに合わせたトピック・論点を選定し、2から4人ずつの小グループにて議論を行う。毎回Native speaker(s)を講師兼Moderator/facilitatorとして配備する。トピック・論点の選定や議論内容は、以下の通りである。

【医学英語Ⅰ】

第1/2学年：新聞・雑誌などの、「健康・医学」関連トピック記事

【医学英語Ⅱ】

第3学年：主に倫理的問題を中心とした症例検討

第4学年：臨床問題解決における米国式アプローチ習得およびEBM（Evidence-based medicine）概念理解/実践も兼ねた症例検討

○教科書・参考書

- ・医学関連英語語彙・フレーズの習得に関しては、配布資料または教科書（別途指定）を用いる。
- ・Small group discussionに関しては、毎回資料を配布する。
- ・医学英語Ⅱ第4学年においてはEBM参考書（別途指定）を用いる。

○成績評価の方法

【医学英語Ⅰ】

第2学年末に試験を行う。形式は個別の口答試問とする。最終成績は、Small group discussionへの参加（50%）、Vocabulary quiz成績（20%）、そして期末試験成績（30%）に基づき判定される。

【医学英語Ⅱ】

第4学年中間に試験を行う。形式は筆答試験を予定している。最終成績は、Small group discussionへの参加/Group work提出資料（60%）、Vocabulary quiz成績（20%）、そして期末試験成績（20%）に基づき判定される。

○受講上の注意

3分の2以上出席していないものは筆答試験の期末試験受験資格を欠く。したがって欠席の場合には必ず届け出ること。遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。

Small group discussionに際しては、あらかじめ配布された資料を必ず事前に読み、自分自身の意見をまとめ、当日グループメンバーに対して発表し、議論に参加できるよう、十分準備しておくこと。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		医 学 英 語 II			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/30	金	14:10～15:30	TBA	高田和生	臨床講堂1 医科新棟地下1階
5/14	金	14:10～15:30	TBA	〃	〃
5/28	金	14:10～15:30	TBA	〃	〃
6/18	金	14:10～15:30	TBA	〃	〃
6/25	金	14:10～15:30	TBA	〃	〃
7/1	木	14:10～15:30	TBA	〃	〃
7/9	金	14:10～15:30	TBA	〃	〃
7/16	金	14:10～15:30	TBA	〃	〃
7/23	金	14:10～15:30	医学英語試験		

○教育目的

病理学とは広義にはヒトの病気の理論のことであり、病気の原因、進行、転帰について、主として細胞・組織・臓器の形態的な面から追求する分野である。病理学実習では、個々の臓器における代表的疾患の組織像を観察し、その病気の実態を学ぶ。

○授業の概要

準備された実習書に従い、各症例の標本を顕微鏡にて観察する。

○授業のキーワード

遺伝子異常、細胞障害、循環障害、代謝障害、炎症、免疫病理、腫瘍

○教科書・参考書

- (1) 標準病理学 医学書院
- (2) ロビンス基礎病理学 廣川書店
- (3) 組織病理学アトラス 文光堂
- (4) 病理学（総論、各論）文光堂
- (5) 現代の病理学（総論、各論）金原出版
- (6) 外科病理学 文光堂

○他科目との関連

病理学はヒトの正常形態、機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学と臨床医学と強く関連している。病理学はいわばそれらの間の学際的分野である。

○成績評価の方法

筆記試験を実施する。

○受講上の注意

病理学はヒトの病的なことの理論であるから、当然のことながら正常状態を基盤としている。そうであるが故に顕微鏡で観察する際には、組織学の知識は必要不可欠である。十分な復習をするか、実習に組織学の教材も持参することをお勧めする。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		病 理 学 実 習			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/27	火	12:40～17:00	症例を用いた実習	病理教員	医歯学総合研究棟 4階 組織実習室
5/11	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
5/12	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
5/18	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
5/19	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
5/25	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
5/26	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
6/8	火	12:40～15:30	〃	〃	〃
6/9	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
6/15	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
6/16	水	8:50～17:00	〃	〃	〃
6/22	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
※ 各実習内容の詳細は実習初日に説明します					

○教育目標

臨床神経科学は基礎神経科学に引き続き、脳、脊髄、末梢神経、筋を含む広義の神経系の疾患あるいは病態を扱う学問である。ただし、今回のプログラムでは精神医学は別のコースになっており主に脳神経内科学と脳神経外科学からなる。

このような神経系の広がり、その機能の多様さから、出現する神経症状・徴候は非常に多彩であり、扱う疾患も認知症などの高次機能疾患から筋ジストロフィーなどの筋疾患まで、外傷などの急性疾患から良性腫瘍などの慢性疾患まで、脳卒中などの頻度の高い疾患から神経変性疾患などのまれな疾患まで、良く治るてんかんや頭痛などから難治性のプリオン病などまで実に広汎である。

しかしながら、1) 主な神経症状・徴候とその発現機序を理解し、2) 主な神経疾患の発症機序・診断・治療・予防などの基本を理解すれば、その概要の学習は難しくはない。本コースでは、この1)、2) とともに3) 神経学的診察の基本を理解することを目標とする。

○授業の概要

授業は教員による講義の他、学生が数名でグループを作り実際の症例を担当し自ら授業を行う臨床講義の形式もある。いずれにしても、学生自身の自主的・積極的な参加が前提となっている。

本コースは単独で存在しているわけではなく、すでに学習した神経科学（基礎）、これから学ぶプレクレーションおよび外来臨床実習を含むクリニカルプレクレーションという一連の授業の一つであり、卒業時には主な神経疾患に対する基本的臨床能力を修得していることを目指している。すなわち、主要な神経疾患の病態を把握し、適切な診断、内科的・外科的治療を行うことができるようにする。同時に、新しい病態に直面してもその病変の性質や病巣の局在を確定し、最適な治療法を決定する方法を学ぶ。この過程で、病める患者の幸福の実現のために医学を通して助力するという医療の本質をよく理解し実践することを学ぶ。

○授業のキーワード

神経学、(脳) 神経内科、脳神経外科、機能脳神経外科、手術、画像診断、単純X線写真、血管造影、脊髄造影、CT、MRI、MRA、機能MRI、SPECT、PET、脳磁図、脳波、誘発電位、筋電図、神経伝導速度、脳脊髄液、頭蓋内圧、脳浮腫、脳ヘルニア、脳循環代謝、高次脳機能、意識障害、グラスゴー昏睡尺度 (GCS)、日本昏睡尺度 (JCS)、昏睡、脳死、頭部外傷、頭蓋骨折、頭蓋内血腫、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、血栓、塞栓、ラクナ、もやもや病、水頭症、先天奇形、脳腫瘍、脊髄腫瘍、脊椎・脊髄外科、てんかん、頭痛、神経痛、髄膜炎、脳炎、多発性硬化症、Alzheimer病、Parkinson病、筋萎縮側索硬化症、脊髄小脳変性症、痙性対麻痺、Charcot-Marie-Tooth病、Guillain-Barré症候群、重症筋無力症、多発筋炎、筋ジストロフィー症、起立性低血圧、神経因性膀胱、傍腫瘍性神経症候群

○教科書・参考書

書名	著者名	発行所名
神経内科学書	豊倉康夫編	朝倉書店、2004
神経内科ハンドブック	水野美邦編	医学書院、2006
臨床神経内科、5版	平山恵三編	南山堂、2006
神経・筋疾患のとりえ方	水澤英洋編	文光堂、2001
ベッドサイドの神経の診方、16版	田崎義昭他編	南山堂、2004
医学生・研修医のための神経内科学	神田 隆	中外医学社、2008
Merritt's Neurology, 11th ed.	Rowland	Lippincott、2005
標準脳神経外科学	山浦 晶編	医学書院、2002
脳神経外科学	太田富雄・松谷雅生編	金芳堂、2004
医学生のための脳神経外科学必修講義	松谷雅生	メジカルビュー社、2004
ニュースタンダード脳神経外科学	生塩之敬編	三輪書店、2003
脳神経外科周術期管理の全て	松谷雅生・田村 晃編	メジカルビュー社、2004
脳神経外科疾患の手術と適応 I、II	阿部 弘ほか編	朝倉書店、1989
脳腫瘍、その病理と臨床	佐野圭司	医学書院、1981
Youmans Neurological Surgery, Vol.1-4	Winn H.R. 編	Saunders、2003
Neurosurgery, Vol. 1-3	Wilkins R.H. & Regachary S.S	McGraw-Hill、1996
Cranial Neuroimaging and Clinical Neuroanatomy	Kretschmann H.J. & Weinrich W.	Thieme、1992
The Ciba Collection of Medical Illustrations	Netter F.H.	CIBA、1983

○他科目との関連

前述のように神経系の分布と機能の広汎性・重要性から、臨床神経科学すなわち神経内科学、脳神経外科学は、精神医学および内科学や外科学の他の臨床分野と緊密な関係を有するとともに、解剖学、病理学、生理学、薬理学、分子生物学、分子遺伝学などの各基礎医学、社会医学や福祉とも密接に関連している。とくに、神経解剖学、神経生理学、神経薬理学から神経心理学や認知科学に至るまでの広汎な基礎神経科学の諸分野とはきわめて緊密な相互関係にある。

○成績評価の方法

定期試験による。ただし、講義に際しては、随時、出席、小試験等による評価も行う。

○受講上の注意

授業は、直前の神経科学（基礎）はもとより、すでに終了した科目における知識と技能を習得し、予習してあるものとして行う。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期	神 経 科 学 (臨 床)			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員 講 義 室
4/26	月	14:10～15:30	神経疾患とその特徴	水澤英洋 臨床講堂1 医科新棟地下1階
4/30	金	12:40～14:00	意識障害	大野喜久郎 //
5/7	金	12:40～14:00	神経症状の診察と症候学	横田隆徳 //
5/10	月	14:10～15:30	神経疾患の検査法（画像）	成相 直 //
5/13	木	15:40～17:00	脳血管障害：脳梗塞Ⅰ	白石 淳 //
5/14	金	12:40～14:00	脳血管障害：脳出血Ⅰ 総論	成相 直 //
5/17	月	14:10～15:30	脳血管障害：脳出血Ⅱ くも膜下出血	吉野義一 //
5/17	月	15:40～17:00	パーキンソン病とパーキンソン症候群	水澤英洋 //
5/19	水	8:50～10:10	脳血管障害：外科的アプローチ	大野喜久郎 //
5/21	金	12:40～14:00	頭部外傷のすべて	（富田博樹） //
5/24	月	14:10～15:30	発作性・機能的疾患（てんかん）	前原健寿 //
5/24	月	15:40～17:00	神経疾患の検査法（電気生理）	横田 隆徳 //
5/28	金	12:40～14:00	脱髄性疾患・多発性硬化症とADEM	横田隆徳 //
6/7	月	14:10～15:30	脳・神経系の腫瘍Ⅰ	青柳 傑 //
6/17	木	8:50～10:10	脳・神経系の腫瘍Ⅱ	青柳 傑 //
6/21	月	14:10～15:30	髄膜炎・脳炎	水澤英洋 //
6/21	月	15:40～17:00	Alzheimer病	（道川誠） //
6/28	月	12:40～14:00	A D以外の痴呆性疾	三條伸夫 //
6/29	火	12:40～14:00	脳血管障害：脳梗塞Ⅱ	白石 淳 //
6/30	水	10:20～11:40	Creutzfeldt-Jacob病	（山田正仁） //
7/1	木	8:50～10:10	筋萎縮性側索硬化症と運動ニューロン疾患	水澤英洋 //
7/8	木	8:50～10:10	炎症性筋疾患、傍腫瘍性症候群	山脇正永 //
7/15	木	8:50～10:10	筋疾患	石川欽也 //
7/16	金	12:40～14:00	Guillain-Barre症候群とCIDP	山脇正永 //
7/22	木	8:50～10:10	脊髄小脳変性症	水澤英洋 //
7/23	金	12:40～14:00	不随意運動の病態生理とその治療	横田・前原 //
7/26	月	14:10～15:30	神経変性疾患の病理	（内原俊記） //
7/29	木	8:50～10:10	重症筋無力症と周期性四肢麻痺	石川欽也 //
7/30	金	12:40～14:00	Charcot-Marie-Tooth病と遺伝性末梢神経障害	（神田隆） //
8/30	月	14:10～15:30	内科疾患に伴う神経障害	富満弘之 //
9/2	木	8:50～10:10	代謝・中毒疾患	石橋 哲 //
9/3	金	12:40～14:00	神経疾患のリハビリテーション	（新井雅信） //
9/6	月	12:40～14:00	発作性・機能的疾患（頭痛）	叶内 匡 //
9/6	月	15:40～17:00	失語・失行・失認（神経心理学）	（福井俊哉） //
9/7	火	10:20～11:40		
9/9	木	8:50～10:10	先天性疾患・奇形	成相 直
9/22	水	8:50～10:10	神・神経内科試験	
9/27	月	8:50～10:10	神・脳外科試験	

○教育目的

本講義「消化器病学」では、従来の内科学・外科学に含まれていた消化器系疾患すべてを対象として、日常遭遇する疾患のみならず、希ではあっても臨床的に重要な疾患をも含み、その病因、病態生理、診断や治療に向けた考え方を正しく理解することを目指す。従って、内科学・外科学の他の分野と密接な関係を持ち、また病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学などの他の基礎医学とも関連した包括的な知識・考え方を習得する。

消化器疾患を中心とした、医学的問題解決の実際を学ぶことを通じて、次年度以降のclinical clerkship（臨床実習）に対応しうる総合的な能力を磨き、信頼される医師となるための基礎を形成することを目標とする。

○授業の概要

本講義は従来型の系統講義から独立して、Harvard Medical Schoolのカリキュラムを参考に、新規に創設した講義である。その中では、消化器系疾患に関連した上記の基礎医学・臨床医学の講義の他に、医学生自らが積極的に問題を発見し、それに取り組み、その問題を科学的・論理的に解決してゆく過程を習得するために、集中型カリキュラムを作成した。

カリキュラムは以下の内容から構成される。

1. PBL (Problem Based Learning)
2. Lecture
3. Pathology Laboratory
4. その他のdiscussion型講義

PBLは3週間に3セットのPBLが行われる。詳細は、授業開始前に別途説明する予定であるが、ここでは、一つのシナリオから、学生自ら問題点を抽出し、それをお互いに議論しあい、科学的・理論的にその問題点を解決することによって、消化器系疾患の病因・病態生理を学習することを目的とする。小グループ討論を中心に進行するため、各人の積極的な参加によって、学習効率はより高くなるものと期待する。さらに、PBLの効率をより高めるために、上記2－4に示す各論の講義や討論型講義を組み合わせ、内容を補完しあうように工夫した。

扱う疾患としては消化器系疾患の全てを網羅する。その上で、関連した病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、画像診断学などに関しても含まれている。また、このカリキュラムの構成に当たって、消化器病学に関連する内科学・外科学・病理学の従来型系統講義がなくなるので、この3週間で消化器疾患について効率よく自主学習できるよう、努力されたい。

尚、疾患の診断・治療の実際については、後年のclinical clerkshipでさらに詳しく学習し習得する

ことになる。消化器病学に関連する他の臨床講義（BSLなど）に関しては、内科学及び外科学の項を参照して下さい。

○教科書・参考書

本講義は、PBLを中心としているために、通常の系統講義とは異なり、自主学習が非常に重要なものとなる。下記の図書を参考に利用されたい。

Harrison's Principles of Internal Medicine (McGraw - Hill) 17th (2008/2/29)

内科学（朝倉書店）第9版（2007/09）

内科学書（中山書店）改訂第6版（2002/10）

標準外科学（医学書院）、新臨床外学（医学書院）

Textbook of Gastroenterology(Blackwell Publishers)5th(2008/12)

Clinical Immunology:Principles and Practice(Mosby-Year Book)3rd(200/4)

Schiff's Diseases of the Liver(Lippincott Williams&Wilkins)10th(2006/11)

Sabiston Textbook of Surgery:the biological basis of modern practicsurgical practice(W B Saunders)

その他、関連した解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学で用いられている教科書

ハリソン内科学 第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル（2006/3/10）

○他科目との関連

内科学・外科学同様に、基礎医学、社会医学、臨床医学のほとんど全ての科目と深い関係がある。

○成績評価の方法

出席の有無を確認し、これを総合評価に加える。

3分の2以上の出席がないものは試験の受験資格を欠く。

試験は筆答試験でその成果を問う。

○受講上の注意

前記のように、PBLがこの講義の中心となるので、学生各々が積極的に参加し、討論で決まった課題の自己学習をすること。各々の自己学習の程度によってグループ全体の達成度が左右されるので、各グループで積極的・効率的な学習が達成できるよう期待します。学習の方法については、PBLチューターに確認すること。

欠席の場合は、グループの他の学生にも影響があるので、PBLチューターか講義担当者に予め届け出て許可を得ること。

○教育目的

血球細胞の形態と機能および産生（造血）機構と、止血線溶の調節機構につき理解し、成人および小児の血液疾患の病態、病理、診断、治療等を統合的に学習することによりより深い理解を得ることを目標とする。

○授業の概要

造血臓器や血球細胞の形態や機能を主とした基礎編と、赤血球系・白血球系・止血系の3系統の血液疾患の病態、病理、診断、治療等を統合的に学習する臨床編とからなる。臨床編では、成人と小児の臨床血液病学とを統合的に学習するとともに、小児期の病態の特徴に基づいた診断法や治療法を理解し、代表的な疾患に関しては症例基盤型学習によりより深い理解と問題解決能力の獲得を目指す。

○授業のキーワード

造血、血液形態学、血球機能、貧血、造血器腫瘍、止血線溶機構

○教科書・参考書

小児疾患のとりえ方（文光堂、2003年）

Essential Haematology, 5th ed. (Blackwell Science, 2006)

Clinical Hematology (Mosby-Year Book, 2005)

Wintrobe's Clinical Hematology, 12th ed. (Lippincott, Williams & Wilkins, 2009)

Robbins Pathologic Basis of Disease, 7th ed. Section 12: The hematopoietic and lymphoid systems. (W. B. Saunders, 2003).

○他科目との関連

血液系統講義は、組織学・生理学・病理学・内科学・小児科学の造血組織や血球細胞および止血機構に関わる部分を統合し、総合的な知識と理解を得ることを目標としているが、基礎系では他に生化学・薬理学にて関連した事項が取り扱われるので、これらの十分な復習が受講前に必要である。

○成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。また、一部の講義の際には、小テストを行い理解度を把握する。

○受講上の注意

比較的短時間で血液病学の基礎から臨床までの広範多岐にわたる内容を学習するので、集注して積極的に学習する態度が必要である。質問は講義終了後に個別にするのみでなく、講義中にも積極的に行うこと。臨床講義担当学生は講義2週間前までに担当教員と連絡をとること。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		血 液			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/30	金	15:40～17:00	造血臓器の発生と構造	井上明宏	臨床講堂1 医科新棟地下1階
5/7	金	15:40～17:00	血球細胞の形態と機能	〃	〃
5/12	水	8:50～17:00	血球細胞の生理と機能	水島 昇	〃
5/14	金	15:40～17:00	臨床血液病学総論	三浦 修	〃
5/20	木	10:20～11:40	赤血球系疾患(Ⅰ)	〃	〃
5/21	金	15:40～17:00	赤血球系疾患(Ⅱ)	〃	〃
5/27	木	10:20～11:40	赤血球系疾患(Ⅲ)	〃	〃
5/28	金	15:40～17:00	白血球系疾患(Ⅰ)急性白血病	〃	〃
6/7	月	15:40～17:00	止血異常(Ⅰ)	小山高敏	〃
6/10	木	10:20～11:40	白血球系疾患(Ⅱ)骨髓異形成症候群と骨髓増殖性疾患	三浦 修	〃
6/11	金	15:40～17:00	白血球系疾患(Ⅲ)小児期の白血球異常とその特徴	水谷修紀	〃
6/14	月	15:40～17:00	白血病臨床講義	新井文子	〃
6/17	木	10:20～11:40	血液・悪性リンパ腫の病理	北川昌伸	〃
6/24	木	10:20～11:40	悪性リンパ腫と多発性骨髄腫の臨床	福田哲也	〃
6/25	金	12:40～14:00	悪性リンパ腫臨床講義	〃	〃
7/2	金	12:40～14:00	赤血球系疾患(Ⅳ)小児期に問題となる貧血とその特徴	水谷修紀	〃
7/2	金	14:10～15:30	止血異常(Ⅱ):小児期の止血異常とその特徴	〃	〃
7/5	月	8:50～10:10	血液試験		

○教育目標

医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると、公衆衛生学は典型的な社会医学である。つまり、医学にあって特にその社会性に注目して、健康の仕組み、疾病の成立ち、予防の方法、医療のあり方などを扱う学問である。そこでは、決して単一の視座からのみ事象を解析することなく、多数の視点から様々な方法論を応用して解析し、社会における問題の所在とその構造を明らかにし、組織的な努力によって問題の解決をはかろうとするものである。卒前教育においては、知識・技能・態度(attitude)という三種類のバランスのとれた基礎能力を養うことが一般目標である。なかでも、学生が今後自らの行う医学・医療を人間社会のなかにおいて位置づけ、問題の所在の把握とその解決能力を備えたpublic health mindを獲得することを教育の目的としている。その達成のために、生涯にわたって医師としての専門職に必要な公衆衛生学の基礎能力を養い、能動的な学習態度、知識、方法、制度、人材などさまざまな資源を広く適切に活用することによって、人間の健康に関する問題を現実的に解決に導くための問題解決能力を開発する教育プログラムが用意されている。

○授業の概要

公衆衛生学の教育プログラムは、公衆衛生学講義、公衆衛生学課題研究、公衆衛生学実習、ならびに小グループセミナーからなっている。

一般に公衆衛生学で扱う内容は、以下の項目である。

(Ⅰ.保健医療論) 1.公衆衛生学の歴史、2.健康の概念と認識、3.健康と環境の相互影響、4.健康決定因子、5.人間居住環境、6.国際保健、7.地域保健・地域医療、8.都市保健、9.保健・医療・福祉の連携、10.保健・医療・福祉の制度・行政と資源、11.社会保障制度と医療経済、12.保健・医療・福祉関係法規、(Ⅱ.予防と健康増進) 13.衛生統計・多変量解析、14.疫学、15.ヘルスプロモーション、16.健康教育、17.健康管理、18.生活習慣と健康、19.母子保健、20.成人・老人保健、21.学校保健、22.精神保健、23.産業医学・産業保健、24.環境中毒学、25.環境汚染と健康影響、26.環境保健・地球環境問題、27.食品保健・食生活と健康影響、28.感染症対策

公衆衛生学講義では、これらすべてを扱う時間がないが、医師国家試験における要求や、卒後の研修、また医師としての業務の社会性をふまえるならば、各自の自己学習におうところが大きい。また、課題研究では、これらいずれかの内容に関連する約100にのぼる課題が用意されており、各学生がその中からひとつを選び、より深く掘り下げた発展内容を学習する。

公衆衛生学課題研究(公衆衛生学実習)では、学生が個別に選択した課題に取り組み、資料・文献収集、取材、調査、データ解析を行い、レポートを作成する。小グループセミナーや学外見学・演習では、共通の課題に少人数のグループで取り組む。これらのプログラムにより、公衆衛生学に関わる具体的な諸問題を多角的に考察し認識する能力、「自ら学びとる」能動的な学習能力、科学的に論理を展開する能力を開発し、自らの見解を聴衆にわかりやすく伝達する技能を養成する。

○授業のキーワード

健康の概念；環境と健康；社会環境の変動と国民の生活；疾病・障害の概念と社会；日本の保健・医療・福祉・介護制度の特徴；保健・医療・福祉・介護の組織と連携；国と地方公共団体；保健所；地方衛生研究所；市町村保健センター；高齢化・少子化社会・障害児（者）への対応；健やか親子21；在宅ケア；地域保健・地域医療と医師の役割；医療計画（地域保健医療計画）；地域連携クリティカルパス；プライマリヘルスケア；Alma Ata宣言；健康増進；ヘルスプロモーション；健康日本21；救急医療；災害医療；へき地医療；保健・医療・福祉・介護従事者；社会保障の概念；医療保険と公費医療；医療経済；世界の保健・医療問題；国際保健・国際協力；世界保健機関（WHO）；地域保健法；健康増進法；母子保健法；高齢者医療確保法；精神保健福祉法；感染症法；検疫法；予防接種法；食品衛生法；学校保健法；労働基準法；労働安全衛生法；じん肺法；環境基本法；健康保険法；国民健康保険法；老人福祉法；障害者基本法；介護保険法；コミュニティヘルス；予防医学；一次予防；二次予防；三次予防；健康教育・学習；健康診断・診査；特定健康診査・特定保健指導；健康管理；母性保護；家族計画；母子健康手帳；療育・育成医療；生活習慣病；地域精神保健活動；精神保健福祉センター；精神障害者の社会復帰施設；新興再興感染症；国民の栄養の現状と対策；食品の安全性と機能性；学校医；学校伝染病；学校精神保健；学校安全教育・安全管理；業務上疾病；産業医；健康管理；作業環境管理；作業管理；許容濃度と管理濃度；生物学的モニタリング；労働災害；トータルヘルスプロモーションプラン（THP）；労働安全衛生マネジメントシステム；過重労働対策；環境汚染；公害

○教科書・参考書

- (1) Wallace R. Public Health and Preventive Medicine (15th ed). McGraw-Hill Medical, 2007.
- (2) Detels R, McEwen J, et al.: Oxford Textbook of Public Health (4th ed). Oxford University Press, 2004. (Ovid-eBooksにて閲覧可)
- (3) Pikett G and Hanlon JJ : Public Health Administration and Practice (9th ed). Mosby Co., 1989.
- (4) Roemer MI: National Health Systems of the World. Vol.I & II. Oxford University Press, 1993.
- (5) Takano T. Healthy Cities and Urban Policy Research. Spon Press, 2003.
- (6) 高野健人, 河原和夫, 他 (編) : 社会医学事典. 朝倉書店、2002.
- (7) 厚生統計協会 (編) : 国民衛生の動向 (厚生の指標増刊号). 厚生統計協会、各年8月下旬発行.
- (8) 厚生労働省 (編) : 厚生労働白書. ぎょうせい、各年発行.
- (9) 日本疫学会 (編) : 疫学—基礎から学ぶために. 南江堂、1996.
- (10) Porta M: Dictionary of Epidemiology (5th ed). Oxford University Press, 2008.

○他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「社会医学」の他、系統講義「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

○成績評価の方法

公衆衛生学の基礎的な知識を獲得しているかどうかの評価だけではなく、問題の所在の把握ならびに問題解決に必要な基礎的な技能を身につけているか、公衆衛生学に取り組む態度（attitude）、自ら積極的にpublic health mindをもって課題に取り組んだかどうかについて評価を行い、これらを総合して最終評価とする。具体的には、基礎的な知識の獲得の評価は最終筆記試験の結果により行う。技能の獲得の評価は、公衆衛生学課題研究のレポート、発表ならびに最終筆記試験の結果により行う。態度の評価は、講義・小グループセミナー・公衆衛生学実習への参加態度ならびに公衆衛生学課題研究への取り組みの姿勢をもって行う。最終筆記試験は、共用試験（CBT）および医師国家試験に準じた多肢選択式問題と、問題の把握から解決までの理論的思考を問う論述問題とする。

○受講上の注意

「医師は、医療及び保健指導を掌ることによつて公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。」これは、医師法の第1章、第1条に定められており、医師となるには、「公衆衛生の向上及び増進」について十分な知識と技能を備え、そして公衆衛生について深い見識が求められる。

そのため、同法第9条に、「医師国家試験では、臨床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能について試験を行う」ことが定められている。また、医師国家試験の受験資格において「公衆衛生に関する実地修練」が必須とされており、医師の資格を得るために公衆衛生は必須の科目である。

公衆衛生学の教育プログラムにあつては、講義の内容をふまえて、課題研究、実習、小グループセミナーに、自主性と新鮮な問題意識を持って参加することが求められる。特に、課題研究には各自の主体的な取り組みの姿勢があつて初めて、公衆衛生学の技能・態度が養われる。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につけてほしい。

○その他

- (1) 本科目は四大学連合・複合領域コース（海外協力コース、生活空間研究コース、医療・介護・経済コース）の授業科目である。
- (2) 講義等についての詳細は、大学院医歯学総合研究科健康推進医学ホームページ（<http://www.tmd.ac.jp/med/hlth/depHP/index.html>）を参照すること。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		公 衆 衛 生 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/26	月	15:40～17:00	公衆衛生学総論	高野健人	臨床講堂1 医科新棟地下1階
4/30	金	10:20～11:40	疫学・臨床疫学	〃	〃
5/6	木	15:40～17:00	地域保健	〃	〃
5/7	金	10:20～11:40	衛生行政の実際	〃	〃
5/10	月	15:40～17:00	健康増進政策の立案と評価	河原和夫	〃
5/13	木	8:50～10:10	産業保健・産業医学と産業医	高野健人	〃
5/14	金	10:20～11:40	母子保健・学校保健	中村桂子	〃
6/7	月	8:50～10:10	公衆衛生学試験		

4 学 年 前 期		公衆衛生学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/31	月	8:50～11:40	公衆衛生学実習(予防と健康管理・増進)	高野健人, 他	実習室
5/31	月	12:40～17:00	〃	〃	〃
6/1	火	8:50～11:40	公衆衛生学実習(社会保障制度と医療経済)	〃	〃
6/1	火	12:40～17:00	〃	〃	〃
6/2	水	8:50～11:40	公衆衛生学実習(保健・医療・福祉・介護の仕組み・法規・資源)	〃	〃
6/2	水	12:40～17:00	〃	〃	〃
6/3	木	8:50～11:40	公衆衛生学実習(地域保健・地域医療)	〃	〃
6/3	木	12:40～17:00	〃	〃	〃
6/4	金	8:50～11:40	公衆衛生学実習(国際保健・環境保健)	〃	〃
6/4	金	12:40～17:00	〃	〃	〃

○教育目標

社会全体の高齢化を反映して、一部の科を除けば、高齢者が患者のかなりの部分を占めている。将来どのような専門を専攻するにしても、加齢にともなう身体・精神諸機能の変化や、高齢者の疾病の特徴を理解しておくことは重要である。本コースの到達目標は、高齢者の診療にあたって留意すべき事項の概要を理解することである。

○授業の概要

総論で高齢者の疾病の特徴、老年症候群などを学習したのち、実際の症例の分析を行いながら高齢者の診療上問題となる事項を学習する。

○授業のキーワード

総合医療、チーム医療、加齢に伴う身体・精神の変化、高齢者の疾病の特徴、老年症候群、CGA、生活習慣病、動脈硬化

○教科書・参考書

- (1) 日本老年医学会編 改訂版 老年医学テキスト メジカルビュー社 (2008年改訂版)
- (2) Kane RL, Ouslander JC, Abrass IB “Essential of Clinical Geriatrics 4thed” McGraw Hill (1994)
- (3) Ham RJ, Sloane PD et.al. “Primary Care Geriatrics” 5thed (2007)

○他科目との関連

老年病は内科の一分野であり、内科各科のすべての知識を基礎に成り立っている。また整形外科、精神科、歯科、看護、社会福祉、リハビリテーションなど幅広い医療専門職とチームを組んで診療にあたることが多いので、これまで学んだ各分野の知識や常識を動員して総合する作業が必要である。

○成績評価の方法

出席、レポート提出、試験

○受講上の注意

老化に伴う生理的变化、老化の生物学等を学習する。系別総合講義とあわせて、老年病学の枠組みを理解できるように計画されている。知識伝達型の講義ではないので、教科書を読んで知識を習得することが前提となっている。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		老 年 病 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
8/31	火	14:10～15:30	高齢者疾患の特徴(1)	下門顕太郎	臨床講堂1 医科新棟地下1階
9/1	水	14:10～15:30	〃 (2)	〃	〃
9/3	金	14:10～15:30	高齢者の心疾患	金子英司	〃
9/7	火	14:10～15:30	高齢者の栄養代謝	川上明夫	〃
9/8	水	14:10～15:30	ケーススタディ(1)	金子英司	〃
9/10	金	14:10～15:30	〃 (2)	下門顕太郎	〃
9/29	水	8:50～10:10	老年病学試験		

○教育目的

人間は身体的、心理的、そして社会的な存在であり、それらが健全な平衡状態にある時が健康であるといえる。精神医学は心理的な部分に重点をおきながら身体的、社会的存在としての人間の病態を対象とする学問である。そのため、精神医学は臨床医学全般の基礎をなすと同時に社会精神医学、司法精神医学、精神保健学までも含む幅広い学問であるといえる。医学における神経精神医学に関しての教育目標として、精神の病的状態の原因、症状、経過、予後についての学習を通して、病める人間としての患者を全体的にとらえ理解することを目標とする。さらに、治療場においては心理学的、社会学的、生物学的な手法が駆使されることを学び、体験することを目標とする。

○授業の概要

- 1) 系統講義では、精神疾患の分類、症候論について総論的にふれてから、心因性、内因性、外因性の各疾患に関する各論へと展開していく。精神症状ないし精神疾患がもつ独自性を認識し、同時にそれをメディカルに把握するための基本を学ぶ。
- 2) 臨床講義では、毎回、教官の指導のもとにプラクティカントが症例を提示し、具体的な症状・経過に基づいて、診断および治療に関する討論をおこなう。なお、司法精神医学や児童精神医学など、各種関連領域についての特別講義がこの時期に繰り込まれ、幅広い知識を身につけるよう促す。
- 3) 臨床実習では、学生1人が1人の入院患者を受け持ち、わからないところは自分で調べながら、患者主治医や教官の指導を受ける。ポリクリはA、B 2班に別れ、一方が該当しているとき他方は病棟患者診療に従事し、双方とも患者にできる限り接するようにつとめる。クルズスは臨床脳波、薬物療法、精神療法についておこない、神経科・精神科における検査と治療の実際を学ぶ。各自受け持った入院患者について、創意をおりこんだレポートを作成し、「総括討論」のときに提出する。

○授業のキーワード

統合失調症、気分（感情）障害、神経症性障害、てんかん、脳波、ストレス関連障害、身体表現性障害、人格障害、精神遅滞、薬物乱用および依存、小児の行動および情緒の障害、アルコール依存症、痴呆、症状性精神病、リエゾン精神医学、司法精神医学、精神科救急、精神障害者の社会復帰、向精神薬、精神療法、画像解析、心理検査法

○教科書・参考書

書 名	著 者 名	発行所名	発行年
ICD-10、精神および行動の障害、臨床記述と診断ガイドライン（新訂版）	融 道男、中根允文、 小見山実 訳	医学書院	2005年11月

DSM-IV-TR、精神療法の分類と診断の手引き-新訂版-	高橋三郎、大野 裕、 染矢俊幸 訳	医学書院	2003年8月
Kaplan & Sadock's Comprehensive Textbook of Psychiatry (図書館電子図書)	Benjamin J. Sadock, Virginia A. Sadock 編	Lippincott Williams & Wilkins	2005年
カプラン、臨床精神医学ハンドブック、第3版	融 道男、岩脇 淳 監訳	メディカル・サイエンス・ インターナショナル	2007年9月
臨床現代精神医学 (第11版)	大熊輝雄 著	金原出版	2008年1月
標準精神医学 (第4版)	野村総一郎、樋口輝彦、 尾崎紀夫 編	医学書院	2009年3月
向精神薬マニュアル	融 道男 著	医学書院	2008年9月
Principles & Practice of Psychopharmacotherapy (図書館電子図書)	Frank J. Ayd Jr. ほか 編	Lippincott Williams & Wilkins	2006年
Lewis' s Child and Adolescent Psychiatry: A Comprehensive Textbook (図書館電子図書)	André Martin, Fred R. Volkmar 編	Lippincott Williams & Wilkins	2007年
ポケット臨床脳波	福沢 等 著	日本医事新報社	2005年2月
新版 精神医学事典	加藤正明ほか 編	弘文堂	1993年1月

○他科目との関連

近時メディカル精神医学として、精神障害者の身体疾患を精神科で取り扱う動きもあり、その意味では各科の身体医学と関連をもつ。最もよく遭遇するのは、コンサルテーション・リエゾン精神医学の領域で、各科の身体疾患に伴って生じる精神症状に対する対応である。臨床的には神経学、脳神経外科学と隣接しており、基礎医学領域では薬理学、生化学、生理学が臨床応用だけではなく、診断、治療上関連深い分野である。

○成績評価の方法

系統講義および臨床講義については、講義終了後に行われる試験で評価する。クリニカルクラークシップの成績は卒業試験に加え採点する。

○受講上の注意

精神疾患は他の身体疾患に比べ、最初はとりつきにくいと感じるかもしれない。しかし、患者の全体像を把握し、精神心理学的に面接することは、すべての身体医学にとっても必要なことで、臨床医学の基本といってもよい。実習では、患者との対話の初めから治療が始まることを理解し、患者に信頼感をもたせるためにどのように面接したらよいか、などを学んでほしい。身体疾患に基づく精神症状の知識について充分学び、身体所見の検索も怠ってはならない。患者のプライバシーについては厳重に保護しなければならない。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		神 経 精 神 医 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/26	月	10:20 ～11:40	精神医学総論・精神医学的診断学	西川 徹	臨床講堂1 医科新棟地下1階
5/10	月	10:20 ～11:40	統合失調症	西川 徹	〃
5/17	月	10:20 ～11:40	パーソナリティ障害	(中谷陽二)	〃
5/24	月	8:50 ～10:10	小児・青年期精神障害	(山田佐登留)	〃
5/24	月	10:20 ～11:40	神経症障害	大島一成	〃
6/7	月	10:20 ～11:40	気分障害	車地暁生	〃
6/7	月	12:40 ～14:00	てんかん	西多昌規	〃
6/11	金	12:40 ～14:00	司法精神医学	(吉川和男)	〃
6/14	月	10:20 ～11:40	老年期精神障害	(石束嘉和)	〃
6/14	月	12:40 ～14:00	器質性精神障害・リエゾン精神医学	竹内 崇	〃
6/21	月	10:20 ～11:40	アルコール関連問題・薬物依存	山本直樹	〃
6/28	月	10:20 ～11:40	精神症状論	(花村誠一)	〃
7/5	月	10:20 ～11:40	臨床講義・統合失調症	西多昌規	〃
7/9	金	8:50 ～10:10	臨床講義・気分障害	行実知昭	〃
7/12	月	10:20 ～11:40	臨床講義・不安障害	熱田英範	〃
7/20	火	8:50 ～10:10	精神・心療試験		

○教育目標

外科的諸疾患についての考え方、診断と外科的治療の基本原則の理解をはかる。そのために外科学の歴史、病因論、病態論、診断法、手術適応、手術術式、周術期患者の管理法、救急処置法などが授業内容の主なものである。

また、最近いわれている医の倫理、インフォームドコンセント、QOLについても外科の立場でふれることになる。

○授業の概要

1) 外科学総論

項 目	内 容
外科の歴史	
外科診断学	病歴、診察、各種画像診断
手 術	手術器具、滅菌、消毒、手術の基本手技
損 傷	創傷治癒、熱傷、その他の損傷
感 染	炎症、外科的感染症
手術患者の管理	出血と止血、凝固線溶系、DIC、輸液、輸血、栄養管理、ショック
臓器移植	移植の現況、免疫、人工臓器

2) 外科学各論（系別講義の腫瘍学との重複をさける）

項 目	内 容
顔面、頸部	検査法、気管切開、奇形
乳腺疾患	
脈管疾患	動脈瘤、閉塞、静脈瘤、リンパ浮腫
唾液腺疾患	
食道疾患	
横隔膜疾患	
消化器疾患の症候学	（内科と重複しないように外科の立場から）
消化器疾患の検査法	（内科と重複しないように外科の立場から）
腹壁・腹膜の疾患	
胃十二指腸の疾患	
小腸の疾患	
虫垂の疾患	
結腸直腸の疾患	
肛門の疾患	
イレウス	

肝・胆・膵・脾の疾患

後腹膜の疾患

後腹膜腫瘍、副腎疾患

小児外科

手術前後の管理、先天性異常、腫瘍、異物

3) 担当教官名は別紙スケジュール表に示す。

○授業のキーワード

食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌、良性腫瘍、アカラシア、逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎、消化管憩室症、胆石症、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、乳癌、甲状腺癌、上皮小体腫瘍、虫垂炎、ヘルニア、痔疾、臓器移植

○教科書・参考書

標準外科学（医学書院）

新臨床外科学（医学書院）

外科学（へるす出版）

図説外科学（南山堂）

NEW外科学（南江堂）

臨床外科学3 消化器外科学（朝倉書店）

Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice. 14th ed. Subiston, D.C.Jr. Saunders, U.S.A.

Principles of Surgery. 5th ed. Schwartz, S.I. et al. McGraw-Hill, U.S.A.

○他科目との関連

消化器疾患は病態、治療など内科学との深い関係を持つ。直腸疾患では泌尿器科、婦人科との関連が深い。血管の疾患では循環器内科および泌尿器科との関連が深い。

○成績評価の方法

定時的な試験による（第4学年前期）

○受講上の注意

受講後には教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通し、一応その日の受講項目はその日のうちにある程度のところまで理解しておくことが望ましい。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		外 科 学		授 業 内 容	担当教員	講 義 室
年月日	曜日	授業時間				
4/27	火	8:50～10:10	休講			臨床講堂1 医科新棟地下1階
4/28	水	8:50～10:10	インフォームド・コンセント、外科診断学・症候学	杉原健一		〃
5/6	木	8:50～10:10	血管外科	井上芳徳		〃
5/7	金	14:10～15:30	ヘルニア・腹壁・腹膜	(中嶋 昭)		〃
5/11	火	8:50～10:10	食道	河野辰幸		〃
5/18	火	8:50～10:10	化学療法	植竹宏之		〃
5/19	水	10:20～11:40	乳腺	佐藤隆宣		〃
5/20	木	8:50～10:10	小児外科	(大谷俊樹)		〃
5/21	金	14:10～15:30	栄養・代謝	永井 艦		〃
5/25	火	8:50～10:10	肝胆膵(1)	田中真二		〃
5/26	水	10:20～11:40	肝胆膵(2)	有井滋樹		〃
5/27	木	8:50～10:10	炎症・侵襲・熱傷	(遠藤健)		〃
6/8	火	8:50～10:10	胃・十二指腸	小嶋一幸		〃
6/10	木	8:50～10:10	遺伝子・分子生物学	飯田聡		〃
6/14	月	8:50～10:10	外科学試験			

○教育目的

この講義内容は医学部学生が卒業時点において、当然知っていなければならない整形外科的診断手技、疾患、治療法を記載した。整形外科的疾患の病態を大別して、1) 外傷性疾患（スポーツ外傷を含む）、2) 炎症（感染性、リウマチ、痛風）、3) 骨・関節の変性疾患、4) 骨・軟部腫瘍、5) 骨系統疾患・先天異常、6) 代謝性骨疾患、7) 神経・筋疾患、8) その他に分類したが、稀有な疾患に対する特殊な知識を与えるよりも、日常しばしば経験する疾患に主眼をおいた。故にここにあげられる各種の疾患は卒業時点において覚えておく必要のある最小限度のものと考えてよい。

教育方針

- 1) 整形外科で扱う疾患を部位別に分けると脊椎（頸・胸・腰椎）、上肢（肩・肘・手）及び下肢（股・膝・足）となり、それぞれに専門家がおり、得意の領域の講義を分担する。系統講義においては総論、各論の区別を行わない。
- 2) 整形外科的診察法は、クリニカルクラークシップⅠ、Ⅱ、Ⅲの際に教育する。
- 3) 骨・関節のレントゲン写真及びその他の画像（CT、MRI、関節造影、ミエログラム、超音波、シンチグラム、血管撮影、脊髄誘発電位など）の読影は診断及び治療法決定に重要であり、講義、クリニカルクラークシップⅠ、Ⅱ、Ⅲにおいて随時行う。
- 4) 外科系の講座であり、クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲの際には手術周術期管理に参加させる。
- 5) 臨床講義、クリニカルクラークシップⅠ、Ⅱ、Ⅲにおいては、学生が積極的に参加し、自主的に知識・技術を習得してもらいたい。

○授業の概要

I. 系統講義

- 〔1〕運動器疾患概論および診断学
- 〔2〕外傷学（1）脊椎・末梢神経
 〃 （2）四肢・スポーツ外傷
- 〔3〕骨軟部腫瘍
- 〔4〕骨関節の炎症
- 〔5〕骨の遺伝性、代謝性疾患（骨系統疾患、骨粗鬆症、骨軟化症）
- 〔6〕上肢疾患
- 〔7〕脊椎疾患
- 〔8〕下肢疾患
- 〔9〕リハビリテーション
- 〔10〕再生医療と生体材料

II. 臨床講義入院中の患者を主に供覧する。下記の疾患より適当な症例を選び講義する。

- 〔1〕頸椎症性脊髄症（後縦靱帯骨化症を含める）
- 〔2〕腰椎々間板ヘルニア（脊柱管狭窄症を含める）
- 〔3〕脊髄腫瘍、側弯症
- 〔4〕骨・軟部悪性腫瘍
- 〔5〕変形性関節症（股関節、膝関節）
- 〔6〕関節外傷（膝関節、肩関節）
- 〔7〕骨・関節骨折
- 〔8〕手の外傷（神経・筋・血管損傷を含む）

○授業のキーワード

総合医療、チーム医療、加齢に伴う身体・精神の変化、高齢者の疾病の特徴、老年症候群、CGA、生活習慣病、動脈硬化

○教科書・参考書

- （1）辻陽雄・高橋栄明編：整形外科診断学第3版 1999（購入推薦）
- （2）山内、真角、辻、桜井編：今日の整形外科治療指針 5版 医学書院 2004
- （3）天児編集：神中整形外科学 総論・各論 22版 南山堂 2004
- （4）広畑、寺山、辻編：標準整形外科学第9版 医学書院（購入推薦）2005
- （5）津山直一監修：整形外科クルズス 4版 南江堂 2003
- （6）東、生田、井上、富田、林編：新版 整形外科学・外傷学（改版中）

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期	整 形 外 科 学				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/20	木	15:40～17:00	運動器疾患の現状と将来	四宮謙一	臨床講堂1 医科新棟地下1階
6/8	火	10:20～11:40	外傷学(総論)	宗田 大	〃
6/9	水	8:50～10:10	外傷学(上肢)	若林良明	〃
6/9	水	10:20～11:40	外傷学(下肢)	朱 寧進	〃
6/10	木	15:40～17:00	外傷学(脊椎)	加藤 剛	〃
6/15	火	8:50～10:10	脊椎疾患	大川 淳	〃
6/18	金	15:40～17:00	脊椎疾患	大川 惇	〃
6/23	水	12:40～14:00	代謝性骨疾患	野田正樹・(竹田 秀)	〃
6/24	木	8:50～10:10	関節疾患(上肢)	(中川照彦)	〃
6/29	火	8:50～10:10	関節疾患(下肢)	麻生義則	〃
6/30	水	12:40～14:00	骨軟部腫瘍	阿江啓介	〃
7/1	木	12:40～14:00	再生医学と生体材料	早乙女進一・(植村寿公)	〃
7/6	火	8:50～10:10	臨床講義(脊椎)	川端茂徳	〃
7/8	木	10:20～11:40	リハビリテーション	森田定雄	〃
7/13	火	8:50～10:10	リハビリテーション	〃	〃
7/14	水	12:40～14:00	臨床講義(スポーツ)	柳下和慶	〃
7/26	月	12:40～14:00	臨床講義 (上肢)	若林良明	〃
7/27	火	8:50～10:10	臨床講義(骨軟部腫瘍)	阿江啓介	〃
7/30	金	14:10～15:30	臨床講義(関節)	神野哲也	〃
8/30	月	8:50～10:10	整形外科学試験		

○教育目標

皮膚科学は、皮膚に表現される症状の観察結果を基盤にして、生体の活動を読み取る学問である。そのため、形態学を中心として発展し、ほとんど全ての疾患概念が組み立てられているが、近年の免疫学、生化学、生理学、分子生物学の長足の進歩に伴い、皮膚疾患の病態生理、病因が明かにされ、疾患概念についての修正が加えられ、また、皮膚疾患治療へのアプローチも容易になってきている。

皮膚科学は、疾患の検索において、種々の内科学的手法を駆使する学問であるが、治療においては、外科学的手技をも駆使する学問である。皮膚疾患は、全身状態と深い関わりをもって皮膚に表現されてくるので、皮膚疾患を診る場合には、常に全身的な視野にたって観察することが要求される。

皮膚病変は、病因の如何にかかわらず、皮膚を「発現の場」としているのので、病変を理解するためには、皮膚の解剖学、病理組織学、生理学、生化学、免疫・アレルギー学、分子生物学などの基礎医学の知識を応用したとらえ方が要求される。

4年次では、皮膚科学の基本的事項について学習する。理解を容易にするために、臨床例を中心に、学生主体の討論を行い、皮膚疾患についての基本的知識を習得することを目的とする。加えて、それらの疾患についての最近の知見について解説を行う。皮膚疾患は非常に多数あるので、できるだけ重要な疾患にしぼり、皮膚疾患患者を診察するための考え方を習得することを目的とした授業を行う。授業の範囲からはずれた疾患については、自己学習を行うことが義務づけられていることを忘れないで欲しい。

5年次より開始される臨床実習では、実際の皮膚病変に直接接して考えることを目的としている。外来患者全てが実習の対象となる。初診外来患者の病歴を聴取し、同時に皮膚病変の観察を行う。患者の持つ皮膚疾患の診断、検査の組み立て、病因の追求について学習する。外来では、できるだけ多くの症例を経験し、経験した症例については、そのつど簡単な解説は行われるが、診療後にその症例についての自己学習を行うことが義務付けられている。

病棟入院患者については、患者の副主治医として診療に参加し、診断、検査、治療の実際について学習する。皮膚検査、軟膏処置などを体験する。その際、単に教官から教わるというのではなく、一人の医師として「自ら診、自ら考える」という心構えのもとに、積極的に診療活動に参画することを期待している。また、皮膚疾患を持つ患者は、心の面でも複雑な状況にあることをも考慮し、「如何に患者さんに接するべきか」についても十分に学んで欲しい。

学外病院での実習では、日頃の診療でよく見かけるポピュラーな皮膚疾患について経験を積む。

○授業の概要

- 1 皮膚疾患診断のための基本的知識と技術皮膚の構造と機能、皮疹の種類とその見分け方・考え方、皮膚科検査法（パッチテスト、皮内テスト、皮膚機能検査など）について自己学習する
- 2 蕁麻疹・痒疹・紅皮症蕁麻疹の分類・発症機序・原因検索法、痒疹の種類と原因検索法、紅皮症の種類と紅皮症をきたす基礎疾患について臨床例をもとに学習する

- 3 角化異常による皮膚疾患先天性角化異常症の種類と遺伝子異常、乾癬、類乾癬、扁平苔癬の病態・診断・治療法について臨床例をもとに学習する
- 4 湿疹・皮膚炎群の疾患アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、ビダール苔癬などの湿疹皮膚炎群の疾患とその類症の病態・原因・診断・鑑別診断・検査法・治療について臨床例をもとに学習する
- 5 血流障害・血管炎による皮膚疾患紫斑・潰瘍の形成機序、アナフィラクトイド紫斑、アレルギー性血管炎、結節性多発性動脈炎、全身疾患に伴う血管炎・血流障害の臨床例を中心にして学習する
- 6 膠原病の皮膚症状各種膠原病に出現する皮膚症状の種類とその発現機序、診断における皮膚症状の位置付けなどを臨床例を中心にして学習する
- 7 薬物障害による皮膚症状薬疹・中毒疹の原因薬剤・因子、病型、皮膚症状の発症機序、原因薬物・因子の検索法、治療法について臨床例を中心に学習する
- 8 水疱症先天性表皮水疱症の診断と鑑別診断、遺伝子異常、自己免疫性水疱症の病態、診断と診断法、治療について臨床例をもとに学習する
- 9 母斑・皮膚腫瘍母斑及び母斑症、良性腫瘍、悪性腫瘍の種類、良性と悪性の鑑別法について学習する
- 10 感染症一般細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の種類とその起炎菌、診断のポイントと治療の基本について学習する
- 11 皮膚疾患の見方・考え方皮膚疾患全体を通してどのように観察し、観察結果を診断、治療につなげるかを解説する

○参考図書

- 1 上野賢一著「皮膚科学」金芳堂出版
- 2 池田重雄他監修「標準皮膚科学」医学書院
- 3 西山茂夫著「皮膚病アトラス」文光堂
- 4 清水宏著「あたらしい皮膚科学」中山書店

○さらに詳しく勉強したい時

- 1 現代皮膚科学大系 中山書店
- 2 皮膚科Mook（疾患毎に分冊となっている）金原出版
- 3 Rook/Wilkinson/Ebling: Textbook of Dermatology. Blackwell Scientific Publication.
- 4 Fitzpatrick et al: Dermatology in General Medicine. McGraw-Hill Book Co.
- 5 Lever/Schaunburg-Lever: Histopathology of the Skin. JB Lippincott Co.

いずれも皮膚科図書室にあり。その他最近の文献が知りたい場合には、皮膚科講義係に相談のこと。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		皮 膚 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/28	水	12:40～14:00	皮膚科総論Ⅰ	横関博雄	臨床講堂1 医科新棟地下1階
5/6	木	12:40～14:00	皮膚科総論Ⅱ	〃	〃
5/13	木	12:40～14:00	蕁麻疹・痒疹・紅皮症Ⅰ	佐藤貴浩	〃
5/20	木	12:40～14:00	蕁麻疹・痒疹・紅皮症Ⅱ ※	〃	〃
5/21	金	10:20～11:40	湿疹・皮膚炎群Ⅰ	横関博雄	〃
5/27	木	12:40～14:00	湿疹・皮膚炎群Ⅱ ※	〃	〃
5/28	金	10:20～11:40	薬物障害・光線過敏	(井川 健)	〃
6/10	木	12:40～14:00	循環障害・血管炎	西澤 綾	〃
6/11	金	10:20～11:40	角化症・炎症性角化症	高山かおる	〃
6/17	木	12:40～14:00	水疱症	佐藤貴浩	〃
6/18	金	10:20～11:40	母斑・良性腫瘍	(勝俣道夫)	〃
6/24	木	12:40～14:00	感染症Ⅰ	(加藤卓朗)	〃
6/25	金	10:20～11:40	感染症Ⅱ	(古井良彦)	〃
7/1	木	10:20～11:40	膠原病	沖山奈緒子	〃
7/2	金	10:20～11:40	皮膚悪性腫瘍	並木 剛	〃
7/8	木	12:40～14:00	附属器・美容	高山かおる	〃
7/12	月	8:50～10:10	皮膚科学試験		

※症例発表(プラカン)

○教育目標

I 緒言

泌尿器科学では、尿路系 (urinary tract) 疾患のみならず男性生殖器系 (male genital tract) の疾患を扱う。泌尿器科学はもともと外科学のうちの特殊専門分野として発展したものであるが、現在の泌尿器科学は単なる泌尿器性器外科 (genito urinary surgery) ではない。たとえば、腫瘍学、腎臓病学 (nephrology)、神経泌尿器科学、および内視鏡学も泌尿器科学の重要な領域であり、また男子性器系に関する生殖生理学、発生学、発育加齢などの問題に加え、生殖腺、上皮小体、副腎にかかわる臨床内分泌学をもその主たる領域としている。いいかえれば、泌尿器科学とは症例の病態生理を解明し、必要に応じて適切な外科的治療法をも行うという立場で尿路生殖器系の疾患を取り扱う臨床の専門分野である。

泌尿器科学におけるこのような発展脱皮は、一般医学の進歩に負うところが多いが、この分野は科学技術の進歩を高度に利用している。それだけに日常の検査法も極めて多岐にわたる。例えば各種のレ線検査法とか内視鏡的検査などの特殊な診断検査法の他に、細菌学的検査やホルモン測定をも含む内分泌学的検査も同じように必要であり、さらに腎機能検査或いは循環器や神経系の検査をも行い、これらと尿路疾患との関係をも究明しなくてはならないことが少なくない。

II 授業の目的と過程

1. 講義

泌尿器系および生殖器系におこる疾患の種類、その発生病理、頻度、症候論、診断検査法、治療法などについて医師として必要な一般的な基礎知識を修得してもらうと共に泌尿器科教室において経験した臨床例を示し、これを通じて、その症例の持つ症状、徴候のもつ意味を考察し、診断をつけるための検査の進め方、その疾患に対する治療法とその到達目標などにつき、学生自身が思考し、討論して臨床の場における帰納的思考法を身につけてもらう。

2. クリニカルクラークシップ I

泌尿器科学では尿路系疾患のみならず生殖器系疾患や膀胱・性機能障害など自律神経系疾患も扱うため、近接臓器との関係が大切である。そのため、泌尿器科の講義によって修得した知識・思考がクリニカルクラークシップ II、III で有機的に活用されることを目的として、5 年生の一学期に骨盤部疾患のクリニカルクラークシップ I を行う。これは、主に外科の直腸班、産婦人科、泌尿器科を中心に解剖学教室、放射線科とも協力して骨盤内臓器、生殖器、神経機能の疾患について、画像検査、機能検査を駆使して幅広い総合的な診断実習を目ざしている。

3. クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲ

まず、総論によって修得した泌尿器科学に関する概念的知識が個々の患者の診断治療にどのような思考過程で応用されているかを臨床講義により臨床例を通じて理解する。これらはいずれも疾患を主体にしたものであるが（disease-oriented）、臨床実習においては、学生自身が患者と直接に関わり合いをもつことにより、こうして修得した知識がどのようにして活用され得るかを自らの経験を通じて体得してもらう。すなわち、単に疾患を指向するのではなく、疾患をもち、これに悩む患者に対し、医師がどのような責任と役割を果たし得るかという患者指向（patient-oriented）の医療を自覚体得することがクリニカルクラークシップⅡ、Ⅲの目的である。

臨床実習の日程は実習手帳を参照されたい。

○授業の概要

4 年生前期 次の項目で授業を行う。

尿路の閉塞性疾患	1
尿路結石症、尿路感染症、先天異常	2
前立腺肥大症	1
腎癌	2
尿路上皮腫瘍	3
前立腺癌	3
精巣腫瘍	3
蓄排尿機能	3
内分泌疾患（副腎）	1
外傷、緊急疾患	1
性機能障害	1

授業はまず尿路閉塞における尿流うっ滞（stasis）を中心にコンセプトとして主要な尿路機能や病態生理を解説し、疾患への理解を深め、次に腫瘍学で勉強した基礎的な知識をもとに前立腺肥大症、腎癌、腎盂膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍について臨床に即した講義を行う。また、生理学で学んだ自律神経機能の知識を応用して蓄排尿機能を講義し、神経因性膀胱の臨床講義を行う。発生学で学んだ基礎知識を応用し性分化異常を含む泌尿器科的内分泌疾患について臨床講義を行う。

5 年生前期 クリニカルクラークシップⅠ

外科、泌尿器科、産婦人科、放射線科、解剖学教室などの協同で骨盤内臓器疾患について総合的、有機的に診断実習を行う。

5 年生前期～6 年生前期 クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲ

病室では病棟担当医に配置され、泌尿器科的思考過程を学び、診断治療技術についても実習する。

○教科書・参考書

General Urology 16th edition D.R.SMITH 著（丸善アジア版）2004

標準泌尿器科学（医学書院）2005

ベッドサイド泌尿器科学 診断・治療編、手術編（南江堂）2000

ミニマム創 内視鏡下泌尿器手術（医学書院）2002

イラストレイテッド ミニマム創内視鏡下泌尿器手術（医学書院）2007

新しい診断と治療のABC 45 腎癌・膀胱癌（最新医学社）

新しい診断と治療のABC 49 前立腺癌（最新医学社）

○成績評価の方法

- 1) 講義中に逐次小試験を行う。
- 2) クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲでは最終日にカンファレンスを行い、評点する。
- 3) 1)、2) の成績は講座試験の評点に際して参考資料とする。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		泌 尿 器 科 学			
年月日	曜 日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/23	水	14:10～15:30	蓄排尿機能	増田 均	臨床講堂1 医科新棟地下1階
6/29	火	14:10～15:30	尿路上皮腫瘍	古賀文隆	〃
6/30	水	14:10～15:30	〃	〃	〃
7/2	金	8:50～10:10	蓄排尿機能	増田 均	〃
7/7	水	12:40～14:00	前立腺癌	木原和徳	〃
7/9	金	10:20～11:40	腎癌	藤井靖久	〃
7/14	水	14:10～15:30	前立腺癌	木原和徳	〃
7/16	金	8:50～10:10	精巣癌	藤井靖久	〃
7/21	水	14:10～15:30	前立腺肥大症	齋藤一隆	〃
7/23	金	8:50～10:10	内分泌疾患(副腎)	岡田洋平	〃
7/27	火	14:10～15:30	尿路の閉塞性疾患	矢野晶大	〃
7/28	水	14:10～15:30	男性不妊症、性分化異常	(石坂和博)	〃
7/30	金	8:50～10:10	尿路結石症、尿路感染症、先天異常	岡田洋平	〃
9/3	金	8:50～10:10	泌尿器科学試験		

○教育目標

臨床各科の教育要領を検討するにあたり、眼科学においては、基礎医学において特に感覚器の一つとしての眼の生理学に関して十分な知識が習得せられていることが必要となる。

疾患知識については、具体的に主たる症状、臨床所見、原因及び病態生理、さらに治療法の概要の把握が必要である。

診断手技と治療手技は基本的な事項の習得を目標とする。

○授業の概要

1. 眼科疾患序論 眼科検査法概論
目の構造と仕組み、及び眼科検査に関するオリエンテーション
2. 屈折異常、斜視、弱視
屈折調節の異常と小児眼科（斜視、斜弱）
3. 眼瞼、結膜、涙器、強膜の疾患
外眼部疾患総説
4. 角膜疾患
角膜の生理と病態の解釈、角膜移植
5. 水晶体の疾患
水晶体の疾患、白内障の手術療法を含む
6. ぶどう膜の疾患
ぶどう膜炎を中心にぶどう膜の疾患を述べる
7. 黄斑部疾患、網膜変性疾患
黄斑部疾患、網膜変性疾患の総説と治療法の解説
8. 網膜・硝子体疾患、未熟児網膜症
網膜剥離の診断と治療、未熟児網膜症
9. 高血圧、眼底出血、糖尿病網膜症
高血圧性網膜症、眼底出血、糖尿病網膜症の診断と治療
10. 緑内障
緑内障の病態と治療、緑内障眼底所見
11. 眼外傷、救急疾患
眼科救急診療の実際を解説
12. 視神経疾患、視路疾患
視神経疾患、視路疾患、視野の測り方とその解釈
13. 眼窩疾患
眼窩疾患の解説

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		眼 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/27	火	10:20～11:40	眼科序論	望月 學	臨床講堂1 医科新棟地下1階
4/28	水	14:10～15:30	眼症候学	杉田 直	〃
5/6	木	14:10～15:30	眼科検査法概論	宮永 将	〃
5/13	木	14:10～15:30	斜視・弱視	田中明子	〃
5/18	火	10:20～11:40	小児眼科・未熟児眼	(東 範行)	〃
5/20	木	14:10～15:30	神経眼科	田中明子	〃
5/25	火	10:20～11:40	救急疾患・外傷	川口龍史	〃
5/27	木	14:10～15:30	屈折異常・調節障害	大野京子	〃
5/27	木	15:40～17:00	緑内障	(白土城照)	〃
6/10	木	14:10～15:30	白内障	高瀬 博	〃
6/11	金	14:10～15:30	角結膜疾患	(佐々木秀次)	〃
6/15	火	10:20～11:40	ぶどう膜炎	(渡邊俊樹)	〃
6/17	木	14:10～15:30	網膜血管病変・色覚	大野京子	〃
6/18	金	12:40～14:00	網膜剥離・糖尿病網膜症	菅本良治	〃
6/21	月	8:50～10:10	眼科学試験		

○教育目標

耳鼻咽喉科学は、重要な器官を多く内臓する頭頸部にあつて、耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭とその関連領域を扱う。この領域の特徴とされるものをあげてみると、およそ次のごとく要約することができる。

1. この領域は呼吸道と消化管の入口部であり外界との接点となっているので、病原性微生物その他の有害物質の侵入門戸となる機会が多く、感染性炎症が主体となった疾患がきわめて多い。また、それらは全身性疾患に発展したり関連したりすることも多い。
2. 脳神経の末梢部分と直接あるいは間接的につよい関連があり、神経障害症状の観察、解明とともに治療に関して関与することになる。
3. 自律神経とも、この領域に分布する知覚枝を介して深い関連を有する。
4. 聴覚、嗅覚、味覚を司どる感覚器と、身体平衡を司どる前庭平衡器を含み、また人間の社会生活に欠くことのできないコミュニケーション機構のinputとしての聴覚機構と、outputとしての音声と言語の生成機構を有する。
5. 扱う多くの器官は粘膜上皮でおおわれており、またそれらは硬い骨組織に囲まれているので、それらの病態の特殊性を理解して疾患を考えねばならない。
6. この領域の悪性腫瘍は全身のその約5%とされている。頻度としては特に高いとは言えないが、治癒の成否を左右する早期の時点では患者の多くは専門医を訪れないで、一般医あるいは内科、外科医を受診する。したがって早期診断の必ずしも容易でないこの疾患を早期に診断あるいは疑いをもち専門医に送ることが、予後の鍵をにぎることになる場合が多い。
7. 上気道の閉塞あるいは出血は瞬時にして生命をおびやかすことになるので、これらに対する救急処置の知識は医師全般にわたって不可欠である。
8. 発生学的にこの領域に奇形が生じ易い。
9. この領域の疾患の所見は直接あるいは器具を用いて比較的容易に肉眼で観察確認できることが多く、診断の重要な助けとなるので、その技術の習得は医師全般にわたって必要である。

講義割当時間数 (医学部4年)

1 時間20分×12回

○授業の概要

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 耳鼻咽喉科学概論 | 6. 口腔・咽頭、唾液腺疾患 |
| 2. 聴覚機構の臨床解剖と生理 | 7. 喉頭科学 |
| 3. 平衡機構の臨床解剖と生理 | 8. 音声・言語学 |
| 4. 耳疾患 (外耳、中耳、内耳、及び聴神経) | 9. 全身疾患と耳鼻咽喉科学 |
| 5. 鼻・副鼻腔疾患 | 10. 耳鼻咽喉科の救急疾患 |

○参考図書

1. 切替一郎原著、野村恭也編著「新耳鼻咽喉科学」南山堂 2004
2. 喜多村健、森山寛編「NEW耳鼻咽喉科・頭頸部外科学」南江堂 2007

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		耳 鼻 咽 喉 科 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
6/22	火	8:50～10:10	総論・耳科学1	喜多村健	臨床講堂1 医科新棟地下1階
6/23	水	10:20～11:40	耳科学2	野口佳裕	〃
7/5	月	12:40～14:00	耳科学3	伊藤 卓	〃
7/5	月	14:10～15:30	耳科学4	角田篤信	〃
7/12	月	14:10～15:30	救急疾患	角田篤信	〃
7/13	火	12:40～14:00	鼻科学1	神山亮介	〃
7/13	火	14:10～15:30	鼻科学2	野口佳裕	〃
7/20	火	12:40～14:00	口腔・唾液腺	有泉陽介	〃
7/20	火	14:10～15:30	喉頭1	伊藤 卓	〃
7/21	水	12:40～14:00	喉頭2	喜多村健	〃
7/26	月	10:20～11:40	鼻科学3	角田篤信	〃
7/27	火	12:40～14:00	咽頭全身疾患	大野十央	〃
9/13	月	8:50～10:10	耳鼻・頭頸部外科学試験		

○教育目標

1. 放射線医学は他の臨床各科の診療にも深く関連しており、教育内容の上では各科と重複する分野もある。放射線科では、放射線医学を単に装置の性能や便利さ、技術のみにとらわれずに、画像診断情報の総合的な利用法や治療における患者への対応の修得を目標としている。
2. 放射線医学は、放射線基礎医学（物理学、生物学、障害）、画像診断学、治療学に大別される。講義並びに臨床実習の細目は後述するが、診断学ではCTを含めたX線診断、インターベンション、超音波断層像、MRIならびに核医学の評価などの系統的な読影法、鑑別診断の進め方などを主として教育する。治療学（放射線腫瘍学）では放射線療法の意義、適応、方法などを教育し、放射線取り扱いに伴う障害とその防護については放射線基礎医学の中で教育する。

○授業の概要

講義時間は放射線基礎医学10%、診断学（超音波、インターベンション、CT、MRI、核医学を含む）70%、治療学20%の時間に配分され、また臨床実習の時間帯は診断学、治療学に配分されている。

なお、放射線科は他の臨床各科との密なる連携が不可欠であるので他科との合同講義（画像診断や腫瘍学）には積極的に参加するように努めている。

1) 放射線基礎医学

放射線を正しく利用するには放射線に関する基礎的事項の理解が必要である。これらの事項は一括して講義すると同時に、臨床系講義及び実習時間に織り込むようにする。

- ・ 診断及び治療に必要な放射線物理
- ・ 細胞及び組織の放射線生物学
- ・ 放射線障害とその防護

2) 診 断 学

イ) X線像（X線CT像を含む）の読影法の基礎、診断過程と鑑別診断に重点をおく。

- ・ 神経放射線
- ・ 頭頸部疾患
- ・ 心、肺、大血管など胸部疾患
- ・ 胆嚢、肝、脾を含む消化器疾患
- ・ 泌尿器系を含む腹部疾患
- ・ 骨、関節疾患

ロ) 超音波検査の実際と読影の基礎

ハ) MRI（Magnetic Resonance Imaging）と読影の基礎

ニ) Interventional Radiology

ホ) 核 医 学

R I 診療に関する基礎知識及び臨床的応用について一通りの知識を与える。

- ・ SPECT検査の基礎と臨床
- ・ PET・CT検査の基礎と臨床

3) 放射線治療学

放射線治療の基礎的概念、各疾患に対する治療の有意性、治療方法及び治療に伴う障害について見識を与える。

- ・ 頭頸部腫瘍（口腔癌、上顎洞癌、咽頭癌、喉頭癌など）の根治治療
- ・ 悪性リンパ腫など放射線にも抗癌剤にも感受性の高い腫瘍
- ・ 乳癌、前立腺癌などの小線源治療を含む根治治療
- ・ 放射線と化学療法との併用
- ・ 子宮・食道・胆道の高線量腔内照射治療

なお、臨床実習日程については臨床実習手帳を参照すること。修得目標は以下のごとくである。

- 1) 診断学：専門化された特殊撮影手技を短期間で修得することは卒前教育のレベルでは不可能と思われる。したがって画像診断の基礎的知識、各画像診断における正常像への理解を深めることを目標とする。またRI取り扱い上の注意、防護、管理及び測定法などについての理解を深める。
- 2) 治療学：学生に放射線治療機器を操作させたり、小線源を取り扱わせることは出来ない。このため根治疾患や姑息治療、癌放射線治療などについての広い知識の取得に努めることで十分と思われる。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		放 射 線 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/22	火	10:20～11:40	放射線医学 総論	渋谷 均	臨床講堂1 医科新棟地下1階
6/23	水	8:50～10:10	核医学 総論	久保田 一徳	〃
6/29	火	10:20～11:40	画像診断 総論	大橋 勇	〃
6/30	水	8:50～10:10	治療 総論	林 敬二	〃
7/6	火	10:20～11:40	画像診断 各論	大橋 勇	〃
7/6	火	12:40～14:00	放射線生物学	(坂本 澄彦)	〃
7/7	水	8:50～10:10	PET	牧野 朋子	〃
7/7	水	10:20～11:40	胸部画像診断	(齋田 幸久)	〃
7/13	火	10:20～11:40	神経放射線	(田嶋 緑)	〃
7/14	水	8:50～10:10	IVR	岸野 充浩	〃
7/20	火	10:20～11:40	治療 各論Ⅰ	吉村 亮一	〃
7/21	水	8:50～10:10	治療 各論Ⅱ	吉村 亮一	〃
7/26	月	8:50～10:10	放射線医学試験		

○教育目標

産科学と婦人科学の医学・医療における有機的な関連性に基づき、思春期より更年期・老年期までの一連の流れの中での女性の生理的・病的現象の系統的な理解を目標とする。思春期の発来から女性特有の月経周期が確立し性機能が成熟するまでの生殖内分泌、生殖年齢に達した後の受胎・妊娠・分娩・産褥を取り囲む生殖生理・周産期に関連した諸問題、成熟期より中高年にかけて発生する腫瘍学・感染症を中心とした婦人科疾患、そして更年期より老年期に移り特に近年注目される生殖臓器のagingなどについて、これらの病態、診療の実際と治療を主眼とする。そして今日広く受け入れられている基本的な病態・検査・診断・治療に加え、最近進歩の著しい情報やテクノロジー・新しい診断基準・最新の治療法などについても積極的に授業に導入する。

○授業の概要

授業は、系統講義、臨床講義と実習、クリニカルクラークシップよりなる。系統講義は生殖機能総論から始まり、月経周期とその障害・リプロダクションに関連した内容、とくに不妊症には重点を置き、体外受精・胚移植など新しいテクノロジー、子宮内膜症や多嚢胞性卵巣の病態・診断・治療も含まれる。次に、妊娠の成立から妊娠・分娩・産褥・新生児における周産期を、最近の母子管理法の進歩をトピックスに交えて学習する。次いで女性の臨床的な解剖・生理の特異性を理解するとともに婦人科腫瘍学を学び、近年長足の進歩を遂げている画像診断・生化学的診断そして化学療法の実際について、臨床の現場で生じる問題を反映した学習を目指す。これと同時に、婦人科感染症についても学習する。また加齢に伴う女性に特有の身体的・精神的な変化と症状障害についての理解を通じて、今後問題になる高齢化社会における医学への取組みを考える。授業内容を実際の症例を通じて体験的に理解する目的で、系統講義に加えて臨床講義や実習の時間をなるべく多く組み込み、またクリニカルクラークシップでは学生が自ら積極的に参加する自主性を重んじ、産婦人科臨床の理解を深めることを目指し、系統講義・臨床講義で得られた知識を基礎として、産婦人科外来患者および入院患者を対象に、問診、診断、治療の原則を習得する。分娩に立ち合って周産期医学を見学し、また手術の見学のみならず実際に手術に参加して、術前・術後の一連の流れを十分に学習する。プレクリニカルクラークシップにおいては腹部のセッションの中で、婦人科診療と腹部症状からみた婦人科的疾患の診断について小グループを対象としたクルズスと実習を行う。

○授業のキーワード

生殖内分泌、思春期、月経異常、排卵障害、機能性出血、不妊症、体外受精・胚移植、子宮内膜症、多嚢胞性卵巣、妊娠の成立、不育症、妊娠の生理、合併症妊娠、異常妊娠、

多胎妊娠、異常分娩、産褥の生理、新生児、周産期医学、胎児・胎盤系、妊娠中毒症、絨毛性疾患、婦人科腫瘍学、性器の形態、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣嚢腫、卵巣癌、卵管癌、外陰癌、画像診断、婦人科化学療法、婦人科感染症、加齢・更年期障害、骨粗鬆症、高脂血症

○教科書・参考書

書 名	著書名	発行所
産婦人科学書 1. 生殖医学	森 崇英他	金原出版
総合周産期医学	武田佳彦他	東京医学社
プリンシプル産婦人科学 産科編	坂元正一他	メディカルビュー社
標準産科婦人科学	丸尾猛 岡井崇編	医学書院
性腺疾患	井村裕夫他	中山書店
Human Biology(Third Edition)	Sylvia S.Mader	Wm.C.Brown Publishers
Comprehensive Endocrinology	Luciano Martini	Raven Press
Clinical Gynecologic Endocrinology and Infertility	E.L.Potter	Year Book Medical Publishers
Obstetrics Illustrated	Garrey	Churchill Livingstone
Operative Obstetrics	Leslie Iffy	McGray-Hill

○他科目との関連

周産期や思春期は新生児、NICU、小児科と、合併症を有する妊婦や手術症例の診断・治療については内科・外科、ERと関連が深い。画像診断では放射線科と、更年期障害では精神神経科や整形外科と密接な関係がある。

○成績評価の方法

講義に関しては講義への出席と筆答試験で、クリニカルクラークシップの評価は実習中の態度、技能、知識を中心に口答試験とレポートの内容によって行う。プレクリニカルクラークシップでは、カンファレンスでの出席状況を評価対象としている。

○受講上の注意

産婦人科の全体像を把握するように一連の講義・実習が組み立てられているので欠席をしないこと。学生が自主的に学習する態度を尊重するので、特にクリニカルクラークシップには積極的に参加すること。医学教育の必須条件として分娩に立ち合う機会をもつこと。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		産科・婦人科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/26	月	12:40～14:00	月経異常	久保田俊郎	臨床講堂1 医科新棟地下1階
4/28	水	15:40～17:00	不妊の診断と治療（1）	原田竜也	〃
4/30	金	8:50～10:10	不妊の診断と治療（2）	〃	〃
5/7	金	8:50～10:10	臨床講義①〔不妊症例〕	石川智則	〃
5/10	月	12:40～14:00	妊娠初期の異常（1）	寺内公一	〃
5/14	金	8:50～10:10	妊娠中～後期の異常（1）	桃原祥人	〃
5/17	月	12:40～14:00	妊娠中～後期の異常（2）	谷口義実	〃
5/21	金	8:50～10:10	分娩の機序・生理	宮坂尚幸	〃
5/24	月	12:40～14:00	分娩・産褥期の異常（1）	〃	〃
5/28	金	8:50～10:10	分娩・産褥期の異常（2）	〃	〃
6/11	金	8:50～10:10	臨床講義②〔妊娠症例〕	関口将軌	〃
6/14	月	14:10～15:30	婦人科腫瘍の診断と治療（1）	若林 晶	〃
6/17	木	15:40～17:00	婦人科腫瘍の診断と治療（2）	尾林 聡	〃
6/18	金	8:50～10:10	婦人科腫瘍の診断と治療（3）	（大塚伊佐夫）	〃
6/21	月	12:40～14:00	臨床講義③〔婦人科腫瘍症例〕	若林 晶	〃
6/25	金	8:50～10:10	臨床講義④〔婦人科腫瘍症例〕	吉木尚之	〃
6/28	月	8:50～10:10	産科・婦人科学試験		

○教育目標

従来、麻酔といえば、単に手術にともなう痛みをとり除くだけであると考えられていた。しかし、今日の麻酔学は患者を痛みから解放するにとどまらない。麻酔学は病態生理や薬理学などの広範な知識に裏づけされた全身管理学であり、さらに重篤な患者の全身管理や救急蘇生にも関与する分野である。

学生は、(1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬の薬物動態学と薬力学を理解する。(2) 麻酔に必要な解剖学、生理学とくに呼吸生理、循環生理、疼痛生理を理解する。(3) 内科疾患や外科疾患と麻酔の関連について理解する。

臨床実習については、指導教官と一緒に実際の麻酔に従事し、麻酔全般への理解を深める。術前の患者評価および評価によって得た重要事項に対する麻酔管理を実習することによって、いかにして安全な麻酔管理が行われるかを学習する。さらにペインクリニックでは、慢性疼痛を訴える患者の疼痛管理の実習を行う。

○授業の概要

専門課程講義項目

- (1) 麻酔科学概論
- (2) 吸入麻酔薬 (薬理、吸収と排泄)
- (3) 静脈麻酔薬
- (4) 筋弛緩薬と拮抗薬
- (5) 麻酔回路、気道確保法
- (6) 疼痛生理とペインクリニック
- (7) 局所麻酔薬と局所麻酔法 (神経ブロックなど)
- (8) 脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔
- (9) 小児麻酔、産科麻酔
- (10) 救急患者の麻酔

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		麻 酔・蘇 生 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
7/16	金	10:20～11:40	麻酔科学概論	槇田浩史	臨床講堂1 医科新棟地下1階
7/21	水	10:20～11:40	吸入麻酔薬(薬理, 吸収と排泄)	中澤弘一	〃
7/22	木	10:20～11:40	静脈麻酔薬	内田篤治郎	〃
7/23	金	10:20～11:40	筋弛緩薬と拮抗薬	〃	〃
7/28	水	10:20～11:40	麻酔回路・気道確保法	中澤弘一	〃
7/29	木	10:20～11:40	疼痛生理とペインクリニック	舩田昭夫	〃
7/30	金	10:20～11:40	局所麻酔薬と局所麻酔法(神経ブロックなど)	〃	〃
9/1	水	10:20～11:40	脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔	(大島 勉)	〃
9/2	木	10:20～11:40	小児麻酔・産科麻酔	石川晴士	〃
9/3	金	10:20～11:40	救急患者の麻酔	槇田浩史	〃
9/6	月	8:50～10:10	麻酔・蘇生学試験		

○教育目標

口腔は消化管ならびに気道の入口で、咀嚼、嚥下、味覚等の機能や構音、発語機能などを司っており、社会生活においても欠くことのできない重要な器官である。口腔諸組織の疾患は快適な生活を送るためにも他の疾患同様早期に発見し治療されなければならないことは云うまでもない。齲蝕と歯周疾患は罹患率が高く、わが国では歯を喪失する原因の二大疾患であり、約90%がこれらの疾患によって歯が失われている。また歯に直接関連する疾患以外にも、炎症、腫瘍、外傷、先天性疾患など、口腔には多種多様の疾患が発生することによって現在のような高齢化社会にあっては健康を維持するうえでその予防と機能回復のための治療はきわめて重要である。そこで口腔外科学の講義では歯科学を含む口腔科学について診断と治療の基本的な知識を習得し、また口腔領域で必要とされる診察手技および診断法、さらに口腔疾患と全身との関係、あるいは全身的疾患の発症の場としての口腔所見の見方などの点について学習する。

口腔疾患の特徴は比較的視診の行いやすい部位であり、齲蝕や歯周疾患をはじめ歯肉癌、舌癌などの口腔癌にいたるまでその診察法と治療の知識は医師にとって健康管理の第一歩と云っても過言ではない。

○教科書・参考書

- ・最新口腔外科学 第4版 医歯薬出版 1999年
- ・標準口腔外科学 第3版 医学書院 2004年
- ・口腔顎顔面外科治療学 永末書店 1996年

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		口 腔 外 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
8/30	月	10:20～11:40	口腔顎顔面の腫瘍	天笠光雄	臨床講堂1 医科新棟地下1階
8/31	火	8:50～10:10	口腔顎顔面の外傷	山城正司	〃
9/1	水	8:50～10:10	口腔顎顔面の先天性疾患と顎顔面変形症	吉増秀實	〃
9/6	月	10:20～11:40	歯・歯周疾患と炎症性疾患	生田 稔	〃
9/7	火	8:50～10:10	口腔顎顔面の嚢胞および歯原性腫瘍	小村 健	〃
9/8	水	8:50～10:10	口腔粘膜疾患	樺沢勇司	〃
9/9	木	10:20～11:40	顎関節疾患	木野孔司	〃
9/15	水	8:50～10:10	口腔外科学試験	小村・天笠	

○教育目標

すべての臨床分野は、救急疾患を含んでおり、救急医療はすべての臨床分野の集合体である。原因疾患の如何を問わず、緊急の生命維持、重篤な病態への対応は共通であり、この分野を救命救急医学は担当する。生命の危機に瀕した重症病態の解明、その治療手技に関して、発想の原点はどこにあるか、豊かな発想を絶やさないようにするにはどうすべきか、臨床医として患者にどのように接すべきか、それはどのような病態生理学的背景に基づいているか、これらの考え方の筋道を討論し、学生諸君の積極的意欲を刺激することを目的とする。

○授業の概要

- (1) 講義緊急の生命維持療法の基礎知識の習得と、その理論的背景を討論する。講義内容の細目は別に示す。
- (2) プレクリニカルクラークシップ
救急蘇生法の診断と実習
- (3) クリニカルクラークシップ
ER実習、ER-ICU/HCU実習、ICU実習

○授業のキーワード

救急蘇生法、救急診断、外傷初療、心肺停止、モニタリング、呼吸管理、人工呼吸法、循環管理、体液・電解質・酸塩基平衡、栄養管理、血液浄化療法、脳低温療法、高気圧酸素療法、侵襲と生体反応、敗血症、DIC、災害医学、トリアージ、臓器不全、ショック、多発外傷、熱傷、体温異常、急性中毒

○教科書・参考書

標準救急医学第四版 日本救急医学会監修 二〇〇八年

医学書院救急集中治療部ケースファイルズ 今井孝祐編集 2006年 克誠堂出版

改訂外傷初期診療ガイドライン JATEC日本外傷学会・日本救急医学会監修 2004年 へるす出版

集中治療医学 日本集中治療医学会編集 2001年 秀潤社

Fundamental Critical Care Support Course Syllabus Society of Critical Care Medicine 1996

Irwin and Rappe's Intensive Care Medicine, Fifth Edition Lippincott Williams & Wilkins, 2003

Introduction to Emergency medicine Elizabeth L Mitchell, Ron Medzon, Lippincott, 2005

○他科目との関連

呼吸、循環をはじめとして生命に必須の機能障害は、単一臓器障害ではとらえることができず、臨床全科と関連する病態生理であり、救急医学はその総論部分を扱う。

○成績評価の方法

系統講義に関しては、筆記試験でその理解度、修得度を問い、講義毎に小試験を行うこともある。実習に際しては、受け持ち患者に関するレポートの提出を求める。

クリニカルクラークシップの評価点（30点満点）と卒業試験（70点満点）を合わせて成績評価を行う。

○受講上の注意

学生諸君に対して、手取り足取りの教育はありえない。学生諸君の意欲を刺激するので、積極的に掴みとっていく姿勢を期待したい。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		救 急 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/12	月	12:40～14:00	心肺脳蘇生法	大友康裕	臨床講堂1 医科新棟地下1階
7/15	木	12:40～14:00	ショック	相星淳一	〃
7/22	木	12:40～14:00	外傷初療	大友康裕	〃
7/28	水	12:40～14:00	外傷各論	加地正人	〃
7/29	木	12:40～14:00	救急領域における輸液、救急プライマリケア	磯谷栄二	〃
7/29	木	14:10～15:30	急性中毒、血液浄化法	庄古知久	〃
9/1	水	12:40～14:00	急性呼吸不全/人工呼吸法	三高千恵子	〃
9/2	木	12:40～14:00	敗血症/多臓器不全	三高千恵子	〃
9/9	木	12:40～14:00	災害医学概論	大友康裕	〃
9/9	木	14:10～15:30	災害医療机上シミュレーション	大友康裕	〃
9/10	金	12:40～14:00	救急領域における感染症、体温異常他	登坂直規	〃
9/17	金	8:50～10:10	救急医学試験		

○教育目標

形成外科学とは、主として体表の、先天的または後天的機能障害・形成異常に対して、機能回復をはかるとともに、より形態を重視して修復する外科学の一分野である。また、体表外傷や熱傷に対するプライマリーケアを担当する、外科系診療科の基本となる診療科である。

形成外科は、対象とする臓器が特定されておらず、学生にとっては勉強し難いのが問題点であるが、授業では形成外科の定義にはじまり、形成外科の対象となる疾患や病態、及び形成外科の基本手技（切縫、植皮、皮弁、その他の組織移植）を述べ、他の外科系各科と相違点や必要性、他科との連携を含めた病院内での位置づけを理解してもらう。さらに、現在の形成外科での未解決点、研究課題をトピック的に挙げ、形成外科に対する興味を深めてもらう。

学習目標として次下の項目があげられる。

- 1：形成外科の意味あい・歴史的背景を知り、社会的必要性を理解する。
- 2：形成外科の対象となる疾患や病態を認識し、他科とのチーム医療、病院内での位置づけを理解する。
- 3：形成外科の基本手技（皮膚切開・縫合、組織の愛護的取扱い、植皮、皮弁、その他の組織移植）における手技を理解し、その結果、どこまで機能的、整容的に修復できるかを知る。
- 4：形成外科における現時点での未解決点、研究課題を知る。
- 5：生体組織に代用できる人工物質について認識し、将来における代用組織開発への洞察力を養う。

修得すべき知識・技術に関する目標として次下の項目があげられる。

- 1：形成外科とは何であるか、どうして必要であるかを説明できる。
- 2：形成外科の対象となる疾患や病態を理解し、他科の医師と連携して適切な対応がとれる。
- 3：診療に対する基本姿勢、心理的側面（醜形恐怖症、先天性異常）、インフォームド・コンセントの必要性を理解して行動できる。
- 4：形成外科の基本手技による組織の愛護的な取扱い、縫合糸や器具の選択・使用法、どのような手技が適切かを論理的に述べることができる。
- 5：創傷治癒について、その機序と、治療の原則について述べることができる。

○授業の概要

1. 総論

- ・定義・歴史：形成外科の定義とその歴史背景について
- ・創傷治癒
- ・基本手技：皮膚切開、縫合、植皮、皮弁、その他の組織移植
- ・応用手技：骨切り術、マイクロサージェリー、ティッシュエクspander、レーザー、内視鏡

2. 顔面領域の構造と外傷

- ・顔面軟部組織の損傷、顔面骨骨折、顔面神経麻痺

3. 腫瘍切除後の再建

- ・頭頸部癌切除後再建、乳癌術後乳房再建、その他整形外科・産婦人科領域の主要切除後の再建など

4. 顔面・頭部領域の先天性異常、美容外科

- ・先天性頭蓋・顔面異常、口唇・口蓋裂、外鼻異常、耳介異常など 美容的形成術

5. 手足・体幹の先天性異常と外傷

- ・臍ヘルニア、漏斗胸、多指（趾）、合指（趾）、腱切断、手指などの切断

6. 形成外科におけるリサーチ

- ・基礎研究、臨床研究

7. 熱傷の治療と瘢痕・ケロイド

- ・新鮮熱傷、熱傷瘢痕、ケロイド、肥厚性瘢痕

8. 褥瘡と難治性潰瘍

- ・褥瘡、末梢動脈疾患、糖尿病性足病変、放射線皮膚障害

○授業のキーワード

授業の概要の項目参照

○教科書・参考書

- ・標準形成外科学第5版 秦維郎他編 医学書院 2008
- ・Grabb and Smith's Plastic Surgery 6th ed Charles H. M Little Brown 2007

○他科目との関連

形成外科では、対象とする臓器が特定されておらず、疾患・病態は多岐にわたり、患者もすべての年代に及ぶ。また、形成外科単科によって成り立つものではなく、関連各科との密接な連携によるチーム医療が必要となることが少なくない。具体的には小児先天異常は小児科と、また腫瘍切除後の再建では、耳鼻科・頭頸科、口腔外科、婦人科、整形外科、一般外科などと関連が深い。

○成績評価の方法

筆記試験または口頭試験及び授業態度、臨床実習での評価から総合的に判定する。

○受講上の注意

形成外科は、「付加価値の科」、「プラスαの科」とであるという間違った認識を改める必要がある。それは、形成外科の一面でしかない。創傷治癒、組織の修復、切開・縫合法、組織の愛護的扱い方、外傷や熱傷に対するプライマリケアなど、将来どの科に進むにしても医者としての必須事項を扱う、外科系診療の最も基本となる診療科であることを再認識しながら受講してほしい。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		形 成 外 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/8	木	14:10～15:30	形成外科総論 ①定義・歴史②創傷治癒③基本手技④応用手技	森 弘樹	臨床講堂1 医科新棟地下1階
7/9	金	12:40～14:00	顔面領域の構造と外傷	岡崎 睦	〃
7/14	水	10:20～11:40	腫瘍切除後の再建	岡崎 睦	〃
7/15	木	10:20～11:40	顔面・頭部領域の先天異常、美容外科	森 弘樹	〃
7/22	木	14:10～15:30	手足・体幹の先天異常と外傷	森 弘樹	〃
7/27	火	10:20～11:40	形成外科におけるリサーチ	岡崎 睦	〃
8/31	火	10:20～11:40	熱傷の治療と瘢痕・ケロイド	安永能周	〃
9/2	木	14:10～15:30	褥創と難治性潰瘍	田中顕太郎	〃
9/10	金	8:50～10:10	形成外科学試験		

○教育目標

頭頸部外科学は頭蓋顔面および頸部を取り扱う。ただし、通常は頭蓋内は脳外科、眼窩内は眼科の範疇となる。従来この領域は、主として耳鼻咽喉科医、一部を一般外科医が担当していた。本講座は大学の講座としては本邦で初めて本学において誕生したものである。

頭頸部領域の外科全般が担当となるが、中でも悪性腫瘍が主となる。頭頸部がんは、UICC分類(2002)によれば対象となる原発部位は、1)口唇、口腔、2)咽頭(上咽頭、中咽頭、下咽頭)、3)喉頭、4)鼻副鼻腔、5)唾液腺、6)甲状腺となっている。

しかしこれ以外にも、中耳、外耳の悪性腫瘍、悪性リンパ腫、軟部組織の悪性腫瘍、頸部への転移がんなども対象となる。それぞれに臨床像は異なり、治療法も各部位ごとに異なっている。

頭頸部領域は、音声言語、呼吸、咀嚼、嚥下、気道の空調、嗅覚、味覚、聴覚平衡覚など、種々の機能を受け持つ器官を有する。これらの機能は、人が生きていくために最低限必要な機能、あるいは社会生活上重要な機能である。また、顔面は審美上重要である。頭頸部がんの治療に際しては、これらの機能および形態を考慮し、頭頸部外科医を中心とし、放射線治療医、形成外科医、脳神経外科医、化学療法内科医、臨床病理医、歯科医など多くの専門医の参加による集学的治療が行われる。

卒前教育においては以上のような頭頸部の特徴を理解し、各部位、種々の組織型、さらには個々の症例の病態に応じた治療法の選択と、そこに至る診断手順などにつき学ぶ。

○授業の概要

1. 系統講義、クリニカルクラークシップよりなる。
2. 系統講義は第4学年に計8回行われる。

頭頸部外科学各論

- 1) 総論・聴器、上咽頭・鼻副鼻腔・頭蓋底
- 2) 喉頭、下咽頭
- 3) 口腔、中咽頭、唾液腺
- 4) 気管食道・甲状腺・頸部
- 5) 放射線治療
- 6) 頭頸部・頭蓋底再建の現状と課題
- 7) 臨床病状から診た頭頸部癌
- 8) 癌専門病院における頭頸部癌治療の現況

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		頭頸部外科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/28	水	8:50～10:10	総論・聴器・鼻副鼻腔・上咽頭・頭蓋底	岸本誠司	臨床講堂1 医科新棟地下1階
8/30	月	12:40～14:00	中咽頭・口腔・唾液腺	杉本太郎	〃
8/31	火	12:40～14:00	臨床病状から診た頭頸部癌	(西 崑 渡)	〃
9/6	月	14:10～15:30	頭頸部・頭蓋底再建の現状と課題	矢野智之	〃
9/7	火	12:40～14:00	癌専門病院における頭頸部癌治療の現状	(川端一嘉)	〃
9/8	水	10:20～11:40	喉頭・下咽頭	石川紀彦	〃
9/8	水	12:40～14:00	放射線治療	渋谷均	〃
9/10	金	10:20～11:40	甲状腺・気管食道・頸部	有泉陽介	〃
9/13	月	8:50～10:10	耳鼻・頭頸部外科学試験		

○教育目標

現代の高度化、専門化された医療においては、とかく患者の身体的側面に治療の重点が置かれる傾向にある。しかし、そもそも患者は心身両面を兼ね備えた個体であり、たとえ身体疾患患者であっても、何らかの精神的あるいは心理的問題を抱えていることが多い。したがって、臨床現場においては、どんな患者に対しても全人的、総合的医療が求められており、今後ますますこうした考え方に基づいた治療が必要になってくる。本科では、こうした全人的医療の意義を学ぶことと同時に、実践での対応能力を習得できるよう指導することを目標とする。

○授業の概要

全人的医療という立場から、身体疾患であっても患者の心理的、社会的側面を理解し、診療にあたることを教授する。心身医療においては、各種身体疾患にみられる精神症状への対応を中心に、コンサルテーション・リエゾン精神医学の意義を指導し、身体各科においてみられる様々な精神的問題について包括的に診断・治療できるように教育する。また、とくに終末期患者の身体的および精神的な苦痛を緩和し、患者のQOLを向上させるための実践的な知識を習得できるよう教育する。

○授業のキーワード

コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和医療、サイコオンコロジー

○教科書・参考書

コンサルテーション・リエゾン精神医学 メディカルサイエンス・インターナショナル (2002)
精神科MOOK27コンサルテーション・リエゾン精神医学 金原出版 (1991)
臨床精神医学講座17リエゾン精神医学・精神科救急医療 中山書店 (1999)
Oxford Textbook of Palliative Medicine Oxford University Press (1998)
Cancer Pain Management Newton (1997)
Topics in Palliative Care vol.1 Oxford University Press (1997)
Palliative medicine: A case-based manual Oxford University Press (1998)
緩和ケアマニュアル 最新医学社 (2001)
末期癌患者の診療マニュアル (第2版) 医学書院 (1991)
Psycho-oncology Oxford University Press (1998)
真実を伝える 診断と治療社 (2000)
WM臨床研修サバイバルガイド 精神科 メディカル・サイエンス・インターナショナル (2005)
がん医療におけるコミュニケーション・スキル悪い知らせをどう伝えるか 医学書院 (2007)

○他科目との関連

本科の性格上、臨床他科との関連なくしては成り立たず、各科目についての幅広い知識と理解が必要である。

○成績評価の方法

定期試験による。授業後に随時、小試験を実施する。

○受講上の注意

本講義の授業は、卒後研修ひいては各科臨床の場で必要不可欠な内容になっており、積極的に聴講する姿勢をもってほしい。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		心療・ターミナル医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/24	木	14:10～15:30	緩和医療1:緩和医療における精神面のケア	松島英介	臨床講堂1 医科新棟地下1階
6/28	月	14:10～15:30	緩和医療2:緩和医療における社会的苦痛とスピリチュアルな痛み	〃	〃
7/6	火	14:10～15:30	リエゾン精神医学1	織田健司	〃
7/7	水	14:10～15:30	緩和医療3:緩和医療における身体症状コントロール	(太田克也)	〃
7/15	木	14:10～15:30	リエゾン精神医学2	(永井英明)	〃
7/20	火	8:50～10:10	精神・心療試験		

○教育目標

臨床検査の意義、目的、内容を理解し、検査計画の立案、検査結果の解釈、応用ができる能力を習得する。

○授業の概要

臨床検査医学総論で臨床検査の意義、目的、内容を解説する。ついで臨床検査医学各論で、尿・便検査、血液検査、血液生化学検査、免疫血清検査、病原微生物検査、染色体・遺伝子検査の内容、検査結果の解釈、応用について解説する。具体的な臨床例を上げて、検査結果を解釈する演習も行う。

○授業のキーワード

臨床検査、尿検査、便検査、血液学的検査、血液生化学検査、免疫血清検査、病原微生物検査、染色体検査、遺伝子検査

○教科書・参考書

奈良信雄編：ベストアプローチ臨床検査ガイド、中外医学社、2006年

奈良信雄編：臨床研修イラストレイテッド第3巻「診察と検査」、羊土社、2004年

猪狩淳、中原一彦編：標準臨床検査医学、医学書院、2006年

熊坂一成、猪狩淳、伊藤紘一、奈良信雄編：Reversed CPCによる臨床検査データ読み方トレーニング、日本医事新報社、vol 1 2001年、vol2 2005年

奈良信雄、三宅一徳、山田俊幸、矢内充編：Reversed CPCによる臨床検査データ読み方トレーニング、日本医事新報社、vol 3 2008年

奈良信雄監訳：ウイントローブ臨床血液学アトラス、メディカル・サイエンス・インタナショナル、2008年

奈良信雄編：疾患からまとめた病態生理 FIRST AID、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2007年

奈良信雄著：臨床検査小事典、中外医学社、2002年

○他科目との関連

臨床全科、基礎医学（とくに生理学、生化学、微生物学、病理学）

○成績評価の方法

授業終了後に筆記試験を行う。

○成績評価の方法

定期試験による。

○受講上の注意

臨床検査の意義、検査値の解釈などは学生自身で考察することが望ましい。このためにも教科書、参考書をよく読んで理解を深めておくこと。また、基礎医学、臨床医学のすべてと関連するので、他科目の知識を応用すること。

平成22年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		臨床検査医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/28	水	10:20～11:40	検査医学総論, 尿・便・髄液検査	奈良信雄	臨床講堂1 医科新棟地下1階
5/6	木	10:20～11:40	血液検査	東田修二	〃
5/11	火	10:20～11:40	免疫血清検査	(佐藤和人)	〃
5/12	水	10:20～11:40	血液生化学検査	奈良信雄	〃
5/13	木	10:20～11:40	感染症検査	(松本哲哉)	〃
5/17	月	8:50～10:10	臨床検査医学試験	奈良信雄 東田修二	

授 業 概 要

(第 5 学年)

平成22年度医学科第5学年「東洋医学」,「先端医学」,「基礎臨床総合講義」授業内容

5 学 年 後	年 期	東 洋 医 学	(臨床関連講義)		
年月日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
11/26	金	18:00～19:00	1. 病態観(病因病機)、治療概念(予防と治療の原則)と東洋医学的治療の実 際 1 (臨床例①メタボリック症候群 ②がん ③慢性疼痛)	(西元慶治)	症例検討室 病院 5 階
12/ 3	金	18:00～19:00	治療手段 1 (生薬の炮製と製剤及び薬性理論)と東洋医学的 治療の実際 2	別府正志	〃
12/10	金	18:00～19:00	治療手段 2 (方剤と治法、方剤の分類、方剤の組成)と東洋 医学的治療の実際 4	別府正志	〃
12/17	金	18:00～19:00	東洋医学的治療の実際 2 月経前症候群の漢方治療	(頼 建守)	〃

5 学 年 後	年 期	先 端 医 学			
年月日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
12/24	金	18:00～19:00	(未定)	赤澤智宏	症例検討室 病院 5 階
1/ 7	金	18:00～19:00	(未定)	稲瀬直彦	〃
1/14	金	18:00～19:00	(未定)	大久保憲一	〃
1/21	金	18:00～19:00	(未定)	橋木俊聡	〃
1/28	金	18:00～19:00	(未定)	西村栄美	〃
2/ 4	金	18:00～19:00	(未定)	(未定)	〃

5 学 年 後	年 期	基 礎 臨 床 総 合 講 義			
年月日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
2/18	金	18:00～19:00	リスクコミュニケーションとしての医療面接	大川 淳	症例検討室 病院 5 階
2/25	金	18:00～19:00	EBMの実践 論文の読み方・使い方(治療編)	(能登 洋)	〃
3/ 4	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方(基礎知識)	田中雄二郎	〃
3/11	金	18:00～19:00	基礎研究者の道	(未定)	〃
3/18	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方(初期・後期臨床研修)	田中雄二郎	〃
3/25	金	18:00～19:00	キャリア形成の考え方(大学院・海外留学)	田中雄二郎	〃

※ 講義はイブニング・セミナーの枠を使用して実施する。

※ テーマや担当教員が決まり次第、Blackboardで随時連絡する。

學生周知事項

学生周知事項

1. 連絡・通知

すべての告示、通知、連絡（試験関係、休講、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等）は、掲示により行います。

掲示板には逐次新しい掲示をするので、1日に一回は掲示を確認するよう心がけ、見落として不利益を被らないよう十分注意してください。（I期棟2階講義室1の前）

2. 電話等による学生の呼び出し

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合以外には行わないので、各関係者に説明しておいてください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。

入学時に交付したものを6年間使用しますので、紛失や破損等しないよう大切に取扱ってください。

なお、学生証は、定期試験受験時や通学定期券の購入時に提示を求められたら速やかに提示できるよう、常に携帯してください。

（1）再交付手続

学生証を紛失または破損した場合は、学務企画課に申し出て、再交付の手続きをとってください。また、再交付の申請を行う場合は、再交付にかかる実費を徴収しますので注意してください。

（2）返却

卒業、退学または除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課へ返却してください。なお、返却できない場合は、再交付時と同様に実費を徴収しますので注意してください。

4. 証明書等

証明書等は、教務課にて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

（1）教務課（受付時間 8：30～17：15）

次に掲げるものは、教務課で発行しますので証明書交付願を提出してください。

（交付は④を除き原則として交付願を受理した日の明後日となります。）

①成績証明書

②卒業見込証明書（第6学年在籍者のみ。）

③調査書

④英文の在学証明書（交付に1週間程度要します。）

⑤通学証明書（交通機関から請求された場合に限る。）

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。

(2) 自動発行機（利用時間 8：30～18：00）

在学証明書は、学生談話室（5号館3階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。

（問い合わせ先）学務企画課（内線5074）

5. 学生旅客運賃割引証（学割証）

(1) 学生が課外活動や帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道100kmを超えるときに旅客運賃の割引（2割）受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするもので、計画的に使用すること。（年間使用限度は1人10枚、1回につき2枚までです。）

(2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を徴収されるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用または不正使用のないよう注意してください。

①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき。

②名義人が乗車券を購入し、それを他人に使用させたとき。

③使用有効期間を経過したものを使用したとき。

(3) 学割証は、学生談話室（5号館3階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（利用時間 8：30～21：00）

（問い合わせ先）学生支援課（内線5077）

6. 氏名・住所等の変更

本人または正副保証人の氏名または住所等（電話番号を含む。）に変更が生じた場合は、速やかに教務課へ申し出て所定の手続きをとってください。

この手続きを怠った場合、大学から本人または保証人へ緊急に連絡する必要性が生じて、連絡が取れなくなる恐れがあるので注意してください。

7. 欠席、休学、復学、退学

(1) 授業の欠席

病気または家庭の事情等で授業を欠席する（した）場合は、欠席届を教務課へ提出してください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

(2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

なお、休学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、休学事由および休学によって生じる修学上の諸問題について十分相談してください。

また、休学を許可される期間は、通算して2年以内です。

（特別の事情があるときは、更に1年以内の休学が許可されることがあります。）

(3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付してください。）

(4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。

なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談してください。

8. ロッカーの貸与

各人にロッカーを貸与します。

ロッカーでの盗難が多発していますので、貴重品等の管理は厳重にしてください。

また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状に復してください。

9. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学賠）の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

なお、針刺し事故（B型・C型肝炎）が起こった場合は、教務課医学教務掛（内線5120）へ連絡のうえ指示を受けた後、事故報告書を提出してください。

他人に対する針刺し事故については、上記の「医学賠」保険の対象となります。

10. 遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

(1) 講義室、実習室、ロッカー室・・・学務部教務課（内線5120）

(2) 上記（1）以外・・・医学部総務課（内線5096）

11. その他

(1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにお願いします。

(2) 事務の窓口

教務事務・・・学務部教務課医学教務掛（I期棟3階・内線5120）

授業料の納入・・・財務部資金課収入管理掛（1号館1階・内線5048）

奨学金・授業料免除・・・学務部学生支援課学生支援総括掛（I期棟3階・内線5077）

東京医科歯科大学医学部試験規則

平成16年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年制定。以下「履修規則」という。）

第11条第3項に基づき、医学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

(試験の種類)

第2条 試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口頭試験、実地試験のいずれかによって行う。

(定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

2 定期試験は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。

3 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 定期試験を受験することのできる者は、次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実 習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

(3) 医学科第6学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が60点以上の者

臨床解剖学、臨床関連講義、CPE、先端医学、基礎臨床総合講義

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(科目試験)

第5条 科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第4項第1号、第2号及び第5項のとおりとする。

(共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいい、当分の間医学科において行う。

2 CBT、OSCEは第5学年の臨床実習(特)終了後に行う。

3 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 共用試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

(1) CBT 臨床実習(特)を終了した者

(2) OSCE 臨床実習(特)を終了した者

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。

2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後5日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。

3 医学部長は、前項の申請について担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。

4 試験の結果は、合否をもって公示する。

(再試験)

第8条 再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

2 再試験の時期は、次のとおりとする。

(1) 医 学 科 定期試験 第6学年の学年末

科目試験 原則として第3学年は学年末、第4学年は12月

共用試験 CBT、OSCEは第5学年の夏季休業中

(2) 保健衛生学科 原則として、回目の定期試験期間及び第4学年の学年末

3 再試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の7日前までに医学部長に願い出なければならない。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(学習の評価)

第9条 定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第11条第1項ただし書きによる成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、次のとおり学習の評価を行う。

成績区分	評価区分	単位認定
100～80点	優	合格
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

2 再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし、成績は、60点を上限とする。

3 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。

4 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

5 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

(成績の報告)

第10条 担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に

採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

- 2 医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

(罰則)

- 第11条 試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

- 第12条 この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらずなお従前の例による。

東京医科歯科大学学則（抜粋）

第58条 学長は、学生が本学の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為をしたときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、これを懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学、訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者
- (3) 学内の秩序を著しく乱し、その他学生の本分に著しく反した者

平成 22 年 度

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
4					1	2	3							1	2	
	4	5	6	7	8	9	10		3	4	5	6	7	8	9	
	11	12	13	14	15	16	17		10	⑪	12	13	14	15	16	
	18	19	20	21	22	23	24		17	18	19	20	21	22	23	
	25	26	27	28	㉓	30		24	25	26	27	28	29	30		
								31								
5						1					1	2	③	4	5	6
	2	③	④	⑤	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13	
	9	10	11	12	13	14	15		14	15	16	17	18	19	20	
	16	17	18	19	20	21	22		21	22	㉓	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	29		28	29	30					
	30	31														
6				1	2	3	4	5					1	2	3	4
	6	7	8	9	10	11	12		5	6	7	8	9	10	11	
	13	14	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	18	
	20	21	22	23	24	25	26		19	20	21	22	㉓	24	25	
	27	28	29	30					26	27	28	29	30	31		
7					1	2	3								①	
	4	5	6	7	8	9	10		2	3	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	16	17		9	⑩	11	12	13	14	15	
	18	⑱	20	21	22	23	24		16	17	18	19	20	21	22	
	25	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	
								30	31							
8		1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4	5
	8	9	10	11	12	13	14		6	7	8	9	10	⑪	12	
	15	16	17	18	19	20	21		13	14	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	27	28		20	21	22	23	24	25	26	
	29	30	31						27	28						
9				1	2	3	4					1	2	3	4	5
	5	6	7	8	9	10	11		6	7	8	9	10	11	12	
	12	13	14	15	16	17	18		13	14	15	16	17	18	19	
	19	⑳	21	22	㉓	24	25		20	21	22	23	24	25	26	
	26	27	28	29	30				27	28	29	30	31			

※春分の日、秋分の日は未定

平成 23 年度

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
4						1	2								1	
	3	4	5	6	7	8	9		2	3	4	5	6	7	8	
	10	11	12	13	14	15	16		9	⑩	11	12	13	14	15	
	17	18	19	20	21	22	23		16	17	18	19	20	21	22	
	24	25	26	27	28	㉑	30		23	24	25	26	27	28	29	
								30	31							
5		1	2	③	④	⑤	6	7				1	2	③	4	5
	8	9	10	11	12	13	14		6	7	8	9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	20	21		13	14	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	27	28		20	21	22	㉓	24	25	26	
	29	30	31						27	28	29	30				
6					1	2	3	4					1	2	3	
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18		11	12	13	14	15	16	17	
	19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	㉕	24	
	26	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	
7						1	2		①	②	3	4	5	6	7	
	3	4	5	6	7	8	9		8	⑨	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16		15	16	17	18	19	20	21	
	17	⑱	19	20	21	22	23		22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30		29	30	31					
							31									
8			1	2	3	4	5	6					1	2	3	4
	7	8	9	10	11	12	13		5	6	7	8	9	10	⑪	
	14	15	16	17	18	19	20		12	13	14	15	16	17	18	
	21	22	23	24	25	26	27		19	20	21	22	23	24	25	
	28	29	30	31					26	27	28	29				
9					1	2	3						1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10		4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17		11	12	13	14	15	16	17	
	18	⑲	20	21	22	㉗	24		18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30			25	26	27	28	29	30	31	

※春分の日、秋分の日は未定

湯島キャンパス案内

